



United Nations  
Educational, Scientific and  
Cultural Organization

City of Design  
KOBE 

Member of the UNESCO  
Creative Cities Network  
since 2008

# BE KOBE

# 神戸 2020 ビジョン 〔第3版〕

令和 2 年 3 月

神 戸 市



## 神戸2020ビジョン策定にあたって



このたび、2016年度（平成28年度）から2020年度（平成32年度）までを目標年次とする「神戸2020ビジョン」を策定いたしました。

この神戸2020ビジョンは、激動する時代の潮流を大局的に見据え、2020年に向けて神戸が新たなステージに踏み出し、安定した成長軌道にのせるために実現すべき目標と、その具体的な取組みを示したものです。

わが国の人口は、2008年（平成20年）をピークに減少に転じており、本市の人口も2012年（平成24年）から減少傾向にあります。人口減少社会の克服を目指して、まちの成長に向けた取組みを積極的に展開することが重要です。

わが国全体が人口減少社会に突入している中で、もはや人口増による都市の規模の拡大を求める時代ではありません。神戸が、未来を担う若者に選ばれるとともに、市民の皆さんがいつまでも安心して豊かなくらしを享受できるまちとなるよう、神戸の多彩な魅力やブランド力にさらに磨きをかけ、まちの質、くらしの質を高める取組みが必要です。

そこで、神戸2020ビジョンでは、「若者に選ばれるまち+誰もが活躍するまち」というテーマを設定し、若者をターゲットの中心として掲げるとともに、高齢者や障がい者、外国人の皆さんなど、誰もが安心して暮らし、活躍できるまちを目指すことを明確にしました。

そして、このテーマを実現するため「若者に魅力的なしごとづくり」など6つの施策の基本的方向を設定し、ITを活用した起業・創業の創出や人材育成などによる神戸経済の活性化と雇用創出の積極的な推進、移住・定住の促進、都心の再生や公共交通網の整備、神戸港・神戸空港、医療産業都市など都市の魅力を高めるプロジェクトの展開、子育て・教育環境の充実、福祉、医療、防災、防犯といった市民のくらしの安全・安心を守る取組みなど神戸のまちの総合力を高める施策を盛り込みました。

神戸は、市民と行政とが手を携えて阪神・淡路大震災という試練を乗り越えてきたまちです。神戸が新たなステージに踏み出し、安定した成長軌道にのせるため、この神戸2020ビジョンを進化させながら、スピード感をもって施策を展開してまいります。

結びに、神戸2020ビジョンの策定にあたり、市民、企業、団体及び議会などから多くのご意見、ご提案を頂きましたことに、心から感謝申し上げます。

平成28年3月

ひさもと きぞう  
神戸市長 久元喜造



## ◆◆◆目次◆◆◆

1. 神戸 2020 ビジョンの意義と位置づけ .....	1
2. 神戸 2020 ビジョン策定の方針 .....	2
3. 策定の背景（時代の潮流） .....	3
4. 神戸 2020 ビジョンのテーマ、施策、取組みの視点 .....	8
(1) テーマ .....	9
(2) 施策 .....	9
(3) 取組みの視点 .....	12
5. 全体目標 .....	13
6. 指標 .....	14
7. 神戸 2020 ビジョンの計画期間と進行管理 .....	14
8. 神戸 2020 ビジョンの施策 .....	15
若者に魅力的なしごとづくり .....	21
若者を惹きつける魅力づくり .....	33
若い世代の結婚・出産・子育て・教育を優先できる社会システムづくり .....	46
次世代の将来を約束できる環境づくり .....	52
安心なくらしづくり .....	56
地域と地域の連携づくり .....	68

# 1. 神戸 2020 ビジョンの意義と位置づけ

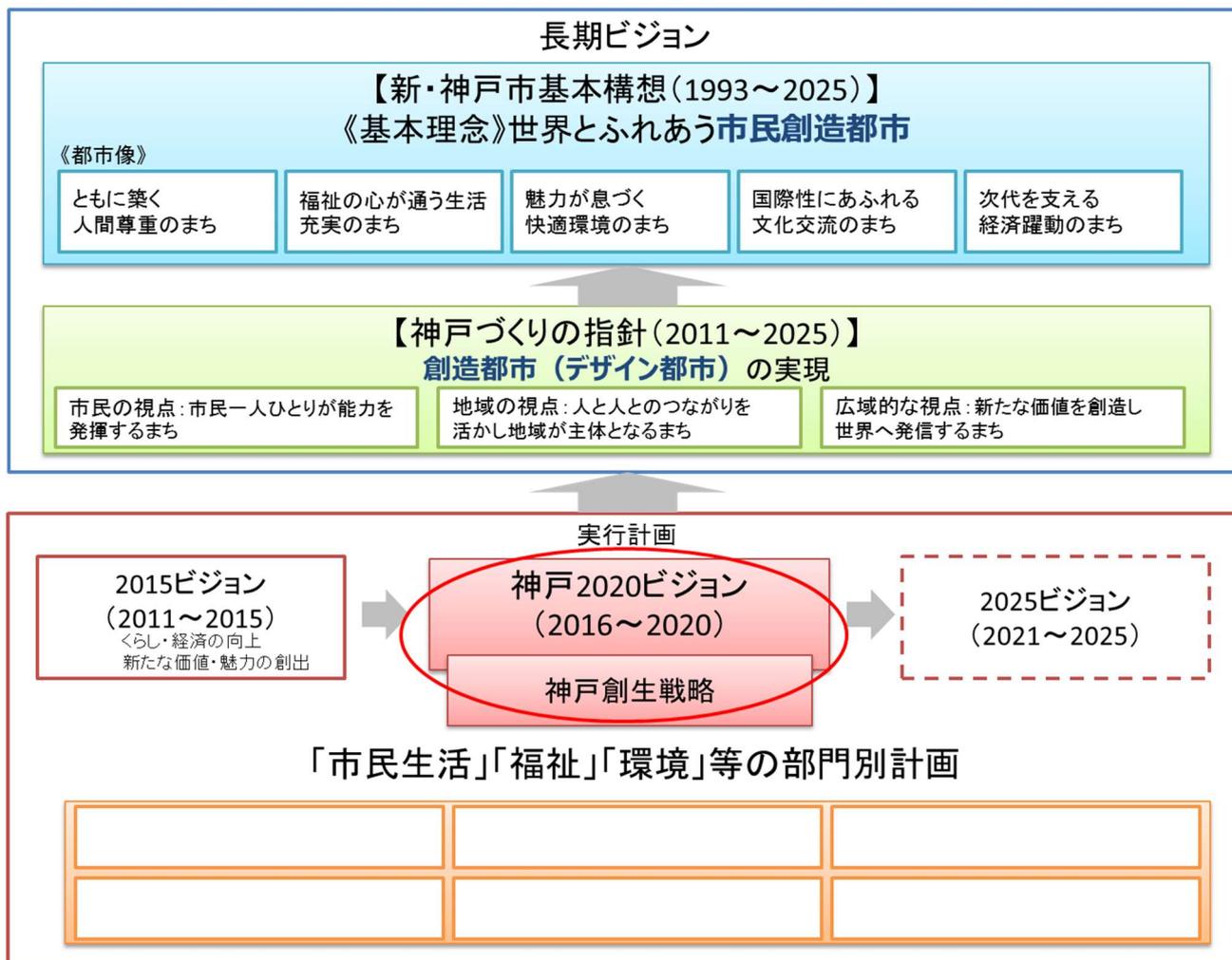
○「新・神戸市基本構想」、「神戸づくりの指針」を実現するための5か年の実行計画  
 ○人口減少を克服し、地方創生を実現するための「神戸創生戦略」と一体的に作成

神戸市では、2025年度（平成37年度）までの神戸の都市像、まちづくりの方向性を示した「新・神戸市基本構想」、「神戸づくりの指針」を実現するための5か年の実行計画「神戸2015ビジョン」を策定し、取り組んでいます。

この「神戸2015ビジョン」が2015年度（平成27年度）で終了することから、その後継計画として、2020年度（平成32年度）までの実行計画である「神戸2020ビジョン」を策定します。

「神戸2020ビジョン」は、急激な人口減少と超高齢社会の本格化、東京一極集中の進行といった喫緊の課題を克服し、地方創生を実現するために、「まち・ひと・しごと創生法」に基づき国が策定した「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を踏まえた「神戸創生戦略」と一体的に作成します（図表1参照）。

図表1 計画概念図



## 2. 神戸 2020 ビジョン策定の方針

### ○ビジョンの実効性を高め、市民及び職員が共有できるビジョンを作成

実行計画としての実効性を高めるとともに、市民と職員が共有できるものとするために、「重点化」、「全体最適化」、「見える化」、「メッセージ性」、「スリム化」の以下の5つの方針に基づき神戸 2020 ビジョンを作成します（図表 2 参照）。

神戸 2020 ビジョンは、ビジョンのテーマである「若者に選ばれるまち」、「誰もが活躍するまち」を実現するための施策に「重点化」します。

神戸 2020 ビジョンは、テーマ実現のための全体目標とともに市職員が施策を実施するにあたって共有すべき視点を設定し（取組みの視点）、「全体最適化」を図ります。

神戸 2020 ビジョンは、その策定過程並びに策定後の施策の実施過程及び個々の施策の進捗度を測る KPI（重要業績評価指標※）を設定するなど結果の「見える化」を図ります。

神戸 2020 ビジョンは、神戸市民のみならず、国内外の方々にもその内容がわかりやすく伝わる「メッセージ」を発信します。

神戸 2020 ビジョンは、各区の区計画や各部局の部門別計画との重複を排除し、「スリム化」を図ります。

図表 2 神戸 2020 ビジョン策定の方針

重点化	・「神戸 2020 ビジョン」実現のための重点施策やプロジェクトに絞る
全体最適化	・重点施策とその成果を図る客観的な指標づくり ・縦割りを排除し、重点施策を推進する際の「取組みの視点」の設定
見える化 (市民参画)	・施策の成果を共有できる指標づくり ・職員や民間からの事業・アイデア募集
メッセージ性	・神戸市民及び日本・アジア・世界に届く、わかりやすく魅力的なメッセージ
スリム化	・区計画、部門別計画との重複を減らす

※ KPI とは、Key Performance Indicator の略称。施策・事業の進捗について評価、検証を行うために用いる指標をいう。

### 3. 策定の背景（時代の潮流）

- 本格的な人口減少社会の到来と超高齢社会の進展、極点社会化（東京一極集中）
- グローバル化と産業構造の変化
- 巨大地震など災害リスクの高まり

2011年（平成23年）の神戸2015ビジョンの策定時から現在まで、社会経済情勢は変化しています。その中でも主な潮流として、人口構造の変化も含めた人口減少社会の到来、グローバル化と産業構造の変化、巨大地震などの災害リスクの高まりなどがあげられますが、喫緊の課題は人口減少社会の到来への対応です。

我が国は、本格的な人口減少、超高齢社会に突入しています。国が策定した「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」（図表3参照）によれば、人口減少対策を何も講じない場合、2060年（平成72年）に日本の人口は8,674万人となり、人口は現状よりも約3割以上も減少する見通しとなっています。しかし、2014年（平成26年）に1.42となっている合計特殊出生率（一人の女性が一生に産む子どもの平均数）が、仮に2030年（平成42年）に1.8程度、2040年（平成52年）に2.07程度まで上昇すれば、2060年の人口は約1億200万人となり、長期的には9,000万人程度で概ね安定的に推移するとされています。

人口減少は全国一律に進んでいるわけではなく、人口の東京一極集中<sup>※1</sup>が進み、極点社会<sup>※2</sup>が到来することが懸念されています。

このような問題に、神戸市も直面しています。神戸市では2012年（平成24年）に総人口が減少に転じ、高齢化も急速に進んでいます（図表4及び5参照）。現状のままであれば、今後この傾向は加速するとみられています（図表6参照）。

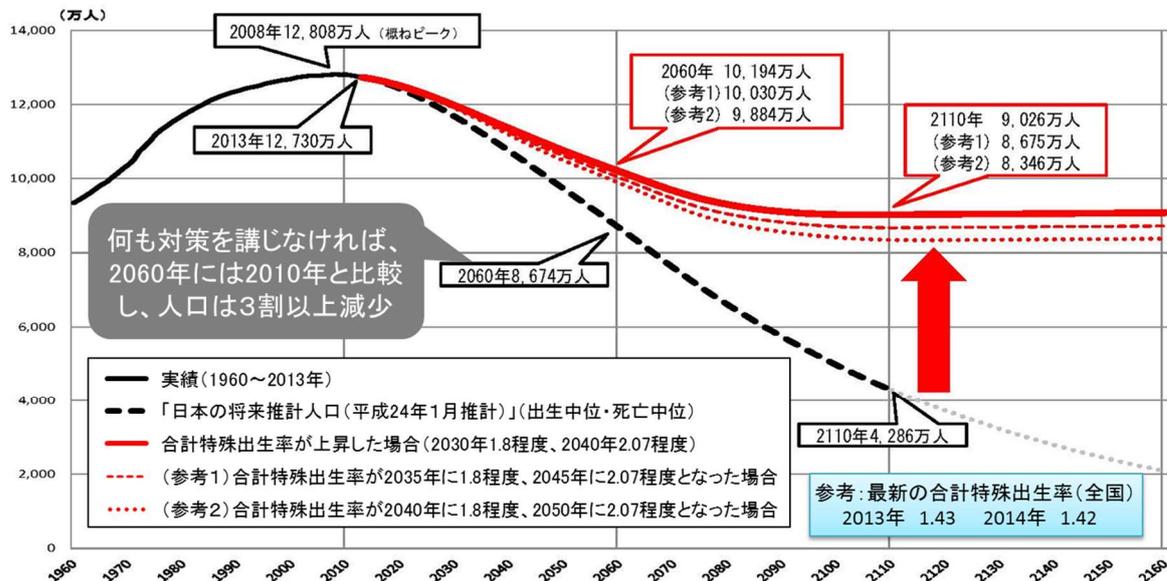
さらに、多様な地域を抱える神戸市では、それぞれの地域によって人の動きに大きな差が生じています。年齢ごとの人の動きを見てみると、神戸市では多くの若者が大学入学時に流入し、就職時に転出している状況がうかがえます（図表7参照）。

※1 人口の東京一極集中とは、地方において人口が減少する中、東京都を中心とする首都圏に人口が流入し、集中する状態をいう。

※2 極点社会とは、東京などの大都市がブラックホールのように地方の人口を吸収し、ついには大都市のみが残る国の姿をいう。

図表3 我が国の人口の推移と長期的な見通し

- 国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成24年1月推計)」(出生中位・死亡中位)によると、2060年の総人口は約8,700万人まで減少すると見通されている。
- 仮に、合計特殊出生率が2030年に1.8程度、2040年に2.07程度(2020年には1.6程度)まで上昇すると、2060年の人口は約1億200万人となり、長期的には9,000万人程度で概ね安定的に推移するものと推計される。
- なお、仮に、合計特殊出生率が1.8や2.07となる年次が5年ずつ遅くなると、将来の定常人口が概ね300万人程度少なくなると推計される。

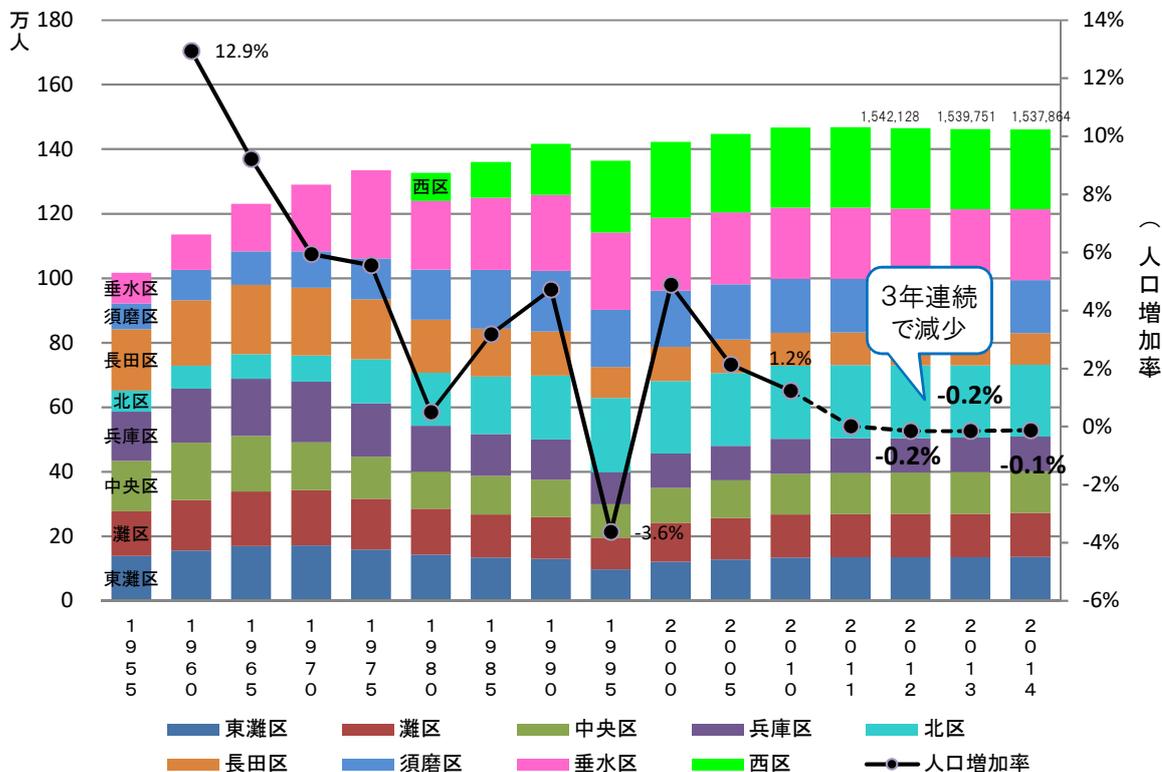


(注1) 実績は、総務省統計局「国勢調査」等による(各年10月1日現在の人口)。国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成24年1月推計)」は出生中位・死亡中位の仮定による。2110年～2160年の点線は2110年までの仮定等をもとに、まち・ひと・しごと創生本部事務局において機械的に延長したものである。

(注2) 「合計特殊出生率が上昇した場合」は、経済財政諮問会議専門調査会「選択する未来」委員会における人口の将来推計を参考にしながら、合計特殊出生率が2030年に1.8程度、2040年に2.07程度(2020年には1.6程度)となった場合について、まち・ひと・しごと創生本部事務局において推計を行ったものである。

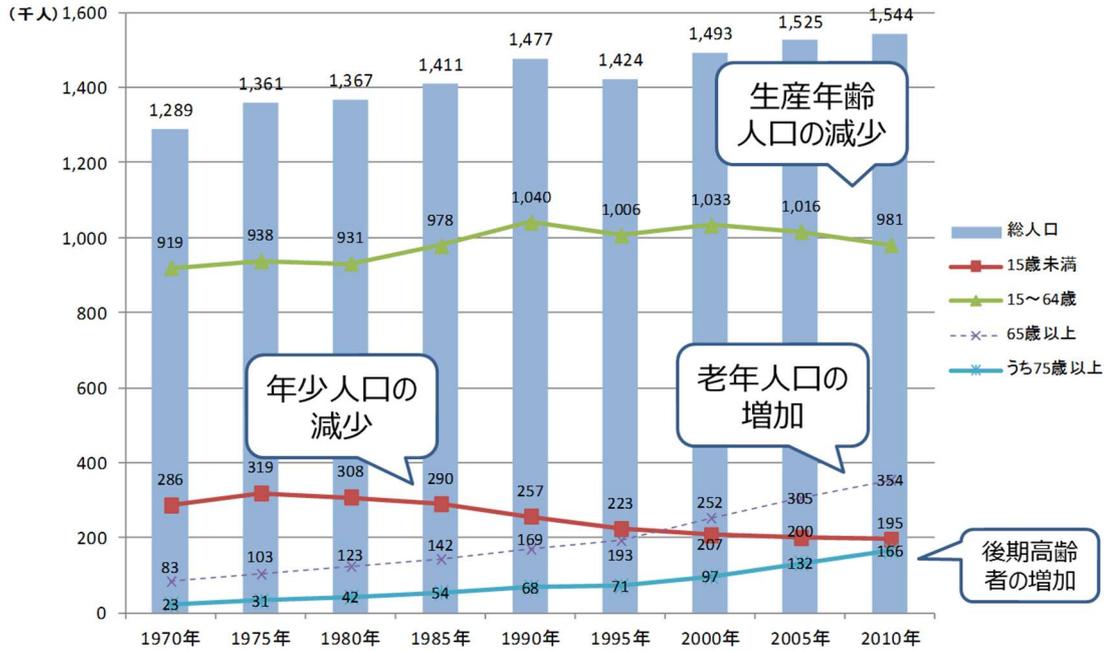
出典：「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」

図表4 神戸市の総人口推移



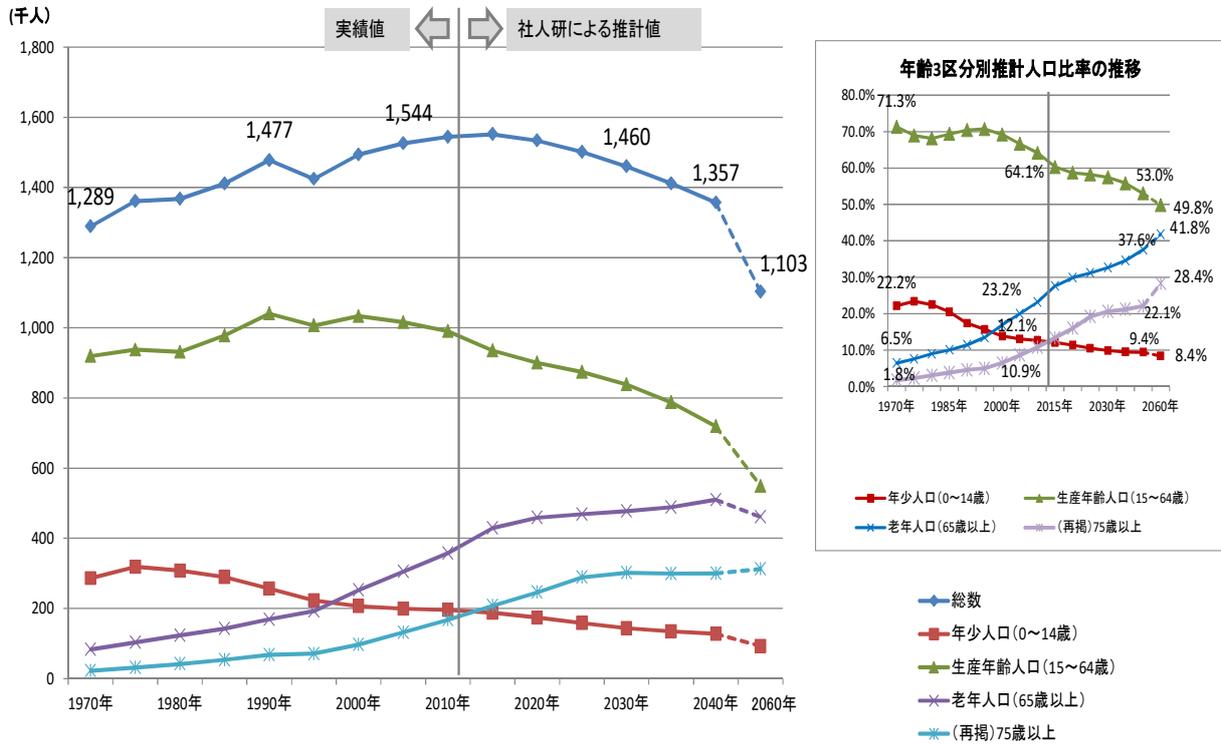
出典：国勢調査(2010年まで)・神戸市推計人口(2011年以降各年10月1日現在)

図表5 神戸市の年齢別の人口推移



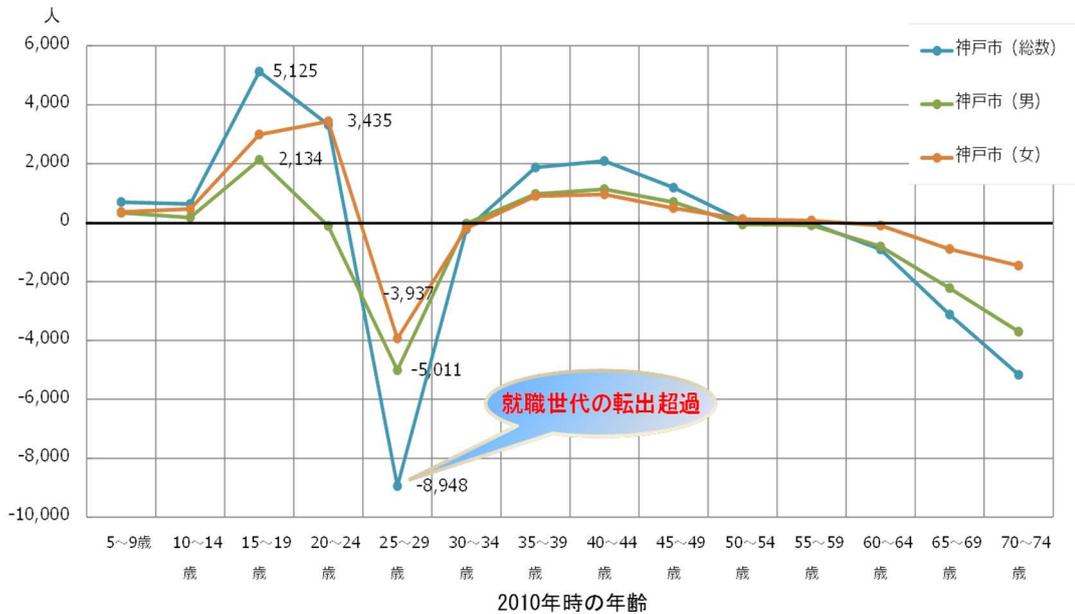
出典：国勢調査

図表6 神戸市の将来人口推計



出典：国立社会保障・人口問題研究所「地域別将来推計人口」（2060年は社人研推計に準拠して算出した数値）

図表7 社会増減の状況 ～大学卒業後の若年層の転出～



※コーホートとは、同年（または同期間）に出生した集団のことをいう。  
 ※上記グラフでは、2010年における5歳刻みの年齢層の数が2005年当時の同じ年齢層の数に比べてどれだけ増減したかを示したものである。

出典：国勢調査

人口減少とそれに伴う高齢化は、市民の暮らしを支える地域の社会・経済システムの維持・存続に大きな負の影響を及ぼす可能性があります。

### ①地域経済への影響

生産年齢人口の縮小により、経済の中心的な担い手が不足し、労働力不足に伴う生産量（生産高・出荷高）の低下が懸念されます。同時に個人消費の縮小に伴い、都市機能・サービスの縮小・撤退が発生するなど神戸経済を縮小させる影響があります。

### ②地方行政への影響

就労人口の中核である生産年齢人口の減少や産業の縮小に伴い税収減が見込まれる反面、高齢化に伴う社会保障関連経費の負担増が見込まれます。公共施設などの社会資本の余剰が発生し、維持管理などの負担増も見込まれ、より厳しい財政運営を迫られる可能性があります。

### ③住環境の安全・安心への影響

支援が必要な高齢者等が増える中で、地域福祉や自治活動、子どもの見守り育成など、地域コミュニティの担い手が不足し、コミュニティの維持が難しくなるなど、住民の日々の暮らしの安心感への影響が懸念されます。高齢化率の上昇に伴う介護・福祉需要の増加を支える労働力不足、利用者減による公共交通の縮小や撤退、個人消費の縮小による商業施設の撤退、地域の子どもの少なくなることによる学校の統廃合など、各地域における住環境の安全・安心への影響が懸念されます。

#### ④まちの活力への影響

空き地や空き家が増加することにより、まちの景観やにぎわいが低下することが懸念されます。地域の祭りや伝統行事などの地域文化を支え、継承する若者が減少することにより、地域文化を次の世代に受け継いでいくことが困難となり、地域固有の文化の衰退や良好な景観が変化してしまうことが懸念されます。

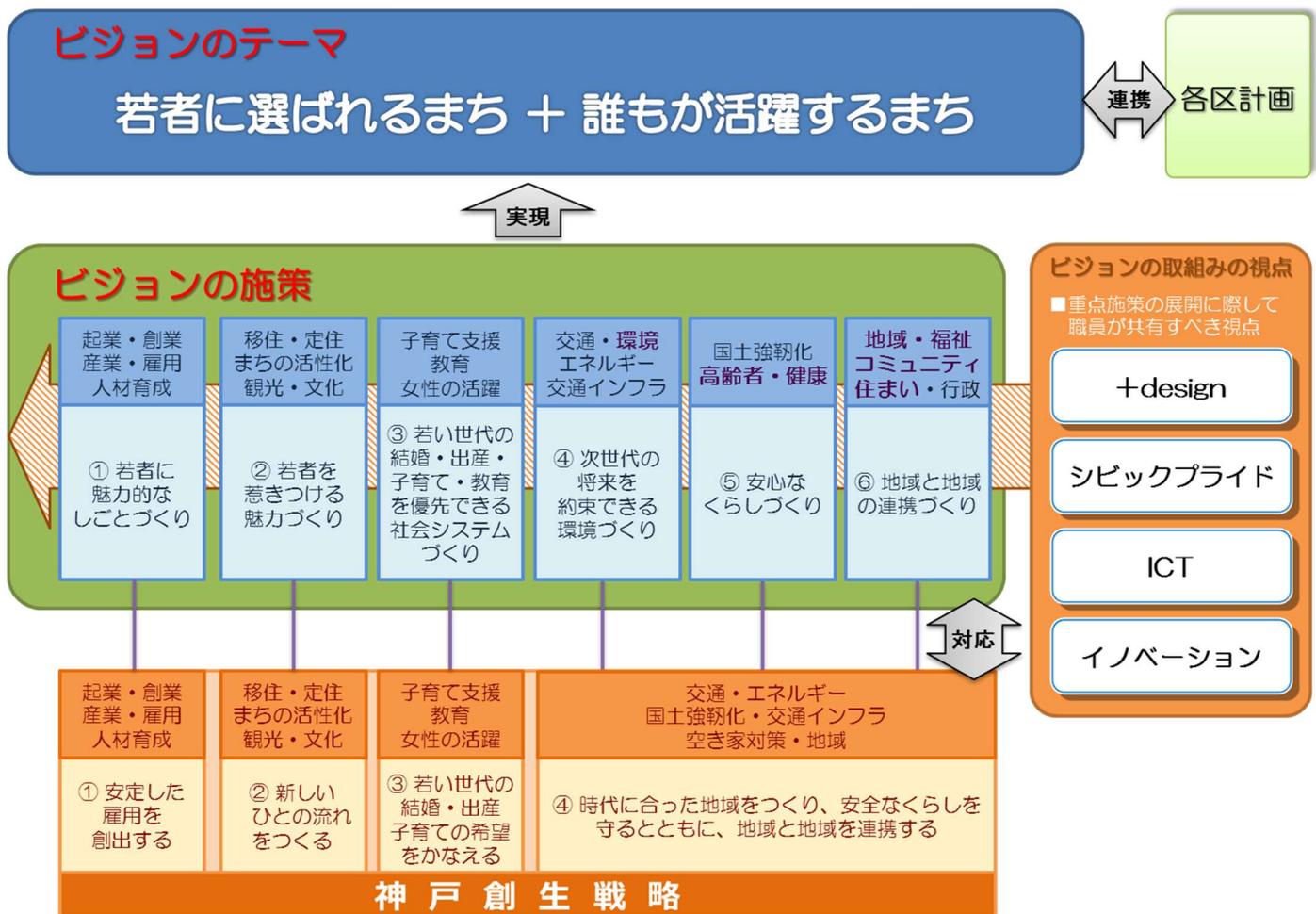
阪神・淡路大震災から20年を経過した2015年（平成27年）を起点に、人口減少を抑え、極点社会を回避し、神戸市が2020年（平成32年）に向けて多様で活力ある地域社会を維持し、魅力あふれる都市として発展していく施策を講じていく必要があります。

## 4. 神戸 2020 ビジョンのテーマ、施策、取組みの視点

神戸 2020 ビジョンは、「ビジョンのテーマ」、「ビジョンの施策」及び「ビジョンの取組みの視点」の3つの要素により構成します。

神戸 2020 ビジョンには、神戸創生戦略に掲げる人口減少に伴う課題を克服するための施策に加え、環境、高齢者・健康、地域・福祉コミュニティ及び住まいに関する施策を盛り込みます（図表8参照）。

図表8 神戸 2020 ビジョンの全体構成図



## (1) テーマ

### 若者に選ばれるまち + 誰もが活躍するまち

神戸市が、人口減少を克服し、これからもにぎわいのあるまちであり続けるためには、次代を担う 20 代から 40 代の若者に選ばれることが不可欠です。また、人口減少が進む中でも、神戸市が、未来に向け、多様で活力ある地域社会を維持し、魅力あふれる都市として発展するためには、誰もが活躍するまちづくりに取り組まなければなりません。

このため、若者が集まり、交わり、彼らの希望が実現できるための様々な施策を実施することによって、まちを活性化し、全ての市民に施策の効果が波及していくことを目指します。

超高齢社会が現実のものとなる中、高齢者が健康に暮らせるとともに、神戸市に住み始める時点で若者だった世代が歳を重ねても住み続けられるようなまちを実現します。

## (2) 施策

ビジョンの施策の基本的方向として以下の 6 つを掲げます。

「若者に魅力的なしごとづくり」、「若者を惹きつける魅力づくり」、「若い世代の結婚・出産・子育て・教育を優先できる社会システムづくり」は、若者に選ばれることに重点を置いた施策・事業です。

「次世代の将来を約束できる環境づくり」、「安心なくらしづくり」、「地域と地域の連携づくり」は、若者だけでなく高齢者、外国人、障がい者など誰もが活躍するまちづくりに重点を置いた施策・事業です。

### 若者に魅力的なしごとづくり

神戸市の人の動きの特徴として、大学卒業後の 25 歳～29 歳の若い世代の多くが東京圏等へ流出している点があげられます。神戸の未来を担い、活力を生み出す若い世代に神戸市が選ばれるためには、創業できる環境づくりを含め、就業機会の多様性を確保しつつ、若い世代にとってやりがいのある魅力的な仕事を増やしていく必要があります。

神戸 2020 ビジョンでは、若い世代による新たな起業・創業、新事業創出支援の展開、質が高く魅力的な雇用の場を創出するための成長産業の企業誘致等の促進、次代の基幹産業の育成・振興などを通じて、神戸で働きたいと思われるような、多様で魅力的なしごとづくりに取り組むとともに、大学等の集積を活かし、人材の育成を図るための施策も推進します。

## **若者を惹きつける魅力づくり**

若い世代を神戸に惹きつけ、住み続けてもらうためには、魅力的なしごとづくりに加えて、文化・芸術・スポーツなどの都市としての魅力を磨くことも必要です。

神戸 2020 ビジョンでは、神戸の魅力を生み出し、伸ばす多面的で重層的な施策をデザイン都市・神戸の推進を通じて展開するとともに、積極的で高質なプロモーションにより、神戸の多様な魅力を日本全国、世界へ向けて発信し、国籍や世代を問わず、国内外から様々な人々が、神戸を訪れ、交流する取組みを進めます。

居住するまちとして神戸市が選ばれるために、質の高い暮らしを体感できる居住魅力を高める取組みなど移住・定住にかかる取組みを進めます。

これら取組みの推進にあたっては、震災 20 年継承・発信事業の中で、市民の意見を集約してつくられたロゴマーク「BE KOBE」（神戸は、人の中にある）を活かしながら、そこに込められた理念を広く発信し、神戸市民であることを誇りに思う「シビックプライド」の醸成を図ります。

## **若い世代の結婚・出産・子育て・教育を優先できる社会システムづくり**

結婚し、子どもを持ちたいと考えている若い世代の結婚、出産、さらには子育ての希望をかなえることが少子化の流れに歯止めをかける大きな鍵です。そして、子育てや教育環境の充実、神戸が選ばれるためのまちの魅力にもつながります。また、神戸市は、子育てのライフステージと重なる世代で女性の労働力率が低い傾向があり、仕事と家庭の両立は喫緊の課題です。

神戸 2020 ビジョンでは、人生にとっての大きなライフイベントである結婚、出産の希望を神戸で実現し、安心して子育て、教育ができるように結婚・妊娠・出産・子育て・教育に切れ目のない支援、教育環境の充実、働き方改革の推進に取り組みます。

## **次世代の将来を約束できる環境づくり**

人口減少社会の中で、超高齢化を迎え、今後もさらなる高齢化が避けられない状況を踏まえ、神戸市がこれからも豊かな多様性を保ち、持続可能な都市であり続けるためには、現世代にとどまらず、将来世代も含め、全ての市民が歳を重ねても神戸で安心して暮らしたいと思える環境づくりが不可欠です。

神戸 2020 ビジョンでは、都市インフラの強化と、暮らしや健康に関わる支援を行い、次世代の将来を約束できる環境づくりに取り組みます。

## **安心な暮らしづくり**

人口減少社会の中で、地震や集中豪雨など自然災害のリスクの高まり、地域のつながりの希薄化による高齢者や障がい者の安心・安全な生活環境や犯罪被害への不安に対して、ハード・ソフトの両面で、分野を横断した総合的な取組みを進めていく必要があります。

神戸 2020 ビジョンでは、価値観が多様化する中で、安心な暮らしの確保を前提として多様なすまいづくり、あらゆる災害に対して強靱な行政機能、地域社会づくり、高齢者や障がい者など誰もが地域で元気に活躍するための施策に取り組めます。

## **地域と地域の連携づくり**

世帯の小規模化、単身世帯化が進む中で、様々な地域課題の解決に向けた地域でのつながりの醸成、地域間の連携をさらに進める必要があります。

神戸市はこれまでも周辺市町や県と様々な関係を構築してきました。人口減少社会が到来した今日においては、これまで以上に、緊密な連携・ネットワークが重要です。

神戸 2020 ビジョンでは、神戸市内における地域間の連携、圏域の中核都市として近隣市町との連携を図るとともに、さらには兵庫県との縣市協調に積極的に取り組み、地域と地域の役割分担や相互協力関係をさらに深め、圏域全体の発展を目指します。

### (3) 取組みの視点

ビジョンのテーマである「若者に選ばれるまち」、「誰もが活躍するまち」を実現するために、ビジョンに盛り込まれた施策・事業をいかに実施し、展開していくかに関し、市職員が共有すべき視点を「取組みの視点」としてまとめました（図表9参照）。

図表9 取組みの視点

取組みの視点	概要
<b>+ design</b>	デザインは、環境、防災、防犯、福祉、教育など市民に身近な行政課題や複合的な課題に対して解決策を見いだしたり、伝わりやすくするなどコミュニケーションをスムーズにする効果的なツールであり、この優れた機能を十分に理解し、施策・事業を実施します。
<b>シビックプライド</b>	震災20年継承・発信事業の中で、「神戸の様々な魅力の中で、一番の魅力は人である」という市民の意見を集約し、つくられたロゴマーク「BE KOBE」（神戸は、人の中にある）を活かしながら、そこに込められた理念を広く発信し、神戸市民であることを誇りに思ってもらえる「シビックプライド」を醸成することを念頭に置きながら施策・事業を実施します。
<b>ICT</b>	市役所業務の改善も含め、あらゆる行政課題の解決に向け強力なツールとなり得る最先端のICTを、施策・事業に積極的に活用します。市民のみなさんに安心して活用いただけるよう情報セキュリティについては、迅速に必要な対応を進めます。
<b>イノベーション</b>	現在、限られた予算の中で多様な課題を解決することが求められています。そのためには既成概念や古い慣習にとらわれることなく、部門横断で共創できる体制づくりや、市民・事業者、専門家など多様な主体の関わり合いによるイノベーションの誘発が重要です。都市間競争において差別化を実現するための神戸発の新しい政策アイデアを生み出し、世界に通用するものにするという視点を入れて施策・事業を実施します。

## 5. 全体目標

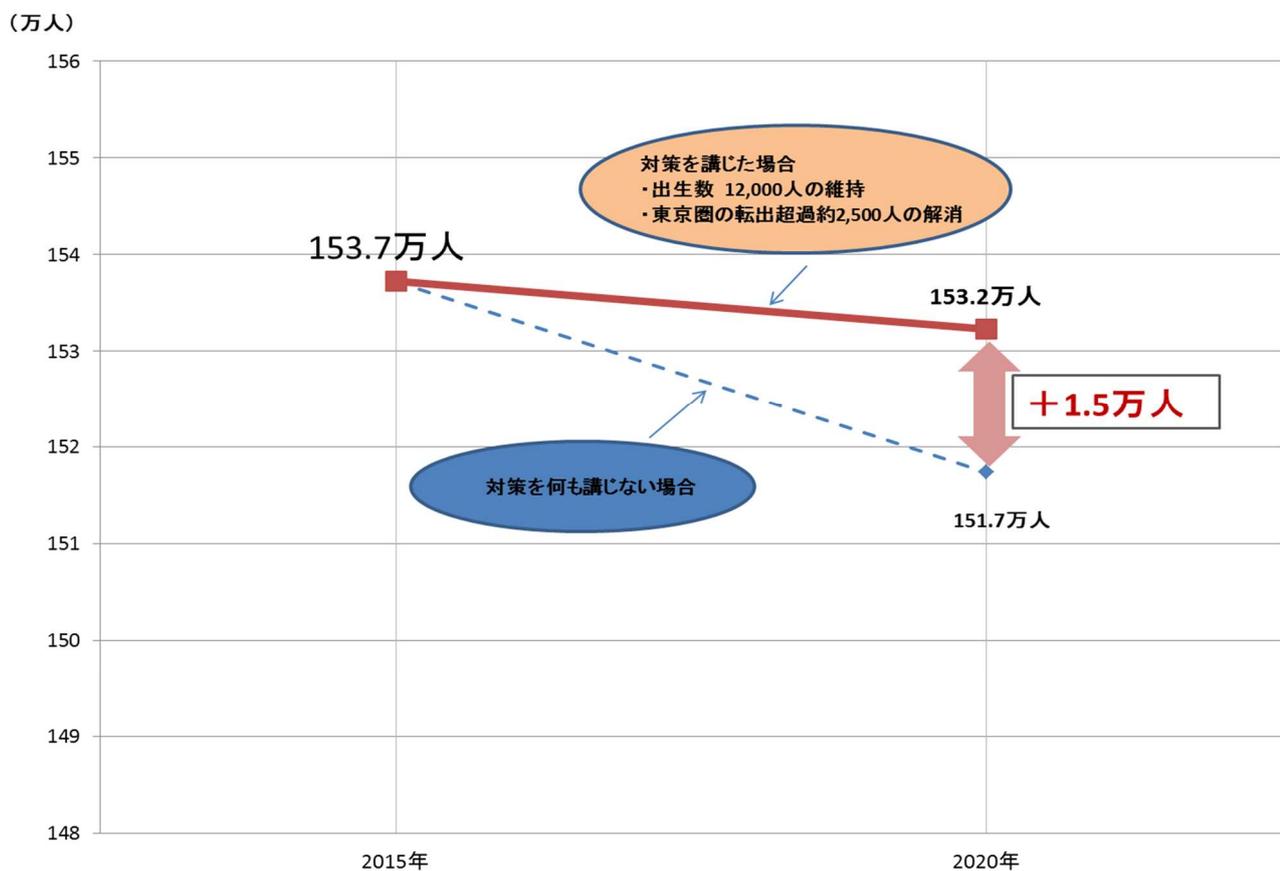
神戸 2020 ビジョンのテーマを「見える化」し、その達成度を測るために全体目標を設定します。

○年間 12,000 人の出生数を維持

○若者の神戸市への転入を増やし、東京圏<sup>※</sup>への転出超過 年間 2,500 人を解消

上記の全体目標を実現すれば、2020 年（平成 32 年）に総人口は 153 万 2 千人、2060 年（平成 72 年）には 131 万 1 千人になる見通しです（図表 10 参照）。

図表 10 神戸市の将来人口の見通し



※ 2015 年（平成 27 年）1 月 1 日現在の推計人口を基準人口として住民基本台帳人口等に基づく最新の移動率をもとに推計

※ 東京圏とは、東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県の 1 都 3 県をいう。

## 6. 指標

社会経済情勢等の外部環境の変化が神戸 2020 ビジョンの施策に及ぼす影響を診断するとともに、全体目標の達成度と施策・事業の効果に関して、例えば「若年世代の給与水準」、「道路交通における死傷事故率」、「渋滞における損失時間」、「健康寿命」、「刑法犯罪件数」などの客観的な指標で評価・検証します。

## 7. 神戸 2020 ビジョンの計画期間と進行管理

神戸 2020 ビジョンの計画期間は 2016 年度（平成 28 年度）から 2020 年度（平成 32 年度）までの 5 か年とします。

全体目標を実現するため、神戸 2020 ビジョンの進行管理を行います。全体目標の達成度、施策・事業の効果の把握とともに、社会経済情勢等の外部環境の変化や全体目標等の分析を踏まえた施策効果の評価・検証を通じて、毎年度、施策・事業の見直しや改善を行い、全体目標の実現に向け、神戸 2020 ビジョンをさらに進化させます。

## 8. 神戸 2020 ビジョンの施策

・神戸 2020 ビジョンの施策・事業一覧

若者に魅力的なしごとづくり (36 個)

### (1)「革新」を生み出す新たな起業・創業、新事業創出支援の展開(P.21～)

- ① 「神戸スタートアップオフィス」の本格展開
- ② 起業に向けた「短期重点支援プログラム」の実施
- ③ シリコンバレーへの派遣交流プログラムの実施
- ④ 世界トップレベルのスタートアップ育成支援団体の神戸への誘致及び連携
- ⑤ 起業家交流プログラムの実施
- ⑥ 新事業創発プログラムの実施
- ⑦ 知的財産の活用・産業化
- ⑧ スタートアップ支援への「ふるさと納税」の活用
- ⑨ 人材交流型新事業創造プラットフォームの創設

### (2)成長産業の企業誘致等の促進(P.23～)

- ① 神戸医療産業都市の推進
- ② 雇用の場を生み出す企業誘致の推進
- ③ みちのネットワークづくり
- ④ 阪神港国際コンテナ戦略港湾のさらなる推進と、多様な貨物輸送の強化を通じた神戸港の港勢拡大
- ⑤ 神戸空港の機能充実
- ⑥ 神戸空港島の戦略産業企業の集積・にぎわいの創出
- ⑦ 兵庫県と連携した政府関係機関の移転誘致

### (3)次代の基幹産業の育成・振興 ①(P.25～)

- ① 航空・宇宙産業の育成
- ② 神戸医療産業都市の推進(再掲)
- ③ 「インダストリー4.0 神戸プロジェクト」の推進
- ④ 水素産業の育成
- ⑤ ロボット産業都市の推進
- ⑥ IT・データを活用した施策の推進
- ⑦ アフリカなど成長市場との経済交流

### (4)次代の基幹産業の育成・振興 ②(P.28)

- ① 「食都 神戸 2020」構想のさらなる推進
- ② 新たな農業関連産業の創出
- ③ 新たな「道の駅」の整備・活用

### (5)神戸の中小企業・商業事業者等の競争力強化(P.29～)

- ① 神戸の産業の国際化推進
- ② 中小企業等の海外展開促進支援の実施
- ③ 水・インフラ事業の海外展開に向けた市内企業等の支援の実施
- ④ 「インダストリー4.0 神戸プロジェクト」の推進(再掲)
- ⑤ 航空・宇宙産業の育成(再掲)
- ⑥ 神戸医療産業都市の推進(再掲)
- ⑦ 産学金官の連携による競争力強化支援の実施
- ⑧ 商店街・小売市場の空き店舗への挑戦

## (6)人材の確保・育成(P31～)

- ① 大学等の集積を活かした人材の育成・定着
- ② グローバル人材の集積・育成
- ③ ものづくり人材確保・育成支援事業
- ④ 航空・医療・ロボット分野における新たな教育プログラムの実施
- ⑤ 大学等と連携した海洋人材の育成と港湾技術継承の拠点づくり
- ⑥ 奨学金を活用した若者の地方定着の促進

## 若者を惹きつける魅力づくり (39 個)

### (1)移住・定住の促進(P.33～)

- ① 移住促進に向けた都市プロモーションの展開
- ② 首都圏からの高度人材獲得
- ③ 神戸版 CCRC 構想の検討
- ④ 「神戸のライフスタイル」魅力の見える化・発信
- ⑤ 神戸地場産業のプロモーション

### (2)大学等の活性化(P.34～)

- ① 大学等の集積を活かした人材の育成・定着(再掲)
- ② 大学生等の市内就職の推進
- ③ グローバル人材の集積・育成(再掲)

### (3)都心・三宮の再整備(P.35～)

- ① 三宮周辺地区の『再整備基本構想』の推進
- ② 公共交通を中心とした安全で快適な交通環境の形成
- ③ 快適で便利な公共交通の推進
- ④ 景観の高質化
- ⑤ 魅力的な公共空間の創出

### (4)開港 150 年・ウォーターフロントの再整備(P.37)

- ① 新港突堤西地区等の再開発
- ② 市民と港湾関係者が集い交流する施設の整備
- ③ メリケンパークの再整備
- ④ 須磨海岸エリアの再整備
- ⑤ 夜間景観の演出
- ⑥ 都心からのアクセス機能や回遊性の向上

### (5)新長田地区の活性化(P.38)

- ① 新長田駅南再開発エリアへの兵庫県・神戸市関係機関の共同移転
- ② くにつかりポーンプロジェクトの推進
- ③ 市街地西部地域の活性化

### (6)「神戸里山暮らし」の推進(P.39)

- ① 「神戸里山暮らし」の推進

## (7)六甲山の魅力化促進(P.40)

- ① 緑豊かな六甲・摩耶の活性化
- ② 六甲・摩耶観光の振興

## (8)神戸ブランドを牽引する魅力あふれるまちづくり(P.40～)

- ① 歴史的建築物等の保全活用
- ② 神戸ブランドを牽引する住宅地の保全と育成
- ③ 神戸らしい音風景(サウンドスケープ)の方向性の検討
- ④ 須磨海岸エリアの再整備(再掲)
- ⑤ クルーズ客船誘致の強化

## (9)観光客の誘致(P.42～)

- ① 「神戸のライフスタイル」魅力の見える化・発信(再掲)
- ② メディアの複合的な活用による訪日観光・神戸ブランドPRの推進
- ③ 地域全体の観光マネジメントを一本化するプラットフォームの構築
- ④ ICTを活用したおもてなし環境の構築
- ⑤ 夜間景観を活かした新たな魅力づくり
- ⑥ 須磨海岸エリアの再整備(再掲)
- ⑦ クルーズ客船誘致の強化(再掲)
- ⑧ 神戸らしい景観が見える場所の整備・育成
- ⑨ 歴史的建築物等の保全活用(再掲)
- ⑩ 神戸地場産業のプロモーション(再掲)
- ⑪ G7 神戸保健大臣会合等を契機とした神戸の発信
- ⑫ MICEの推進

## (10)芸術・文化、スポーツの振興(P.44～)

- ① 神戸の文化・芸術の創造発信プロジェクト
- ② 神戸国際フルーツ音楽祭の開催
- ③ 大規模スポーツイベント等を通じた魅力の発信

## 若い世代の結婚・出産・子育て・教育を優先できる社会システムづくり(21 個)

### (1)妊娠・出産・子育てに切れ目のない支援(P.46～)

- ① 出会い・結婚の促進
- ② 妊娠へのサポート・産後ケアの充実
- ③ 「子育て応援メール」の配信
- ④ 子育て世帯への経済的支援の拡充
- ⑤ 待機児童の解消
- ⑥ 学童保育の拡充
- ⑦ 「こうべ子育て応援プロジェクト」の始動
- ⑧ 子育て世代包括支援センターの設置
- ⑨ 多様な地域子育て支援事業の推進
- ⑩ 親・子世帯の近居・同居の促進
- ⑪ 特に援助を必要とする家庭への支援
- ⑫ 貧困の連鎖防止も含めたひとり親家庭支援施策の拡充

## (2) 教育環境の充実(P.49～)

- ① 確かな学力の育成
- ② 「チーム学校」の教育力・組織力の強化
- ③ 安全・安心な学校づくり
- ④ 特別支援教育の推進
- ⑤ 国際的人材輩出校の誘致

## (3) 働き方改革の推進(P.50～)

- ① テレワークの推進
- ② 女性の活躍推進
- ③ 女性の就職・再就職支援
- ④ 障がい者が働く意欲を引き出せる多様な働き方の創造

# 次世代の将来を約束できる環境づくり (11 個)

## (1) 公共交通網の充実(P.52～)

- ① 公共交通を中心とした安全で快適な交通環境の形成(再掲)
- ② 快適で便利な公共交通の推進(再掲)
- ③ 地域主体の生活交通への支援
- ④ 自転車利用環境の整備

## (2) 陸・海・空の交通基盤の充実(P.53～)

- ① みちのネットワークづくり(再掲)
- ② 阪神港国際コンテナ戦略港湾のさらなる推進と、多様な貨物輸送の強化を通じた神戸港の港勢拡大(再掲)
- ③ 神戸空港の機能充実(再掲)

## (3) 環境貢献都市の推進(P.54～)

- ① 次世代へつながる多様な分散型エネルギーの利活用
- ② 循環型社会の実現に向けたさらなるごみ減量化の推進と低炭素社会にも資する安定的・効率的ごみ処理体制の構築

## (4) 神戸の豊かな自然を守る(P.55)

- ① 緑豊かな六甲・摩耶の活性化(再掲)
- ② 市民との協働による神戸の生物多様性保全

## 安心なくらしづくり (34 個)

### (1) 多様な住まいづくり(P.56～)

- ① 神戸ブランドを牽引する住宅地の保全と育成(再掲)
- ② 計画的開発団地(ニュータウン)のリノベーション
- ③ 「神戸里山暮らし」の推進(再掲)
- ④ 市街地西部地域の活性化(再掲)
- ⑤ 鈴蘭台駅周辺のまちづくり
- ⑥ こうべ空き家活用促進事業
- ⑦ 質の高い道路空間づくり～道路のリデザイン～
- ⑧ 身近な公園の再生

### (2) 神戸における国土強靱化の推進(P.58～)

- ① 土砂災害対策、浸水対策
- ② 地震・津波対策
- ③ 住宅・建築物の耐震化
- ④ 社会基盤(道路、河川、公園、上下水道、港湾施設など)の戦略的な維持管理・更新
- ⑤ 変化する都市構造や大規模多様化する自然災害に対応できる消防・救急体制の構築
- ⑥ 建築物の防火対策
- ⑦ 自己決定力を高める防災基盤づくり
- ⑧ 密集市街地の再生

### (3) 「健康創造都市KOBE」の推進(P.61～)

- ① 健康寿命の延伸
- ② 計画的開発団地(ニュータウン)のリノベーション(再掲)
- ③ 神戸医療産業都市の推進(再掲)

### (4) 安全・安心な地域づくり(P.62～)

- ① 地域医療体制の充実と医療介護連携の推進
- ② 健康危機管理の体制(神戸モデル)の強化
- ③ 不適切な状態で放置されている空き地・空き家及びごみ屋敷への対策
- ④ HACCPの導入の推進
- ⑤ 地域における防犯対策の強化

### (5) ユニバーサルデザインのまちづくり(P.63～)

- ① ユニバーサルデザインの普及・啓発
- ② 誰もがくらしやすいまちづくりの推進
- ③ 心のバリアフリーの推進
- ④ 障がい者差別の解消

### (6) 地域福祉基盤の強化(P.65)

- ① 「地域福祉のプラットフォーム」の構築

### (7) 貧困の連鎖防止に向けた取組み(P.65～)

- ① 包括的な自立相談支援
- ② 就労の場の確保に向けた支援
- ③ 子どもの学習支援
- ④ 住宅セーフティネットの構築

### (8) 障がい者が安心して暮らせるための支援(P.66～)

- ① 住まいの確保
- ② 障がい者が働く意欲を引き出せる多様な働き方の創造(再掲)
- ③ 障がい者差別の解消(再掲)

## 地域と地域の連携づくり (9個)

### (1) 顔の見える地域社会づくりと支えあい活動の推進(P.68)

- ① 総合的・自律的な地域コミュニティの環境づくり
- ② 「地域福祉のプラットフォーム」の構築(再掲)

### (2) 市民とつながる区役所改革(P.69)

- ① さらなる市民サービスの向上
- ② 区役所機能の充実

### (3) 都市間連携(P.69)

- ① 近隣市町との連携
- ② 水道の安定供給体制強化に向けた県下市町との広域連携の検討と技術連携

### (4) 縣市協調(P.70)

- ① 縣市協調
- ② 新長田駅南再開発エリアへの兵庫県・神戸市関係機関の共同移転(再掲)
- ③ 県・市の中小企業支援機関の集約化

総事業数:135 個(再掲除く)  
うち、神戸創生戦略記載事業数:121 個

※柱別の小計は再掲を含む

## 若者に魅力的なしごとづくり

### (1) 「革新」を生み出す新たな起業・創業、新事業創出支援の展開

国内外の若き起業家やその「卵」たちに対し、活動や交流の「場」の提供を行うとともに、実際に神戸で起業を志す若者に対して、シリコンバレーへの派遣を通じた起業家マインドの醸成を図ります。

全国で革新的な取組みを行う人材と神戸におけるニューリーダーとのマッチングによる新たな事業の創発や、ふるさと納税を原資に創設する産業振興ファンドを通じた資金支援など、多面的に新たな「しごと」、「雇用の場」の創出を図ります。

「産学金協力」のもと、神戸経済の活性化に寄与する新事業の創出を支援するため、多様な人材が交流し、融合する場と機会を新たに提供します。

#### ①「神戸スタートアップオフィス」の本格展開

三宮駅に近接した利便性の高いロケーションに立地する「神戸スタートアップオフィス」を拠点に、国内外の成長型起業家（スタートアップ）の集積を進めるとともに、起業、事業活動、交流がしやすいイノベーション創出の場としての機能充実を図り、神戸発の起業家の輩出を促進します。

#### ②起業に向けた「短期重点支援プログラム」の実施

「神戸スタートアップオフィス」において、ビジネスプランコンテスト等を開催するとともに、選ばれた国内外の優秀な成長型起業家に対して、企業経営ノウハウで専門性を有する起業家育成事業者による「短期重点支援プログラム」を提供し、神戸発の起業家を輩出する仕組みづくりを進めます。

同時に、良質の起業家育成事業者の集積、育成を図りながら多様な人的ネットワークの形成を進め、シリコンバレーを範とした新たな起業・創業が連鎖的に創出される土壌形成を促進します。

#### ③シリコンバレーへの派遣交流プログラムの実施

北米とのビジネス機会拡大を促進するために設置した「神戸シアトル・ビジネスオフィス」とも連携し、神戸での起業を志す若手人材に対して、起業・創業の本場であるシリコンバレー等への派遣交流プログラムを実施するなど、起業家マインドの醸成を図ります。

#### ④世界トップレベルのスタートアップ育成支援団体の神戸への誘致及び連携

世界トップレベルの起業家育成事業者による日本初となる「簡易版アクセラレーションプログラム」を実施するとともに、民間事業者を現地に派遣し、習得したノウハウを神戸のスタートアップ支援に活用します。

#### ⑤起業家交流プログラムの実施

神戸で学ぶ学生に対し、「起業」することについての意識喚起を図るため、実際の起業経験談に触れる機会を提供するなど、起業家を市内中学・高専・大学へ派遣する交流プログラムを実施します。

#### ⑥新事業創発プログラムの実施

次代の神戸経済に広がりや厚みをもたらす新たな産業の創出や第二創業の促進を図るため、これまでにない着眼点で社会課題に立ち向かい、新たな解決策や新サービスを生み出している国内外の革新的経営者と、神戸経済を支えていく人材の交流の場を設ける新ビジネス創出プログラムを提供します。

#### ⑦知的財産の活用・産業化

(公財)新産業創造研究機構との連携を通じて、大企業や大学等が持つ知的財産を、産学官連携のもと新たなサービスやビジネス機会の創出へつなげる取組みを進めます。

#### ⑧スタートアップ支援への「ふるさと納税」の活用

スタートアップの成長資金調達に対する支援を強化するため、「ふるさと納税」制度を活用し、スタートアップへの支援に賛同する個人・法人から寄附金を募り、成長資金として供給する仕組みを構築します。

#### ⑨人材交流型新事業創造プラットフォームの創設

「産学金協力」のもと、神戸経済の活性化に寄与する、「神戸ブランド」を武器にした新事業の展開、新規企業の立ち上げと成長を支援します。

社内ベンチャー、起業家、学生など多様な人材が交流し、融合することで、チームでの起業や新事業の創出につなげるための支援プログラムや事業スペースを提供します。

ファンドなど新事業の事業化に必要な成長資金を呼び込む仕組みも構築します。

## (2) 成長産業の企業誘致等の促進

新たな都市活力や雇用の場を創出するため、医療、航空・宇宙、新エネルギー、ITなどの成長分野の関連企業や雇用創出効果の高い内需関連企業などの企業誘致を進めるとともに、東京2020オリンピック・パラリンピック開催を大きな契機と捉え、国と連携しさらなる外国・外資系企業の誘致に取り組みます。

神戸医療産業都市では、国家戦略特区等の活用や再生医療の実用化などにより、新たな企業集積による雇用の増加と神戸経済の活性化を加速的に進めます。

同時に、神戸経済の基盤とも言える神戸港の港勢拡大を図ります。

### ①神戸医療産業都市の推進

神戸医療産業都市において、国家戦略特区、国の世界に誇る地域発研究開発・実証拠点（リサーチコンプレックス）推進プログラム等を活用しながら、iPS細胞等を用いた再生医療、革新的医薬品、医療機器等の実用化やスーパーコンピュータの利活用の推進、組織内・外のアイデア等の組み合わせから、革新的で新しい価値を創り出す手法（オープンイノベーション）も活用した新たな企業集積などの取組みを進め、さらなる雇用の場の創出と神戸経済の活性化を実現します。

最先端医療の提供による市民福祉の向上や国際貢献も推進します。

### ②雇用の場を生み出す企業誘致の推進

医療、航空・宇宙、新エネルギーなどの成長分野における研究開発型企業や雇用創出効果の高い食品・製造業などを産業団地に誘致するとともに、三宮の都心地区を中心に、本社機能の誘致にもエンタープライズゾーン<sup>※</sup>条例などの優遇策を活用し、積極的に取り組みます。

東京2020オリンピック・パラリンピック開催を契機に、国際港都神戸の魅力を海外に積極的に発信しながらさらなる外国・外資系企業の誘致に取り組みます。

※ 市税の軽減等により、持続的な成長が見込まれる産業分野等の集積促進を図る地域。

### ③みちのネットワークづくり

大阪湾岸道路西伸部や神戸西バイパス等の整備を進めるとともに、高速道路を賢く使う料金体系を実現し、広域圏幹線道路ネットワークの強化を目指します。

事業中・計画路線を選択と集中により効果的に整備するとともに、市内の主要な渋滞の解消を図り、主要幹線道路ネットワークを構築します（国道 428 号、神戸三田線、垂水妙法寺線、須磨多聞線、長坂垂水線等）。

これらにより、人・モノの交流を促進し、神戸の持続的な発展と安定した成長、市民の住環境や企業の活動を支えます。

### ④阪神港国際コンテナ戦略港湾のさらなる推進と、多様な貨物輸送の強化を通じた神戸港の港勢拡大

西日本を中心とした広域からの貨物集約等による「集貨」、産業集積による「創貨」、高規格コンテナバース整備による「競争力強化」を軸に、西日本の産業を支えるゲートポートとして国際基幹航路等の維持・拡大を図ります。

併せて在来貨物の拡大に向けた取組みを事業者と協力しながら進めることにより神戸港の港勢拡大を図り、神戸経済の活性化や安定した雇用の創出につなげます。

### ⑤神戸空港の機能充実

関西全体の航空輸送需要の拡大、さらには関西経済全体の発展につなげるため、関西 3 空港一体運営の早期実現を図ります。

運用時間の延長、発着枠の拡大、国際チャーター便の運航規制の緩和、国際便の利用促進のための CIQ 体制（税関 Customs・出入国管理 Immigration・検疫 Quarantine）の充実など、神戸空港の機能充実・向上を目指します。

### ⑥神戸空港島の戦略産業企業の集積・にぎわいの創出

戦略産業のうち特に航空機関連企業の神戸空港島への集積に取り組むとともに、神戸空港島のにぎわいを創出するため、集客施設の誘致を進めるほか、未利用地を活用した期間限定の集客イベントを実施します。

## ⑦兵庫県と連携した政府関係機関の移転誘致

神戸市内の研究施設との連携強化・効率化等が期待できる国立研究開発法人理化学研究所、(独)国際協力機構、国立研究開発法人海洋研究開発機構本部等の移転に向けて積極的に誘致活動に取り組み、首都圏等からの人材の移転やまちの魅力・活力の創出等につなげます。

## (3) 次代の基幹産業の育成・振興 ①

「航空・宇宙」、「医療・健康・福祉」、「環境・エネルギー」を神戸の戦略産業と位置づけ、設備投資や製品開発、販路開拓などの取組みに対し集中的な支援を行います(「農業・食糧」は後述)。

中小製造業のIT活用を深化させ、競争力を強化することにより、神戸経済の活性化及び雇用機会の拡大を図ります。

さらに、需要の拡大が見込まれるシェアリングエコノミー<sup>\*</sup>についても検討を進め、新たな市民サービスの創出を目指します。

※ モノ、お金、サービス等の交換・共有により成り立つ経済の仕組み。

### ①航空・宇宙産業の育成

航空・宇宙産業を神戸の次代の基幹産業の一つと位置づけ、設備投資や試作開発への支援等を通じて市内中小製造業の新規参入を強力に後押しします。

部品製造にかかる一貫生産体制の構築を目指す企業グループに対する活動補助や経験豊富なコーディネータによる受注獲得支援を行うとともに、IoT(モノのデジタル化・ネットワーク化)を活用した一貫生産管理システムの構築を支援します。

航空分野にかかる人材育成を推進するため、世界的な航空機製造メーカーのボーイング社と関係の深い米国ワシントン州立エバレットコミュニティカレッジや神戸地域の航空関連の民間事業者等からの協力を得ながら、神戸市立工業高等専門学校における新たな教育プログラムを検討・実施します。

## ②神戸医療産業都市の推進（再掲）

神戸医療産業都市において、国家戦略特区、国の世界に誇る地域発研究開発・実証拠点（リサーチコンプレックス）推進プログラム等を活用しながら、iPS 細胞等を用いた再生医療、革新的医薬品、医療機器等の実用化やスーパーコンピュータの利活用の推進、組織内・外のアイデア等の組み合わせから、革新的で新しい価値を創り出す手法（オープンイノベーション）も活用した新たな企業集積などの取組みを進め、さらなる雇用の場の創出と神戸経済の活性化を実現します。

最先端医療の提供による市民福祉の向上や国際貢献も推進します。

## ③「インダストリー4.0 神戸プロジェクト」の推進

神戸の中小製造業の競争力を強化するため、「ものづくり×IT」の取組みを深化させ、IT化やIoT化（モノのデジタル化・ネットワーク化）を推進し、工場稼働率の向上や省エネルギー化、アフターサービスの高度化、熟練技能の継承、変種変量生産への対応、部品製造にかかる一貫生産体制の適正管理、予知保全等につなげます。

ドイツの国家戦略である「インダストリー4.0<sup>\*</sup>」が目指す「つながる工場」を神戸で実現することにより、生産性の向上、低価格化（海外価格への対抗）、人材不足への対応などを支援します。

※ ドイツの戦略的プロジェクト。国内の工場をつなげることにより設備や人員等を補完し合うことで生産性を高めるなど、国全体の国際競争力を強化しようとするもの。

## ④水素産業の育成

今後長期的な成長が見込まれる水素エネルギー関連産業を神戸で育成するため、大手メーカー等の製品・技術開発において活用可能な市内中小企業の技術シーズを探索する一方、全国の関連企業におけるニーズの掘り起こしを行い、市内中小企業に個別にマッチングすることにより新規参入を支援します。

水素関連製品の開発を支援する試験研究機関の神戸への誘致に向けた検討を行います。

## ⑤ロボット産業都市の推進

今後のロボット市場の拡大がもたらす経済効果の市内経済への波及促進を図るため、ロボット分野の研究機関の協力を得て、人工知能や IoT（モノのデジタル化・ネットワーク化）などの最新技術を活用し、社会的課題を解決する革新的なサービスロボットの共同開発・実用化を推進し、ロボット産業都市の実現を目指します。

## ⑥IT・データを活用した施策の推進

オープンデータ<sup>※1</sup>の蓄積・公開を推進し、ICT を活用した市民・事業者との協働と参画により、地域課題を解決するオープンガバメント<sup>※2</sup>社会の構築を支援します。

実施にあたっては、

- ・オープンデータを利用しやすい形で提供するサイトの充実
- ・シビックハック（市民 IT エンジニアとまちづくり関連市民との協働による、アプリやサービスを開発するイベント）の開催
- ・産学官連携によるオープンデータ・ビッグデータ活用実証事業（データに基づく政策決定・実施）

を推進します。

併せて、データを活用した市民活動や行政の推進のために、市内・市外を対象として「データアカデミー」を開催して IT 人材の育成を図るとともに、オープンデータ普及・関連イベントへ参画します。

さらに、市民・事業者によるウェアラブル<sup>※3</sup>実証事業（スポーツ、医療福祉介護現場での利用）やシェアリングエコノミーの検討・推進を通じて、新たな市民サービスの創出を目指します。

※1 誰もが使いやすい形で公開された公共データ。

※2 インターネットを活用し行政を住民に開かれたものにしていく取り組み。

※3 身につけて利用することができる端末。

## ⑦アフリカなど成長市場との経済交流

アフリカなど成長著しい地域との経済交流に取り組むことで、神戸経済の新たな成長機会の創出を目指します。特に、IT 分野等でビジネスチャンスが期待できるルワンダ共和国と神戸との経済交流を実施し、両国の企業間での新たなビジネスの創出を図ります。

## (4) 次代の基幹産業の育成・振興 ②

「農業・食糧」について、「航空・宇宙」、「医療・健康・福祉」、「環境・エネルギー」と合わせてこれからの神戸経済を支える重要な戦略産業と位置づけます。

具体的には、新鮮で高品質な農水産物が多数生産されるとともに、都市部ではトップレベルの飲食店が集積することで国際性豊かな食文化が醸成されている神戸のポテンシャルを活用し、食を軸とした都市戦略「食都 神戸 2020」などの取組みを一層進めます。

### ①「食都 神戸 2020」構想のさらなる推進

神戸市は、県下有数の農漁業地域を抱えており、「こうべ旬菜」、「須磨海苔」など、様々な農水産物が生産されています。一方、食にこだわりのある消費者が多く、高級レストランや有名スイーツ店など全国でもトップレベルの飲食店が集まっています。

この神戸のポテンシャルを活かし、農漁業をはじめとする食ビジネスの担い手の育成、観光客の増加、移住者の拡大など、神戸の街全体の活性化につなげるため、「食」を軸とした新たな都市戦略「食都 神戸 2020」構想を推進します。

市内向けプログラム（市民や市内事業者を対象とした事業）として、「EAT LOCAL KOBE（神戸産を食べよう）」を掲げ、ファーマーズマーケット、農業と食の体験学習事業、農漁業の6次産業化等に取り組み、神戸市民が地産地消を楽しむライフスタイルを定着させます。

併せて、世界向けプログラム（世界への発信・交流）として、神戸産農水産物を活用した神戸らしい新たな「食」の開発と輸出を進め、「神戸の食」を広く世界へ発信します。

### ②新たな農業関連産業の創出

神戸フルーツ・フラワーパーク等に農業 ICT 環境を整備し、農業分野での起業家や地元事業者との交流を誘発することで、6次産業化や新たな農業関連産業の創出を促進します。

### ③新たな「道の駅」の整備・活用

神戸フルーツ・フラワーパークを「道の駅」としてリニューアルし、神戸の農水産物や観光、防災などを国内外に発信する拠点として、情報発信・休憩施設・物販施設・飲食施設などを整備します。

新たな「道の駅」では、神戸製品の PR を実施するとともに、神戸フルーツ・フラワーパークで実施する農業関連産業との連携も進めます。

## **(5) 神戸の中小企業・商業事業者等の競争力強化**

海外展開を目指す市内企業のリスク軽減に向けた支援を実施するなど、市内企業の海外展開を後押しします。

教育機関や金融機関と連携して、市内中小製造業を支援するとともに、不動産業者等と連携して、商店街・小売市場の活性化支援の充実を図るなど、企業や事業者の競争力の強化を促進します。

### **①神戸の産業の国際化推進**

東南アジア・欧州に海外ビジネスコーディネーターを配置し、市内企業の販路開拓支援や企業誘致等を進めます。

海外メディアを招聘し、国ごとのニーズに応じて神戸の物産、企業の技術力、投資環境などの情報発信を促進します。

### **②中小企業等の海外展開促進支援の実施**

人口減少に伴い国内市場が縮小する中、中小企業等の海外進出、販路開拓等を支援するため、国内外商談会に対する支援やインターネットを活用した海外販路の開拓支援、海外展開にかかるリスクを軽減する支援策を多面的に実施します。

### **③水・インフラ事業の海外展開に向けた市内企業等の支援の実施**

水・インフラ事業の海外展開を志向する市内企業等からの支援要請に基づき、一連の水循環システム・都市整備など本市が蓄積してきたまちづくりの経験やノウハウ、震災の教訓を活用して、国とも連携しながら市内企業等の海外展開を積極的に支援します。

### **④「インダストリー4.0 神戸プロジェクト」の推進（再掲）**

神戸の中小製造業の競争力を強化するため、「ものづくり×IT」の取組みを深化させ、IT化やIoT化（モノのデジタル化・ネットワーク化）を推進し、工場稼働率の向上や省エネルギー化、アフターサービスの高度化、熟練技能の継承、変種変量生産への対応、部品製造にかかる一貫生産体制の適正管理、予知保全等につなげます。

ドイツの国家戦略である「インダストリー4.0」が目指す「つながる工場」を神戸で実現することにより、生産性の向上、低価格化（海外価格への対抗）、人材不足への対応などを支援します。

## ⑤航空・宇宙産業の育成（再掲）

航空・宇宙産業を神戸の次代の基幹産業の一つと位置づけ、設備投資や試作開発への支援等を通じて市内中小製造業の新規参入を強力に後押しします。

部品製造にかかる一貫生産体制の構築を目指す企業グループに対する活動補助や経験豊富なコーディネータによる受注獲得支援を行うとともに、IoT（モノのデジタル化・ネットワーク化）を活用した一貫生産管理システムの構築を支援します。

航空分野にかかる人材育成を推進するため、世界的な航空機製造メーカーのボーイング社と関係の深い米国ワシントン州立エバレットコミュニティカレッジや神戸地域の航空関連の民間事業者等からの協力を得ながら、神戸市立工業高等専門学校における新たな教育プログラムを検討・実施します。

## ⑥神戸医療産業都市の推進（再掲）

神戸医療産業都市において、国家戦略特区、国の世界に誇る地域発研究開発・実証拠点（リサーチコンプレックス）推進プログラム等を活用しながら、iPS 細胞等を用いた再生医療、革新的医薬品、医療機器等の実用化やスーパーコンピュータの利活用の推進、組織内・外のアイデア等の組み合わせから、革新的で新しい価値を創り出す手法（オープンイノベーション）も活用した新たな企業集積などの取組みを進め、さらなる雇用の場の創出と神戸経済の活性化を実現します。

最先端医療の提供による市民福祉の向上や国際貢献も推進します。

## ⑦産金学官の連携による競争力強化支援の実施

市内中小製造業に対する技術支援や産学共同研究開発等を行う「神戸リエゾン・ラボ（ものづくり工場内）」の設備更新、神戸市立工業高等専門学校等と連携したセミナー等により技術の高度化支援を図るとともに、市内金融機関の協力も得て、中小製造業の支援を充実します。

## ⑧商店街・小売市場の空き店舗への挑戦

「市民の暮らしに身近な商店街・小売市場」を活性化するため、空き店舗対策を進め店舗誘致を目指す商店街・小売市場と出店・起業を希望する事業者等とのマッチングを行うほか、不動産業者等との連携による空き店舗活用促進策を展開します。

## (6) 人材の確保・育成

大学等の集積を活かした人材の育成・定着を進めるとともに、ものづくり人材確保・育成支援事業により中小製造業等への人材の定着・育成を支援するほか、グローバル展開企業の誘致等により多様な人材の誘致・定着を図ります。

港都神戸として、海洋底探査研究等における海洋人材の育成等を支援し、海洋研究や関連産業の活性化を促進します。

### ①大学等の集積を活かした人材の育成・定着

全国有数の大学等の集積都市としての魅力を高め、都市ブランドとして積極的にPRし、優秀な人材のさらなる流入、育成・定着を図るとともに、大学等との緊密な連携のもと、学生や大学等が有する多様な人的資源、知的資源をまちづくりや地域課題の解決に活かします。

学生の市内就職の意識啓発や市内企業などとのマッチング機会の提供などを進め、卒業した若者たちの市内就職や定住を促進します。

### ②グローバル人材の集積・育成

神戸で学ぶ留学生と市内企業のマッチングや市内中小企業の外国人材の獲得・支援、実際に働く経験が得られるインターンシップ制度の推進、グローバル展開企業の誘致・支援などを通じてグローバル人材の育成・集積を図ります。

### ③ものづくり人材確保・育成支援事業

無料職業紹介事業及び研修事業等により、中小製造業の人材確保・育成を支援します。

- ・ものづくり人材確保支援事業（ものづくり人材マッチング）

無料職業紹介事業により、若年中途退職者等と中小製造業のマッチングを行う事業

- ・ものづくり人材確保支援事業（女性向けものづくり仕事実践講座）

未就労女性を対象にものづくりの仕事への関心を高めるための講座を行う事業

- ・ものづくり人材育成支援事業

若手従業員とリーダーを対象に管理能力の向上を図る体系的な基礎研修や中堅層を対象に製品の企画・開発力の向上を図る演習中心の講座を行う事業

#### ④航空・医療・ロボット分野における新たな教育プログラムの実施

今後の成長が見込まれる航空、医療、ロボット分野における技術者の育成を推進するため、就職先の確保も見据え、神戸地域の民間事業者等の協力を得ながら、神戸市立工業高等専門学校における新たな教育プログラムを検討・実施します。

#### ⑤大学等と連携した海洋人材の育成と港湾技術継承の拠点づくり

市内大学等が国立研究開発法人海洋研究開発機構と連携して進める海洋底探査研究や海事科学分野における海洋人材の育成等を支援し、海洋研究の進展や関連産業の振興を進めます。

関係機関と連携して、港湾技術の継承と人材育成の拠点づくりを進めます。

#### ⑥奨学金を活用した若者の地方定着の促進

若年層の転出抑制や転入促進を図る施策の一つとして、神戸で起業・就業する学生の奨学金返済負担を軽減するインセンティブ策を設けます。

## 若者を惹きつける魅力づくり

### (1) 移住・定住の促進

「神戸に住む」魅力を市外に向けて総合的に発信するプロモーションを展開するとともに、移住相談窓口の設置やお試し移住等の移住支援を実施します。

「灘の酒」、「真珠」などの神戸地場商品のプロモーションを強化し、イメージアップや販路拡大を図るとともに、地場商品を通じた交流人口の増加を促進します。

#### ①移住促進に向けた都市プロモーションの展開

神戸の居住魅力を市外に向けて総合的に発信するプロモーション活動を新設ウェブサイトや各種メディア、イベント等を通じて積極的に展開するとともに、移住相談窓口の設置や職業体験旅行の企画、お試し移住等の新たな移住促進策、さらには将来の移住候補者を掘り起こすための首都圏における神戸ゆかりの人材ネットワークの構築等を推進します。

#### ②首都圏からの高度人材獲得

首都圏の優秀な人材に対し、個性的で魅力的な企業が集積している神戸での就業を、民間人材ビジネス事業者と連携して働きかけます。

高度人材の獲得により、市内企業の競争力強化、さらにはグローバル都市や女性の活躍できる都市にもつなげます。

#### ③神戸版 CCRC<sup>※</sup>構想の検討

高齢者が地域社会において健康でアクティブな生活を送れる地域づくりの実現を目指す国の「日本版 CCRC 構想」の理念を踏まえ、神戸での構想実現に向けた具体の案件に対し所要の支援を行います。

※ Continuing Care Retirement Community の略で、高齢者が元気なうちに地方に移住して、必要に応じて医療や介護を受けられる地域コミュニティ。

#### ④「神戸のライフスタイル」魅力の見える化・発信

食や商業、農業といった神戸の文化・ライフスタイルに根ざした多彩な魅力を発掘し、磨き上げるとともに、神戸地場商品の総合演出などにより観光魅力の見える化に取り組みます。

映像作品の誘致を通じた魅力の再発見を進めるなど、これらの魅力の国内外へのプロモーションを強化し、交流人口の増加、神戸移住につなげます。

#### ⑤神戸地場産業のプロモーション

アパレル、シューズ、真珠、清酒、スイーツ、パンなどの神戸地場商品とセレクトショップ\*等との協業やイベント等を通じて、神戸地場商品の高付加価値化及び情報発信を図るとともに、東京等における販路開拓及び地場商品を通じた誘客に取り組みます。

※ 特定のブランドだけでなく、経営者や仕入れ担当者の独自の視点、方向性などに沿った品揃えで複数のブランドの商品を取り扱う店。

## (2) 大学等の活性化

全国有数の大学等の集積都市である特徴を活かし、優秀な人材の流入・育成・定着を図るとともに、学生の活力や大学等が有する多様な資源をまちづくりや地域課題の解決に活用するなど、大学等の活性化を進めます。

大学生等を対象に「合同就職面接会・企業説明会」を継続的に実施するなど、市内大学卒業後の学生の市内企業への就職を促進し、人材の定着を図ります。

#### ①大学等の集積を活かした人材の育成・定着（再掲）

全国有数の大学等の集積都市としての魅力を高め、都市ブランドとして積極的にPRし、優秀な人材のさらなる流入、育成・定着を図るとともに、大学等との緊密な連携のもと、学生や大学等が有する多様な人的資源、知的資源をまちづくりや地域課題の解決に活かします。

学生の市内就職の意識啓発や市内企業などとのマッチング機会の提供などを進め、卒業した若者たちの市内就職や定住を促進します。

#### ②大学生等の市内就職の推進

国・県・経済団体等関係機関との連携により、大学生等を対象に「合同就職面接会・企業説明会」を継続実施します。また、学生、大学キャリアセンターと市内企業との交流会等により、市内での就職を促進します。

### ③グローバル人材の集積・育成（再掲）

神戸で学ぶ留学生と市内企業のマッチングや市内中小企業の外国人材の獲得・支援、実際に働く経験が得られるインターンシップ制度の推進、グローバル展開企業の誘致・支援などを通じてグローバル人材の育成・集積を図ります。

## (3) 都心・三宮の再整備

デザイン都市・神戸の玄関口である三宮周辺地区について、民間活力の導入を図りながら、都心における景観の高質化や回遊性の向上、交通結節機能の強化により、魅力的で風格ある都市空間の構築を進めるとともに、企業・大学との連携・交流拠点など業務機能の充実を図ります。

### ①三宮周辺地区の『再整備基本構想』の推進

デザイン都市・神戸の玄関口である三宮周辺地区の『再整備基本構想』に基づき、神戸の象徴となる新しい駅前空間「えき〜まち空間」とその骨格を成す公共空間である「三宮クロススクエア」の実現を目指して、回遊性の向上や交通結節機能の強化により魅力的で風格ある都市空間の構築を進めるとともに、企業や大学との連携・交流拠点の検討など業務機能の充実を図ります。

地元協議会等と連携したエリアマネジメント※による特色あるまちづくりの実践に向けて、公共空間をより多くの人々が楽しく利活用できる仕組みを検討します。

※ 地域における良好な環境や地域の価値を維持・向上させるための、住民・事業主・地権者等による主体的な取り組み。

### ②公共交通を中心とした安全で快適な交通環境の形成

公共交通ネットワークの将来像を策定し、公共交通ネットワークの維持・充実を図るための取組みを促進します。

加えて、LRT※<sup>1</sup>、BRT※<sup>2</sup>の導入可能性の検討やワンウェイ型カーシェアリング※<sup>3</sup>、コミュニティサイクル※<sup>3</sup>のさらなる活用（ポートの拡大）など、人と公共交通中心の魅力的な交通環境の形成を進めます。

※<sup>1</sup> Light Rail Transit の略。低床型車両等を用いた次世代型路面電車システム。

※<sup>2</sup> Bus Rapid Transit の略。バス専用車線や連節バスなどを用いた都市輸送システム。

※<sup>3</sup> Web 等で簡易に手続きが行え、複数の貸出・返却拠点（ポート）を設置し、どのポートでも貸出・返却が可能なレンタカー、レンタサイクル。

### ③快適で便利な公共交通の推進

IC カードや企画乗車券などを活用した料金施策の充実やバスロケーションシステム<sup>※</sup>の導入などによる利便性の向上を図ります。

都心においては、わかりやすく使いやすい料金体系とすることで、様々な目的で訪れる人が、気軽に回遊できるまちとするため、ゾーン内の均一料金制度を検討します。

※ GPS 等を用いてバスの位置情報を収集し、バス停の表示板やスマートフォン、パソコン等に情報提供するシステム。

### ④景観の高質化

神戸の都心エリアの景観特性を際立たせ、より印象づけるため、景観デザインコード（コンセプト、誘導基準、ガイドライン）の設定などにより美しく調和したまちなみを形成するなど都心における景観の高質化に取り組みます。

瀬戸内海と六甲山に囲まれた神戸の地形特性を活かし、都心の魅力と景観の維持・向上を図るため、50年後、100年後を見据えて、「建築物の高さなどの規制・誘導」に取り組みます。

人を惹きつける眺望景観（遠景）の保全育成やまちの魅力を発信する撮影ポイント（近景）の形成、ビューポイント（視点場）の形成、神戸を象徴する夜間景観の高質化に取り組みます。

### ⑤魅力的な公共空間の創出

都心の公園等のオープンスペースや道路空間において、新たなまちの魅力創出や既存の公共空間の快適性向上を目指し、デザインによる工夫等プレイスメイキング<sup>※</sup>を行うことで、ひと中心で魅力ある高質な公共空間に再整備（リデザイン）します（東遊園地、三宮中央通り、三宮プラッツ、葺合南 54 号線、鯉川筋元町通 1 丁目交差点周辺ほか）。

公共空間を利活用できる仕組みを検討し市民主体のにぎわい活動を推進することにより、個性あふれるまちづくりを実現するとともに、神戸の多様な魅力を発信します。

※ 1人1人が、居心地がいいと感じられる場所を創ることにより、その結果、その場を気に入った人たちが集まって、まちがにぎわうこと。

## **(4) 開港 150 年・ウォーターフロントの再整備**

「港都 神戸」グランドデザインの実現に向けて、新港突堤西地区等の再開発、メリケンパークの再整備、都心からのアクセス機能やまちの回遊性の向上などを着実に推進し、神戸開港 150 年を記念する取組みとともにウォーターフロントエリアの魅力を一層引き出す再整備を進めます。

### **①新港突堤西地区等の再開発**

新港突堤西地区等のウォーターフロントにおいて、高質な住機能とともに文化・商業・集客等の施設の立地を進め、ウォーターフロントのにぎわいを創出します。

### **②市民と港湾関係者が集い交流する施設の整備**

神戸港を支える港湾関係者の福利厚生と、市民の一般利用の両方の機能を合わせ持ち、ウォーターフロントの新たなシンボルとなる施設の整備を進めます。

### **③メリケンパークの再整備**

オープンから 30 年が経過し、市民や観光客等の利用者の新たなニーズを踏まえ、快適でにぎわいのある公園を目指し再整備します。

### **④須磨海岸エリアの再整備**

遠浅海岸や遊歩道などの整備、漁業の振興や須磨海浜公園のリノベーション等を行い、エリア全体が一体となって、多くの市民や観光客で憩いにぎわう場とするための魅力向上を図ります。

### **⑤夜間景観の演出**

ウォーターフロントの再整備において、ライトアップや光の演出に取り組み、神戸の強みの一つである夜間景観に磨きをかけます。

### **⑥都心からのアクセス機能や回遊性の向上**

ウォーターフロントにつながる道路空間の再整備（リデザイン）や、LRT、BRT の導入可能性の検討、ワンウェイ型カーシェアリングなど新たな交通手段の導入により、魅力的な交通環境の形成を進め、都心部からのアクセス機能や回遊性の向上を図ります。

## **(5) 新長田地区の活性化**

神戸の「都心域」の西の拠点である新長田地区において、行政施設の立地や再開発ビルの商業リニューアルを推進し、商業・業務機能や文化機能の充実・発展を図るとともに、昼間人口の回復によるまちのにぎわいを創出し、経済の活性化を図ります。

### **①新長田駅南再開発エリアへの兵庫県・神戸市関係機関の共同移転**

阪神・淡路大震災でとりわけ甚大な被害を受けた新長田駅南地区においては、市街地再開発事業により、公共施設、住宅供給等のインフラ整備は進捗し、夜間人口は震災前の水準を超えていますが、昼間人口や小売業の事業所数・販売額の回復は遅れ足元商圈は衰弱化しており、勤労者や来街者の増加等、昼間人口の回復によるまちのにぎわいの創出が急務です。

このため、兵庫県と神戸市が協調し、関係機関を新長田駅南再開発エリアへ共同移転することにより、同地区の活性化と行政組織の業務の効率化、さらには県民・市民サービスの向上を図ります。

### **②くにづかりポーンプロジェクトの推進**

新長田駅南地区再開発ビルへの魅力的なテナント誘致により地区の活性化を図ります。特に国道2号以南においては、「くにづかりポーンプロジェクト」を推進し魅力ある商業施設へ向けた再整備等の実施により、商業活性化や地区のにぎわい創出を図ります。

### **③市街地西部地域の活性化**

地下鉄海岸線・市街地西部活性化プロジェクトで実施した市街地西部地域におけるにぎわいの創出、情報発信に取り組むことにより、さらなる魅力向上を促進し、兵庫運河においては、プロムナード（遊歩道）の整備や夜間景観の演出などを行い、にぎわいの創出を進めるなど市街地西部地域の活性化を図ります。

## (6) 「神戸里山暮らし」の推進

北区・西区に広がる神戸の豊かな里山は、高齢化、地域の活力の低下、耕作放棄地等の課題を抱えています。

都会の便利さと農村の心地よさを兼ね備える「神戸ならではの里山暮らし」を推進し、地域の活性化を図ります。

### ① 「神戸里山暮らし」の推進

豊かな自然を満喫できる農村部に暮らしながら、都心部の利便性を享受できる「神戸ならではの里山暮らし」を推進します。

具体的には、都市住民と農業・農村のマッチングや特区の活用など規制緩和により、

- ・空き家の活用
- ・茅葺き民家などの地域資源を活用した農家レストラン・カフェ、宿泊施設などの交流施設の立ち上げ
- ・就農支援、耕作放棄地対策
- ・コミュニティバスの運行

などを行い、一時的な訪問・交流から「神戸ならではの里山暮らし」へとつなげ、農村の活性化を図ります。

## **(7) 六甲山の魅力化促進**

神戸の貴重な財産である六甲山について、癒しの空間づくりなど新たな価値を創造するとともに、1,000万ドルの夜景の魅力を効果的に発信し、六甲・摩耶の活性化を図ります。

森林整備費用を分担する仕組みづくりを検討し、緑豊かな森林の保全を進めます。

### **①緑豊かな六甲・摩耶の活性化**

「六甲山森林整備戦略」に基づき、災害防止や生物多様性保全など森林の持つ多面的機能を発揮するための森林整備を進めるとともに、都市資源として六甲山の活用を図るため、摩耶山上エリアの魅力を向上させる再整備や癒しの空間づくりなど身近に自然に親しめる新たな価値を創造します。

間伐材を利用した木材製品や森づくりにかかる寄附金など森林整備費用を分担する仕組みづくりを検討します。

六甲山上の保養所等の遊休施設について、企業の宿泊・研修施設や集客施設など有効活用を図り、六甲山の優れた立地や環境を活かした新たな魅力を創出します。

### **②六甲・摩耶観光の振興**

都心近くにありながら豊かな自然を手軽に満喫できることを活かし、1,000万ドルの夜景の魅力を効果的に発信するとともに、六甲山・摩耶山ならではの時間を過ごすことができる着地型観光を推進します。

## **(8) 神戸ブランドを牽引する魅力あふれるまちづくり**

港都神戸を象徴する歴史的建築物等の保全・活用を行い、神戸ならではの景観を次世代に継承するほか、神戸ブランドを牽引する住宅地の保全と育成等を進め、デザイン都市としての魅力や佇まいを感じることができるよう、まちの魅力の維持、向上を図ります。

### **①歴史的建築物等の保全活用**

建築専門家や活用促進団体など民間団体との連携強化を図り、所有者や活用事業者とのマッチングや保全活用のための資金収集の仕組みなどを構築することにより、地域の文化を伝える古民家、開港以降に建てられた近代建築物や異人館・相樂園など歴史的建築物等の保全・活用を行い、神戸ならではの景観を次世代に継承するとともにまちのにぎわいづくりや活性化を図ります。

## ②神戸ブランドを牽引する住宅地の保全と育成

東部山麓市街地など、上質なまちなみを形成している山の手住宅地エリアの魅力を広く内外に発信するとともに、まちなみの保全に向けた相談体制の整備や当該エリアにおけるルールづくり等を進めることにより、良好な景観の保全と「住宅地」としてのブランド力の維持向上を図ります。

## ③神戸らしい音風景（サウンドスケープ）の方向性の検討

まちのエリアの特徴に合わせた音環境を整備し、神戸らしさを演出します。

都心など人の往来の多い施設等で、船の汽笛など神戸のイメージを想起させる音・音楽が流れる環境を整備するなどまちなみにぎわいや心地よい空間を創出します。

## ④須磨海岸エリアの再整備（再掲）

遠浅海岸や遊歩道などの整備、漁業の振興や須磨海浜公園のリノベーション等を行い、エリア全体が一体となって、多くの市民や観光客で憩いにぎわう場とするための魅力向上を図ります。

## ⑤クルーズ客船誘致の強化

港都神戸の景観の一部にもなっているクルーズ客船の入港は、国際都市神戸を世界にアピールできる機会であるとともに、インバウンド客による市内経済への波及効果も見込まれることから、近年急成長しているアジアクルーズ等の客船誘致に取り組みます。

## (9) 観光客の誘致

神戸ならではの観光資源や多彩な魅力を発掘し磨き上げるとともに、国内外へのプロモーションを強化するほか、海外向けに様々なメディアを組み合わせ、複層的に PR を行い、交流人口の増加や国際観光の振興を図ります。

このため、「神戸 DMO<sup>※</sup>」の構築など地域全体の観光マネジメントを一本化するプラットフォームの構築を推進します。

※ Destination Management Organization の略で、地域全体の観光マネジメントを一本化する、着地型観光のプラットフォーム組織。

### ①「神戸のライフスタイル」魅力の見える化・発信（再掲）

食や商業、農業といった神戸の文化・ライフスタイルに根ざした多彩な魅力を発掘し、磨き上げるとともに、神戸地場商品の総合演出などにより観光魅力の見える化に取り組みます。

映像作品の誘致を通じた魅力の再発見を進めるなど、これらの魅力の国内外へのプロモーションを強化し、交流人口の増加、神戸移住につなげます。

### ②メディアの複合的な活用による訪日観光・神戸ブランド PR の推進

海外向けに、様々なメディアを複合的に組み合わせた効果的な PR を行い、国際観光や神戸産品の振興を総合的に進めます。

### ③地域全体の観光マネジメントを一本化するプラットフォームの構築

地域資源・観光産業の付加価値向上を目指すため、「神戸 DMO」の構築など地域全体の観光マネジメントを一本化するプラットフォームの構築を推進します。

### ④ICT を活用したおもてなし環境の構築

外国人観光客が気軽に利用できる公衆無線 LAN 環境の整備を進めるとともに、リアルタイムな観光情報を提供するクラウド型のサービスを利用し、ICT を活用した総合的な外国人観光客等の受け入れ環境の底上げを進めます。

## ⑤夜間景観を活かした新たな魅力づくり

夜間においても魅力ある都市空間にするため、神戸市夜間景観形成実施計画に基づきフラワーロード「光のミュージアム事業」や神戸大橋のライトアップなどを実施するとともに、市内の商店街・小売市場における夜のにぎわいイベントなどの魅力的な取組みを発信します。

## ⑥須磨海岸エリアの再整備（再掲）

遠浅海岸や遊歩道などの整備、漁業の振興や須磨海浜公園のリノベーション等を行い、エリア全体が一体となって、多くの市民や観光客で憩いにぎわう場とするための魅力向上を図ります。

## ⑦クルーズ客船誘致の強化（再掲）

港都神戸の景観の一部にもなっているクルーズ客船の入港は、国際都市神戸を世界にアピールできる機会であるとともに、インバウンド客による市内経済への波及効果も見込まれることから、近年急成長しているアジアクルーズ等の客船誘致に取り組みます。

## ⑧神戸らしい景観が見える場所の整備・育成

「神戸らしい眺望景観 50 選. 10 選」に選定されたビューポイント（視点場）を積極的に情報発信し、訪れる人が神戸のまちの魅力を体感できる場として整備、育成します。

## ⑨歴史的建築物等の保全活用（再掲）

建築専門家や活用促進団体など民間団体との連携強化を図り、所有者や活用事業者とのマッチングや保全活用のための資金収集の仕組みなどを構築することにより、地域の文化を伝える古民家、開港以降に建てられた近代建築物や異人館・相楽園など歴史的建築物等の保全・活用を行い、神戸ならではの景観を次世代に継承するとともにまちのにぎわいづくりや活性化を図ります。

## ⑩神戸地場産業のプロモーション（再掲）

アパレル、シューズ、真珠、清酒、スイーツ、パンなどの神戸地場商品とセレクトショップ等との協業やイベント等を通じて、神戸地場商品の高付加価値化及び情報発信を図るとともに、東京等における販路開拓及び地場商品を通じた誘客に取り組みます。

## ⑪ G7神戸保健大臣会合等を契機とした神戸の発信

2016年（平成28年）9月のG7神戸保健大臣会合<sup>※1</sup>や2019年（平成31年）10月のISPO（国際義肢装具協会<sup>※2</sup>世界大会）2019等の開催にあたり、国内外から多くの政府関係者、報道関係者、技術者などが神戸を訪れる機会を捉えて、神戸市の魅力や取組みを国内外に発信します。

※1 2016年主要国首脳会議（伊勢志摩サミット）に関連する保健大臣会合。

※2 義肢装具・自立支援機器・リハビリテーション工学・医療福祉に関する諮問団体。

## ⑫ MICE<sup>※</sup>の推進

産学官連携を強化しMICE振興の機運醸成や誘致強化策を推進するとともに、インセンティブツアー（報奨・研修旅行）の誘致強化など海外誘致機能の拡充により、神戸経済の活性化と都市ブランドの向上を図ります。

※ MICE（マイス）とは、Meeting（会議・研修・セミナー）、Incentive tour（報奨・研修旅行）、Convention（国際会議）、Exhibition/Event（展示会・イベント等）を総称した造語。

## (10) 芸術・文化、スポーツの振興

選ばれる都市としての魅力向上に文化・芸術の創造発信が重要であることから、鑑賞機会の充実、市民・団体への芸術活動支援などを行います。

神戸マラソン、ラグビーワールドカップ2019の神戸開催や、東京2020オリンピック・パラリンピックの開催など、大規模スポーツイベントを通じたまちの魅力を発信するとともに、スポーツ振興や神戸経済の活性化につなげます。

### ①神戸の文化・芸術の創造発信プロジェクト

選ばれる都市としての魅力向上のため、神戸文化ホールなどのインフラの再構築や、鑑賞機会の充実、市民・団体への芸術活動支援などを行います。

### ②神戸国際フルーツ音楽祭の開催

1985年（昭和60年）に始まり、4年に1度開催してきた神戸国際フルーツコンクールを、内外の様々な主体の参画を得た「神戸国際フルーツ音楽祭」に発展させて、2017年（平成29年）に開催します。

### ③大規模スポーツイベント等を通じた魅力の発信

神戸に拠点を置くチームのスポーツイベントに加え、神戸マラソン、ラグビーワールドカップ 2019 の神戸開催や、東京 2020 オリンピック・パラリンピック、関西ワールドマスターズゲームズ 2021 の開催などを通じ、まちの魅力を発信するとともに、スポーツ振興や神戸経済の活性化につなげます。

## 若い世代の結婚・出産・子育て・教育を優先できる社会システムづくり

### (1) 妊娠・出産・子育てに切れ目のない支援

出会い、結婚の促進から妊娠へのサポート・産後ケアの充実、保育、子育てへのライフステージごとの支援策等を切れ目なく重層的に展開するほか、子育て世代包括支援センターの設置やファミリー・サポート・センターの充実を図るなど、地域で子どもを育てる環境を整えます。

#### ① 出会い・結婚の促進

少子化の要因である未婚化・晩婚化に対する取組みとして、ひょうご出会いサポートセンターとの連携や婚活イベント、結婚新生活支援事業等を通じて、出会い・結婚を促進するほか、ブライダルを大切にすまちなちとしての魅力の発信等を進めます。

#### ② 妊娠へのサポート・産後ケアの充実

若年層を中心に広く市民に対し、妊娠や出産に関する正しい知識（妊娠や出産に適した年齢等）の普及を図り、理解を深めることで、安心して妊娠や出産ができる環境づくりに努めるほか、不妊に悩む夫婦に対して治療に要する費用の一部を助成し、経済的負担の軽減を図るとともに、不妊治療実施医療機関や不妊専門相談機関と連携して、安全な治療や相談・支援の体制を確保します。

産後の育児不安が強く、家族等の支援が得られない方を対象に、産後の母体のケアや育児に対する手厚い支援と相談を実施するなど、産後ケアの充実を図り、子どもの健やかな育ちを支援します。

#### ③ 「子育て応援メール」の配信

妊婦や乳幼児の親を対象に、子どもの成長過程、定期健診、妊娠・子育て生活のアドバイス、子育てイベントなどの情報を、妊娠週数や月齢に応じてタイムリーにメールを配信し、子育てに関する不安や悩みを軽減し、孤立化を防止します。

#### ④子育て世帯への経済的支援の拡充

多子世帯への経済的支援として、保育園や幼稚園等の保育料の軽減を図るなど、子育て世帯の経済的な負担の軽減に努めます。

乳幼児医療費助成制度については、2014年度（平成26年度）に3歳から中学3年生までの外来一部負担金の一律500円化、2015年度（平成27年度）に3歳未満児の所得制限の撤廃などを行ってきたところであり、引き続きその拡充を図ります。

#### ⑤待機児童の解消

仕事と子育ての両立支援のため、教育・保育施設や小規模保育などの整備、幼稚園から認定こども園への移行などを促進することで、潜在的な保育需要を踏まえた受け入れ枠を確保し、待機児童の解消を図ります。

#### ⑥学童保育の拡充

学童保育の高学年受け入れを段階的に進めるとともに、既存の施設だけでは対応できない小学校区については、基本的に学校内で実施場所を確保し、高学年を含む全ての学童保育を必要とする児童の受け入れを進めます。「小1の壁」の打破に向けて、19時延長など開設時間の延長を推進します。

#### ⑦「こうべ子育て応援プロジェクト」の始動

家庭や子どもを持つ喜びを啓発するために、子育て応援サイト「ママフレ」や子育ての不安の解消を目的とした「こうべ子育て応援メール」などを活用したわかりやすい情報発信に加え、若年齢からライフデザインを構築するための知識の普及を図る広報・啓発を強化するなど、「子育てにあたたかい街こうべ」の機運の醸成を推進します。

#### ⑧子育て世代包括支援センターの設置

地域での子育て支援の充実を図るため、各区役所等の窓口機能を強化し「子育て世代包括支援センター」を整備することで、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援を充実します。

## ⑨多様な地域子育て支援事業の推進

保護者の就労形態の多様化などに伴い生じる保育ニーズに対応するため、延長保育や一時預かりの実施箇所数の拡大を図ります。

元気な高齢者をはじめとする地域の方々がより参加しやすい取組みにより、ファミリー・サポート・センターの充実を図るなど、多様な地域子育て支援事業を推進します。

## ⑩親・子世帯の近居・同居の促進

親世帯と子世帯が近くに住むことになった場合に、移転する世帯が支払う住み替えにかかる費用の一部を助成する「親・子世帯の近居・同居住み替え助成事業」により、高齢期・子育て期を安心して過ごすための居住地選択を支援します。

## ⑪特に援助を必要とする家庭への支援

医療機関など関係機関と連携を強化しながら、発生予防から早期発見、対応、保護、家族の再統合まで切れ目のない総合的な児童虐待防止対策を強化します。

社会的養護体制の充実として、施設の小規模化・地域分散化を進め、里親制度の理解・啓発など推進していくとともに、障がい児が身近なところで相談や療育・教育が受けられるよう、子どものライフステージや特性に応じた一貫した支援を実施するなど、療育体制の再構築を図ります。

## ⑫貧困の連鎖防止も含めたひとり親家庭支援施策の拡充

子どもの将来がその生まれ育った環境によって左右されることのないよう、貧困が世代間を超えて連鎖することのないよう、必要な環境整備を行います。

特に、ひとり親家庭では、住居・収入・子育て等の面で様々な困難があるため、生活・仕事・学び・住まい支援や相談体制の整備等、様々な方策で自立支援を推進します。

## (2) 教育環境の充実

「人は人によって人になる」という基本理念の下、家庭・地域・学校が手を携えながら新しい時代を切り拓くことのできる「心豊かに たくましく 生きる人間」の育成を目指し、地域社会そして国際社会の担い手となる人材の育成を図るため、神戸市教育大綱及び第2期神戸市教育振興基本計画に基づき施策を推進し、教育環境を充実します。

### ① 確かな学力の育成

子どもたち一人ひとりに応じたきめ細やかな指導をより充実し、自立に向けた力を育みます。

児童生徒に基礎的・基本的な知識・技能と思考力・判断力・表現力等、主体的に学習に取り組む態度などの確かな学力を身に付けさせます。

### ② 「チーム学校」の教育力・組織力の強化

教員が授業など子どもへの指導に、より専念できるようにするため、校長のリーダーシップにより学校マネジメント機能の強化を図るとともに、教員をサポートするスタッフの配置等により「チーム学校」としての教育力・組織力の強化を図ります。

### ③ 安全・安心な学校づくり

学校園施設の老朽改修による長寿命化や、災害や犯罪から子どもたちを守るための防災・防犯教育などを実施し、ハードとソフトの両面で教育環境の改善を図り、安全・安心で快適な学校づくりを推進します。

### ④ 特別支援教育の推進

共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム<sup>※</sup>構築のための動向を踏まえ、多様な学びの場を提供して共に学ぶ環境を整え、域内の教育資源を効果的に活用することにより、一人ひとりの教育的ニーズに応じた特別支援教育を充実します。

※ 人間の多様性の尊重等を強化し、障がい者が精神的及び身体的な能力等を可能な最大限度まで発達させ、自由な社会に効果的に参加することを可能にするという目的の下、障がいのあるものと障がいのない者が共に学ぶ仕組み。

## ⑤国際的人材輩出校の誘致

神戸の有する国際性・良好な居住環境を活かしながら、国際的人材輩出校の立地を促進します。特に、その先導的な役割を持つ六甲アイランドにおいて、重点的に取組みを進めます。

## (3) 働き方改革の推進

インターネットを通じて、首都圏企業等が発注する仕事を在宅で受注できる仕組みを利用し、専業主婦などが趣味や特技を活かした作品の商品化等、新たな仕事の機会を創出するとともに、就業・チャレンジセミナー等の実施により、再就職支援を進めます。

就労環境の改善にも着目し、企業などに対する啓発活動などを推進することにより、働く男女のワーク・ライフ・バランスの実現を目指し、さらなる女性の活躍推進につなげます。

障がい者の、社会に貢献したい、働きたいという意欲や潜在的な能力を引き出せる多様な働き方を創造します。

### ①テレワーク※の推進

多様な働き方のひとつとして、インターネット上で仕事の受発注を行うクラウドソーシング等の活用促進を図るなどテレワークを推進します。

具体的には、在宅で働きたい主婦層、高齢者、障がい者等幅広い層に対し、テレワークを通じて収入を得るためのノウハウの習得やスキル向上にかかる支援を行うほか、官民連携のもとテレワークによる収入確保機会の創出、拡大につなげます。

市内企業に対しテレワークの積極的な導入を働きかけます。

※ ICT（情報通信技術）を活用した場所にとらわれない柔軟な働き方。

### ②女性の活躍推進

長時間労働などのいわゆる男性中心型労働慣行が見直され、ワーク・ライフ・バランス社会が実現するよう企業等に対する啓発活動を充実させることなどにより、就労を希望する女性の就労や活躍の実現、さらには働く男女の仕事への満足度の向上を目指します。

### ③女性の就職・再就職支援

女性の就労や再就労を支援するセミナーや相談のほか、未就労女性を対象にものづくりの仕事への関心を高めるための講座を行う事業を実施します。

#### ④障がい者が働く意欲を引き出せる多様な働き方の創造

障がい者の中には、一般的な雇用の制度の中で働くことが難しく、個々人の多様な能力を十分に発揮できていない方がいます。

障がい者の、社会に貢献したい、働きたいという意欲や潜在的な能力を引き出せる多様な働き方を創造します。

障害者就労推進センターにおいて、地域の福祉・医療機関やハローワークなどの関係機関と連携を図りながら、障がい特性に配慮したきめ細やかな支援を行うなど、障がい者の一般就労支援を推進します。

障がい者の福祉的就労について、さらなる工賃アップを図るため、企業への PR、デザイナー・パティシエ等と連携した魅力ある商品づくりや販路拡大など総合的な支援を行います。

## 次世代の将来を約束できる環境づくり

### (1) 公共交通網の充実

これまでに整備されてきた公共交通網の一層の維持・充実を図り、高齢社会にふさわしい移動手段として地域の暮らしを支える安全・快適な交通環境を形成するとともに、来街者にも使いやすい料金体系の導入を検討します。

都市空間を人にとって魅力的な「場所」へ転換していくため、魅力的な新たな公共交通手段の導入や自転車利用環境の整備などを進めます。

#### ①公共交通を中心とした安全で快適な交通環境の形成（再掲）

公共交通ネットワークの将来像を策定し、公共交通ネットワークの維持・充実を図るための取組みを促進します。

地域住民主体の公共交通導入に向けた支援を行うなど、地域の暮らしを支える交通環境を形成します。

加えて、LRT、BRT の導入可能性の検討やワンウェイ型カーシェアリング、コミュニティサイクルのさらなる活用（ポートの拡大）など、人と公共交通中心の魅力的な交通環境の形成を進めます。

#### ②快適で便利な公共交通の推進（再掲）

IC カードや企画乗車券などを活用した料金施策の充実やバスロケーションシステムの導入などによる利便性の向上を図ります。

都心においては、わかりやすく使いやすい料金体系とすることで、様々な目的で訪れる人が、気軽に回遊できるまちとするため、ゾーン内の均一料金制度を検討します。

#### ③地域主体の生活交通への支援

公共交通が行き届いていない坂の多いオールドニュータウン地域等において、住民自身が組織する団体で、住民同士の相乗りによる地域交通を整備・運営し、併せて住民団体が窓口となって買い物代行や家事代行等の支援を行う事業（住民手動地域交通及び生活コンシェルジュ事業）の事業化に向けた支援を行います。

#### ④自転車利用環境の整備

ネットワーク化による快適な自転車走行空間の創出や需要に応じた駐輪場を整備することにより、多様化する自転車利用への対応を進めるとともに歩行者の安全な空間の創出を図ります。

## (2) 陸・海・空の交通基盤の充実

地域内及び広域的な人・物の流れを円滑にし、市民生活や経済活動を支える交通基盤として、道路ネットワークの充実を図るとともに、国際コンテナ戦略港湾である阪神港の国際競争力強化、神戸空港の利便性向上により、神戸の強みである陸・海・空の総合的な交通環境に磨きをかけます。

### ①みちのネットワークづくり（再掲）

大阪湾岸道路西伸部や神戸西バイパス等の整備を進めるとともに、高速道路を賢く使う料金体系を実現し、広域圏幹線道路ネットワークの強化を目指します。

事業中・計画路線を選択と集中により効果的に整備するとともに、市内の主要な渋滞の解消を図り、主要幹線道路ネットワークを構築します（国道428号、神戸三田線、垂水妙法寺線、須磨多聞線、長坂垂水線等）。

これらにより、人・モノの交流を促進し、神戸の持続的な発展と安定した成長、市民の住環境や企業の活動を支えます。

### ②阪神港国際コンテナ戦略港湾のさらなる推進と、多様な貨物輸送の強化を通じた神戸港の港勢拡大（再掲）

西日本を中心とした広域からの貨物集約等による「集貨」、産業集積による「創貨」、高規格コンテナバース整備による「競争力強化」を軸に、西日本の産業を支えるゲートポートとして国際基幹航路等の維持・拡大を図ります。

併せて在来貨物の拡大に向けた取組みを事業者と協力しながら進めることにより神戸港の港勢拡大を図り、神戸経済の活性化や安定した雇用の創出につなげます。

### ③神戸空港の機能充実（再掲）

関西全体の航空輸送需要の拡大、さらには関西経済全体の発展につなげるため、関西3空港一体運営の早期実現を図ります。

運用時間の延長、発着枠の拡大、国際チャーター便の運航規制の緩和、国際便の利用促進のためのCIQ体制（税関 Customs・出入国管理 Immigration・検疫 Quarantine）の充実など、神戸空港の機能充実・向上を目指します。

## （3）環境貢献都市の推進

循環型社会の実現に向けたごみの減量化を進めるとともに、低炭素社会の実現に向け、温室効果ガスの排出削減につながる水素エネルギーや再生可能エネルギーの利用を促進していくほか、各分野において市民生活、行動様式の変更や防災対策の充実などにより、地球温暖化にも適応するまちづくりを推進します。

### ①次世代へつながる多様な分散型エネルギーの利活用

家庭等における蓄電池、コージェネ<sup>※1</sup>などの普及促進を図るとともに、新技術を積極的に導入しながら、水素エネルギー、バイオマス<sup>※2</sup>エネルギー、下水由来のこうべバイオガス・下水熱など再生可能エネルギー、未利用エネルギーの開発・利用を促進します。

建物単体での省エネルギー性能の向上を図るとともに、地区レベルでの面的なエネルギー利用いわゆるスマートコミュニティ<sup>※3</sup>の可能性を検討します。

水素をはじめとした次世代エネルギーや再生可能エネルギーについては、都市としての普及促進を図りつつ、神戸の次代の有望な産業として注目し振興するとともに、民間企業との連携のもと、「水素サプライチェーン構築実証事業<sup>※4</sup>」を通じ、水素の輸送、荷揚げ、貯蔵等の技術開発を推進します。

※1 コージェネレーションの略で、ガス、石油等を燃料として、エンジン、タービン、燃料電池等の方式により発電し、その際に生じる廃熱も同時に回収するシステム。

※2 エネルギーや物質に再生が可能な、化石資源を除く有機性の資源のことで、具体的には、農林水産物、もみガラ、食品廃棄物、家畜排せつ物、木くずなどを指す。

※3 情報通信技術を活用しながら、再生可能エネルギーの導入を促進しつつ、電力、熱、水、交通、医療、生活情報などのインフラを統合的に管理・最適制御するコミュニティ。

※4 海外の未利用エネルギーを利用して液化水素を製造・貯蔵及び海上輸送し、日本国内で荷揚げして輸送・利用する仕組みの構築を目指し、NEDO（国立研究法人新エネルギー・産業技術総合開発機構）の助成を受けて行う実証事業。

## ②循環型社会の実現に向けたさらなるごみ減量化の推進と低炭素社会にも資する安定的・効率的ごみ処理体制の構築

2 R（発生抑制、再使用）優先によるエネルギー消費など環境負荷の少ないごみの減量化を推進します。

3 クリーンセンター（焼却施設）体制において中継施設を活用した低炭素かつ災害対応力の高い廃棄物処理システムを構築します。

## （4）神戸の豊かな自然を守る

神戸の豊かな自然を象徴する「都市山」である六甲山系を保全・活用する取組みを進めるとともに、市民との協働のもと、六甲山系や北区・西区などの里山に残された貴重な自然や生物の多様性を保全します。

### ①緑豊かな六甲・摩耶の活性化（再掲）

「六甲山森林整備戦略」に基づき、災害防止や生物多様性保全など森林の持つ多面的機能を発揮するための森林整備を進めるとともに、都市資源として六甲山の活用を図るため、摩耶山上エリアの魅力向上をさせる再整備や癒しの空間づくりなど身近に自然に親しめる新たな価値を創造します。

間伐材を利用した木材製品や森づくりにかかる寄附金など森林整備費用を分担する仕組みづくりを検討します。

六甲山上の保養所等の遊休施設について、企業の宿泊・研修施設や集客施設など有効活用を図り、六甲山の優れた立地や環境を活かした新たな魅力を創出します。

### ②市民との協働による神戸の生物多様性保全

生物多様性保全のシンボル拠点として「キーナの森」の整備を進めるとともに、自然観察会、シンポジウムなどにより、市民に生物多様性の大切さを啓発し、希少種の状況や外来種の分布などの把握・情報提供などにより理解を深め、在来の生態系を保全する取組みを進めます。

## 安心なくらしづくり

### (1) 多様な住まいづくり

ウォーターフロント、郊外のニュータウン、里山など、多様な居住スタイルがかなう神戸の強みを活かし、神戸ならではの住宅地の保全・育成や計画的開発団地のリノベーション、街路や公園などの質の向上を図り、「居住都市・神戸」を実現します。

#### ①神戸ブランドを牽引する住宅地の保全と育成（再掲）

東部山麓市街地など、上質なまちなみを形成している山の手住宅地エリアの魅力を広く内外に発信するとともに、まちなみの保全に向けた相談体制の整備や当該エリアにおけるルールづくり等を進めることにより、良好な景観の保全と「住宅地」としてのブランド力の維持向上を図ります。

#### ②計画的開発団地（ニュータウン）のリノベーション

地域住民が主体となった団地の活性化に向けた取組み方策の検討等に対する支援や、中古住宅の流通促進により高齢者などのライフサイクルに応じた住み替えや若年・子育て世帯の流入を促進します。

公共施設の再配置などにより創出される余剰地や既存の公的不動産などを活用し、子育て世帯向け住宅の供給や子育て・高齢者支援施設の導入、商業施設の再編など新たなニーズに対応した機能転換に取り組むとともに、団地内道路や身近な公園を再整備し、計画的開発団地のリノベーションを進めます。

### ③「神戸里山暮らし」の推進（再掲）

豊かな自然を満喫できる農村部に暮らしながら、都心部の利便性を享受できる「神戸ならではの里山暮らし」を推進します。

具体的には、都市住民と農業・農村のマッチングや特区の活用など規制緩和により、

- ・空き家の活用
- ・茅葺き民家などの地域資源を活用した農家レストラン・カフェ、宿泊施設などの交流施設の立ち上げ
- ・就農支援、耕作放棄地対策
- ・コミュニティバスの運行

などを行い、一時的な訪問・交流から「神戸ならではの里山暮らし」へとつなげ、農村の活性化を図ります。

### ④市街地西部地域の活性化（再掲）

地下鉄海岸線・市街地西部活性化プロジェクトで実施した市街地西部地域におけるにぎわいの創出、情報発信に取り組むことにより、さらなる魅力向上を促進し、兵庫運河においては、プロムナード（遊歩道）の整備や夜間景観の演出などを行い、にぎわいの創出を進めるなど市街地西部地域の活性化を図ります。

### ⑤鈴蘭台駅周辺のまちづくり

公共・公益施設が集まる北区の玄関口として、北区役所や商業・業務施設が入居する再開発ビルの建設を進めるとともに駅前広場等を整備し、鈴蘭台駅周辺の活性化を促進します。

### ⑥こうべ空き家活用促進事業

民間事業者との連携により、インスペクション（住宅の現況検査）、瑕疵保険の補助制度や、融資制度など関連する情報をワンストップの相談窓口で提供するとともに、未活用空き家の掘り起こしのほか、魅力的なりノベーション事例の紹介やコンペを実施するなどプロモーションに取り組み、中古住宅の流通を促進します。

## ⑦質の高い道路空間づくり～道路のリデザイン～

歩く人たちが心地よく感じる道路空間を目指し、歩行者や自転車、自動車のバランスを検討して交通機能の最適化を図るとともに、地域特性に応じた道路整備により、憩いやにぎわい、街路樹や飾花などみどり景観を含めた空間機能の向上について、+design（工夫・アイデア）の視点で取り組み、心地よく高質な空間に“リデザイン”し、魅力的な住環境の形成を推進します。

団地内生活道路については、計画的な舗装補修や側溝整備の実施により、安全・安心なみちづくりの実現を図るとともに、計画的開発団地（ニュータウン）のリノベーション等とあわせて実施することにより、団地の魅力を高め、地域の活性化を促します。

## ⑧身近な公園の再生

子育て世代が親子で楽しめる公園、女性でもお年寄りでもウォーキングやヨガなどのフィットネスを安心して行える公園、若者が存分にスポーツを楽しめる公園など、地域ニーズに応じて身近な公園を再生し、住環境のクオリティアップを図り、選ばれる住まいづくりを推進します。

## (2) 神戸における国土強靱化の推進

平成 28 年度に策定予定の「神戸市強靱化計画※」に基づき、あらゆる災害等を想定（土砂災害、浸水、地震、津波など）しながら、最悪の事態に陥ることが避けられるような「強靱」な行政機能や地域社会をつくりあげます。

そして、危機に翻弄されることなく打ち勝ち、その結果として、地域の持続的な成長を実現し、次世代を担う若者たちが将来に明るい希望を持てる環境を獲得します。

※ 2013 年（平成 25 年）12 月に施行された「強くしなやかな国民生活の実現を図るための防災・減災等に資する国土強靱化基本法」に基づき、どんな自然災害等が起こっても機能不全に陥らず、いつまでも元気であり続ける「強靱な地域」をつくりあげるため、神戸市が策定する計画。

### ①土砂災害対策、浸水対策

土砂災害警戒区域の総点検及び土砂災害特別警戒区域などの安全対策の検討を行うとともに、浸水被害が多発している地区及び浸水が想定される地区の浸水対策や河川改修（表六甲水系、明石川水系など）を行います。

## ②地震・津波対策

橋梁の耐震補強や上下水道施設の耐震化、道路の無電柱化を行うとともに、災害時の生活雑用水や水源バックアップの検討、BCP（事業継続計画）の運用及び訓練を行います。

津波対策について、避難を中心としたソフト対策や、減災を目的として、防潮堤を粘り強い構造に補強するなどのハード対策を行います。

## ③住宅・建築物の耐震化

すまいと建築物の耐震化の普及啓発と耐震化促進に向けて無料耐震診断や改修補助などを行います。

耐震改修促進法の改正を踏まえ、マンションや小規模建築物などを含めた建築物の耐震化の促進に向けて、きめ細かい支援を行います。

## ④社会基盤（道路、河川、公園、上下水道、港湾施設など）の戦略的な維持管理・更新

特に昭和40年代の高度経済成長期に急速に整備を進めた道路、河川、公園、上下水道、港湾施設などの社会基盤が順次更新時期を迎えています。これらの補修・改築更新を計画的・戦略的に進め、ライフサイクルコスト<sup>※</sup>の低減と予算の平準化を図りつつ、都市の骨格である社会基盤を確実に維持管理し、安全・安心な都市機能を維持します。

※ 社会基盤の構築から寿命を終えるまでの間にかかる全ての費用。

## ⑤変化する都市構造や大規模多様化する自然災害に対応できる消防・救急体制の構築

都市構造の変化や近年多発する地震、津波、土砂災害、河川氾濫などの大規模多様化する自然災害に対応できる消防・救急体制を構築するため、施設・装備・研修を充実強化します。

高齢化のさらなる進展により増加が予想される救急要請については、医療機関や地域住民と連携して、全ての世代に対して適切な救急対応ができるように体制を充実強化します。

## ⑥建築物の防火対策

建築物に対して、建築時から消防同意事務において適切な指導を行い、法令に適合させるとともに、あらゆる業態に対する査察の実施や、ホテル・旅館等に対する表示制度、違反對象物の公表制度なども活用し、防火安全意識を高め、建築物の安全性を維持・向上させます。

## ⑦自己決定力を高める防災基盤づくり

市民啓発や防災教育などにより防災への意識改革を図り、異なる世代や様々な主体が連携できる仕組みづくりを推進するとともに、震災経験の継承・発信を継続します。

地域防災リーダーの育成や災害時要援護者支援の取組みの推進などにより、「自己決定力」の向上による地域の災害対応力強化を図り、「自助・共助」への取組みを支援します。

新技術の積極活用による情報収集・分析など危機管理体制のさらなる強化を図るとともに、業務継続マネジメント（BCM）や帰宅困難者対策などの大規模災害への対応強化、地域による避難所の開設運営体制の確立や拠点的機能を持つ福祉避難所の充実などの災害対応力の強化を図ります。

デザインを活用した防災の戦略的広報を実施するなど、「安全・安心で住みやすいまち」神戸の都市ブランド化を推進します。

## ⑧密集市街地の再生

密集市街地の再生に向けて、老朽建築物の除却や建物の不燃化・耐震化の促進、身近な生活道路の拡幅整備、防災空地の活用により、災害時に燃え広がりにくく、避難が可能なまちづくりを推進します。

### **(3) 「健康創造都市 KOBE」の推進**

WHO 神戸センターや医療産業都市との連携の成果を活かして、神戸らしい健康づくりのあり方を提唱し、全ての市民が健康になることをテーマにしたまちづくりを推進します。

#### **①健康寿命の延伸**

民間企業や医療・福祉関係者等が参画する「健康創造都市 KOBE 推進会議」を設立し、神戸の医療・健康に関する資源を活かし、健康格差の縮小に向け、健康づくりに関する施策を市民ぐるみで推進します。

死亡原因の6割を占める生活習慣病の予防、重症化の抑制を図る観点から、特定健康診査及びがん検診の受診率向上に努めます。

高齢者が健康で生きがいを持った生活を送り続けることができるよう介護予防サロンの立ち上げ支援やアクティブシニアの活躍の場づくりなどの「生涯現役社会づくり」のほか、地域住民同士で見守り・支え合える「地域支え合い活動」などを推進します。

介護が必要になっても住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう多様な居宅サービスの充実とともに、施設・居住系サービスについて、地域の実情に応じた必要な整備を計画的に進めます。

#### **②計画的開発団地（ニュータウン）のリノベーション（再掲）**

地域住民が主体となった団地の活性化に向けた取組み方策の検討等に対する支援や、中古住宅の流通促進により高齢者などのライフサイクルに応じた住み替えや若年・子育て世帯の流入を促進します。

公共施設の再配置などにより創出される余剰地や既存の公的不動産などを活用し、子育て世帯向け住宅の供給や子育て・高齢者支援施設の導入、商業施設の再編など新たなニーズに対応した機能転換に取り組むとともに、団地内道路や身近な公園を再整備し、計画的開発団地のリノベーションを進めます。

### ③神戸医療産業都市の推進（再掲）

神戸医療産業都市において、国家戦略特区、国の世界に誇る地域発研究開発・実証拠点（リサーチコンプレックス）推進プログラム等を活用しながら、iPS細胞等を用いた再生医療、革新的医薬品、医療機器等の実用化やスーパーコンピュータの利活用の推進、組織内・外のアイデア等の組み合わせから、革新的で新しい価値を創り出す手法（オープンイノベーション）も活用した新たな企業集積などの取組みを進め、さらなる雇用の場の創出と神戸経済の活性化を実現します。

最先端医療の提供による市民福祉の向上や国際貢献も推進します。

## （4）安全・安心な地域づくり

地域の高齢者・障がい者等が安心して医療・介護を受けられる体制を確保していくとともに、命にかかわる感染症対策・感染症予防や空き地・空き家及びごみ屋敷対策などに取り組むことで、住民一人ひとりが安心を実感しながら生活できる地域づくりを進めます。

### ①地域医療体制の充実と医療介護連携の推進

「地域医療構想」や「新公立病院改革プラン」に基づいた、効率的かつ質の高い医療提供体制を構築します。

地域の在宅医療・介護連携を支援する相談窓口を設置し、医療介護関係団体などと連携して医療・介護などが包括的に確保される体制づくりを行います。

誰もが認知症になりえることを踏まえ、認知症の人の意思が尊重され、住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることができるよう、総合的な認知症施策の推進に取り組みます。

### ②健康危機管理の体制（神戸モデル）の強化

早期探知地域連携システム<sup>※</sup>（神戸モデル）の継続・強化などによる感染症集団発生の未然防止とともに、感染症への適正な対応ができる施設職員の育成や集団予防接種（住民接種）の体制を構築するなど感染症発生時の拡大防止対策を推進します。

※ 保健所・区と地域・学校園・施設・医療機関等との連携強化を図り、感染症発生のサインを早期に把握し、地域における感染症の急激な拡大と重症化の防止を図る仕組み。

### ③不適切な状態で放置されている空き地・空き家及びごみ屋敷への対策

不適切な状態で放置されている空き地・空き家を抑制・減少させるとともに、ごみや物品の堆積により地域の生活環境に悪影響を及ぼしているごみ屋敷を解消することで、地域の保安等の問題を解消します。

### ④HACCP<sup>※</sup>の導入の推進

食品関係業者に対して、HACCPによる自主的な衛生管理方式の導入の推進が図られるよう、相談・助言等の支援を行います。

※ Hazard Analysis and Critical Control Point（危害要因分析重要管理点）の略で、食品の製造・加工工程のあらゆる段階で発生するおそれのある微生物汚染等の危害をあらかじめ分析し、その結果に基づいて、製造工程のどの段階でどのような対策を講じればより安全な製品を得ることができるかという重要管理点を定め、これを連続的に監視することにより製品の安全を確保する衛生管理の手法。

### ⑤地域における防犯対策の強化

防犯カメラの設置促進や見守り活動の支援充実など地域レベルでの防犯対策を強化することにより、地域の危機管理水準の向上を図り、安全・安心な地域づくりを目指します。

## (5) ユニバーサルデザイン<sup>※</sup>のまちづくり

誰もが安心して快適に暮らせるまちづくりを実現するため、ユニバーサルデザインの普及・啓発や心のバリアフリーの推進、障がい者の差別解消とともに、公共交通施設や建築物等のバリアフリー化を進めます。誰もが包摂され、その個性と多様性を尊重し、誰もが持てる力を発揮でき、支えあうことのできる社会づくりを目指します。

※ 年齢、性別、文化、身体状況など、人々が持つさまざまな個性や違いにかかわらず、最初から誰もが利用しやすく、暮らしやすい社会となるよう、まちや建物、もの、仕組み、サービスなどを提供していこうとする考え方。

### ①ユニバーサルデザインの普及・啓発

誰もが安心して快適に暮らせる「人にやさしい・人がやさしい」ユニバーサル社会の実現のため、ユニバーサルデザインの考え方を将来の神戸を担う子どもや学生に広く啓発し、一人ひとりを大切にする意識づくりを進めます。

## ②誰もがくらしやすいまちづくりの推進

神戸市バリアフリー基本構想の推進をはじめ、ユニバーサルデザインの理念のもと、旅客施設、建築物、道路、公園などのバリアフリー化やベンチの設置などにより、誰もがくらしやすいまちづくりを進めます。

## ③心のバリアフリーの推進

高齢者、障がいのある人、妊娠中の人などへの配慮の必要性や適正な支援方法について理解を深めるため、鉄道事業者や公共施設の職員を中心とした「心のバリアフリー研修」を実施するほか、「神戸市みんなの手話言語条例」による手話への理解促進・普及などにより、心のバリアフリーを進めます。

## ④障がい者差別の解消

障がい者差別に関する相談に的確に応じ、障がいを理由とする差別に関する紛争の防止・解決を図り、市民の障がいや障がい者に関する理解を深めるための啓発活動を実施します。

障がい者からの求めに応じて必要かつ合理的な配慮を適切に実施できるよう環境整備に取り組みます。

障がい者が利用しやすいよう窓口等の環境の整備や ICT の活用、印刷物の点字化・音声化を進め、職員の障がいや障がい者に対する正しい理解と意識向上を図り、障がい者に配慮した取組みを進めます。

## **(6) 地域福祉基盤の強化**

社会環境の変化に伴い福祉ニーズが複雑化・多様化し、既存の制度・枠組みを超えた支援の必要性が高まっています。地域の福祉課題（社会的孤立や増加する生活課題など）に地域全体で取り組み、住み慣れた地域の中で安心して暮らせるよう、地域福祉基盤の強化を図ります。

### **①「地域福祉のプラットフォーム」の構築**

「“こうべ”の市民福祉総合計画2020」に基づき、各区社会福祉協議会が主体となり、ふれあいのまちづくり協議会をはじめ、多様な関係者、関係機関とのネットワークを重層的に構築し、要支援者に対する円滑で柔軟な支援を実現します。

既存の制度では解決に結びつかない課題について、地域で支えあう仕組みづくりを行います。

## **(7) 貧困の連鎖防止に向けた取り組み**

複雑・多様な課題を抱えた生活困窮者が、地域で自立した生活が送れるよう、包括的な自立相談支援や就労の場の確保に向けた支援を実施するとともに、子どもたちが生活環境にかかわらず、将来的に自立した生活を営めるようになることを目的とした学習支援を実施し、さらには住宅困窮者への市営住宅の提供などを進めることなどにより、貧困の連鎖防止に取り組めます。

### **①包括的な自立相談支援**

各区に設置した自立相談支援窓口（くらし支援窓口）や地域福祉ネットワークを中心に、関係機関等と連携し、社会資源や地域ネットワークを活用することにより、社会的孤立に陥りがちな生活困窮者の早期発見に努めるとともに、包括的・継続的な相談支援を実施します。

### **②就労の場の確保に向けた支援**

直ちに一般就労が困難な者に対して、日常・社会生活の自立に向けた基礎能力の形成や職場体験の提供などを行う就労準備支援を実施するとともに、民間の事業所が実施する就労訓練事業（中間的就労）の開拓・育成を推進することなどにより、生活困窮者の個々の状況に応じたきめ細やかな就労支援を実施します。

### ③子どもの学習支援

生活困窮世帯等の子どもたちが、生活環境にかかわらず確かな学力と学習習慣を身に付けることにより、高等学校への進学や、将来的に自立した生活を営めるようになることを目的に、子どもの学習支援やその親に対する養育相談支援を実施します。

### ④住宅セーフティネットの構築

市営住宅について、住宅困窮度の高い世帯への確に住宅を提供するとともに、一部の住宅については若年単身世帯への提供を行います。

郊外の市営住宅団地の再編などにあわせ若年子育て用住宅を追加するなど住宅セーフティネットの核としての市営住宅の機能充実に向けた取組みを進めます。さらに、民間賃貸住宅を住宅セーフティネットとして活用するための取組みもあわせて進めます。

## (8) 障がい者が安心して暮らせるための支援

障がい者が地域で自立した生活が送れるよう住まいの確保を促進し、障がい者の就労を支援します。

障がいや障がい者に関する理解を進めます。

障がい者が安心して暮らし、その能力を発揮して活躍できる社会の実現を目指します。

### ①住まいの確保

障がい者の高齢化が進み、親亡き後に備えた対応が必要となっており、住み慣れた地域で安心して暮らしていけるよう、日常生活の支援を受けながら共同生活を営むグループホームの整備や障がい者向け市営住宅や民間住宅への入居支援など住まいの確保を促進します。

## ②障がい者が働く意欲を引き出せる多様な働き方の創造（再掲）

障がい者の中には、一般的な雇用の制度の中で働くことが難しく、個々人の多様な能力を十分に発揮できていない方がいます。

障がい者の、社会に貢献したい、働きたいという意欲や潜在的な能力を引き出せる多様な働き方を創造します。

障害者就労推進センターにおいて、地域の福祉・医療機関やハローワークなどの関係機関と連携を図りながら、障がい特性に配慮したきめ細やかな支援を行うなど、障がい者の一般就労支援を推進します。

障がい者の福祉的就労について、さらなる工賃アップを図るため、企業への PR、デザイナー・パティシエ等と連携した魅力ある商品づくりや販路拡大など総合的な支援を行います。

## ③障がい者差別の解消（再掲）

障がい者差別に関する相談に的確に応じ、障がい者を理由とする差別に関する紛争の防止・解決を図り、市民の障がいや障がい者に関する理解を深めるための啓発活動を実施します。

障がい者からの求めに応じて必要かつ合理的な配慮を適切に実施できるよう環境整備に取り組めます。

障がい者が利用しやすいよう窓口等の環境の整備や ICT の活用、印刷物の点字化・音声化を進め、職員の障がいや障がい者に対する正しい理解と意識向上を図り、障がい者に配慮した取組みを進めます。

## 地域と地域の連携づくり

### (1) 顔の見える地域社会づくりと支えあい活動の推進

「神戸市地域コミュニティ施策の基本指針」に基づき、地域ごとの特性に合わせた施策の展開を図り、地域人材育成の体系化やコミュニティビジネス<sup>※</sup>の促進など、地域コミュニティの持続的な活動を支援します。

重層的な地域福祉支援の仕組みづくりに取り組みます。

※ 地域課題の解決を地域住民が主体的に取り組み、対価を得ることでビジネスとして継続させていくこと。

#### ①総合的・自律的な地域コミュニティの環境づくり

「神戸市地域コミュニティ施策の基本指針」に基づき、多様な地域特性を踏まえた地域コミュニティ施策の展開を図り、助成制度や地域人材育成施策の体系化、地域を支援する体制の強化、老人クラブによる高齢者相互支援事業の充実強化など、元気な高齢者の地域福祉活動への参加支援、コミュニティビジネスの促進などにより地域コミュニティを支える環境をつくります。

まちづくり活動の性質、状況に応じた支援を行うことで、安全・安心で魅力と活力のある持続可能なまちを目指し、協働と参画のまちづくりを推進します。

#### ②「地域福祉のプラットフォーム」の構築（再掲）

「“こうべ”の市民福祉総合計画 2020」に基づき、各区社会福祉協議会が主体となり、ふれあいのまちづくり協議会をはじめ、多様な関係者、関係機関とのネットワークを重層的に構築し、要支援者に対する円滑で柔軟な支援を実現します。

既存の制度では解決に結びつかない課題について、地域で支えあう仕組みづくりを行います。

## (2) 市民とつながる区役所改革

さらなる市民サービスの向上に向け、市民とつながる区役所改革を進めます。

### ①さらなる市民サービスの向上

市民に最も身近な行政機関である区役所は、これまで以上に地域の総合行政拠点としての役割を果たすことが求められており、総合窓口の導入などによるワンストップサービス機能の充実、電子自治体の推進、社会保障・税番号制度（マイナンバー制度）を活用した行政手続きの簡素化など、より質の高い住民サービスの提供に取り組みます。

### ②区役所機能の充実

各区の実情に応じた地域の課題解決力を向上させるため、区長裁量予算をはじめとする区役所の自主性・主体性を発揮できる仕組みづくりを進めるとともに、行政サービス拠点となる区役所等庁舎の再整備に取り組むなど、さらなる区役所機能の充実を図ります。

## (3) 都市間連携

市域を越えた神戸圏域の発展を目指し、近隣市町と連携しながら経済の活性化や住民の利便性向上など魅力ある地域づくりに取り組みます。

### ①近隣市町との連携

「神戸隣接市・町長懇話会」などを通じて近隣市町とともに、広域的に神戸圏域の魅力発信や圏内住民の利便性向上、自治体職員の育成などに積極的に取り組みます。

### ②水道の安定供給体制強化に向けた県下市町との広域連携の検討と技術連携

技術者の人材不足と施設の老朽化が進む中、本市を含めた県下市町の水道の安定供給体制強化のため、阪神間に位置する、上水道・工業用水道を展開している事業者と広域連携について検討するとともに、県内の水道事業者を対象に水道技術に関する意見交換や技術的な連携を目的とした研究会を開催します。

渇水、災害、事故時でも、市民生活への影響を小さくするため、近隣市町と水を相互融通できる緊急時連絡管の整備を進めます。連絡管を整備した近隣市町と定期的に訓練を行い、情報交換や協力体制の強化を図ります。

## **(4) 縣市協調**

身近な行政サービスに関する権限移譲や関係機関の共同移転など、兵庫県と共に縣市協調の取組みを進め、県民・市民サービスの向上を図ります。

### **① 縣市協調**

「兵庫県・神戸市連絡会議」や「兵庫県・神戸市調整会議」などを通じて兵庫県と共に縣市協調の取組みをさらに進めます。

「県から市町への権限移譲検討会議」などを通じて市民に身近な行政サービスは神戸市が行うことを基本として県からの権限移譲に積極的に取り組みます。

### **② 新長田駅南再開発エリアへの兵庫県・神戸市関係機関の共同移転（再掲）**

阪神・淡路大震災でとりわけ甚大な被害を受けた新長田駅南地区においては、市街地再開発事業により、公共施設、住宅供給等のインフラ整備は進捗し、夜間人口は震災前の水準を超えていますが、昼間人口や小売業の事業所数・販売額の回復は遅れ足元商圈は衰弱化しており、勤労者や来街者の増加等、昼間人口の回復によるまちのにぎわいの創出が急務です。

このため、兵庫県と神戸市が協調し、関係機関を新長田駅南再開発エリアへ共同移転することにより、同地区の活性化と行政組織の業務の効率化、さらには県民・市民サービスの向上を図ります。

### **③ 県・市の中小企業支援機関の集約化**

神戸市産業振興センターに、ひょうご産業活性化センターが移転することにより、県と市の中小企業支援機関を集約化し、中小企業支援機能の強化に取り組みます。

# 卷末資料

## ◆◇◆目次◆◇◆

1. 神戸 2020 ビジョンの施策・事業の進捗度を測るためのK P I .....	1
2. 神戸人口ビジョンの概要 .....	11
3. 各区計画の概要 .....	17
4. 部門別計画一覧表.....	20
5. 2020 神戸創生懇話会名簿 .....	21
6. 審議経過 .....	24
7. 計画策定への市民参画.....	25

## 1. 神戸 2020 ビジョンの施策・事業の進捗度を測るための KPI

神戸 2020 ビジョンに掲げる個々の施策・事業の進捗度を測るため、KPI を設定します。なお、施策・事業の進捗状況を踏まえ、これらの KPI を随時見直します。

KPI	KPI 数値目標
<b>基本的方向① 若者に魅力的なしごとづくり</b>	
<数値目標> 市内就業者数:760,200 人(平成 29 年度) ⇒ 760,200 人以上(令和2年度)	
<b>(1)「革新」を生み出す新たな起業・創業、新事業創出支援の展開</b>	
短期重点支援プログラムに対する投資家からの資金投入件数、資金投入額	30 件、10 億円(平成 27 年度～令和2年度)
世界トップレベルのスタートアップ育成支援団体による投資件数	40 件(平成 28 年度～令和2年度)
新事業創発プログラムによる事業創出件数	10 件(平成 28 年度～令和2年度)
(公財)新産業創造研究機構による知財活用支援による製品化・事業化件数	60 件(平成 27 年度～令和2年度) [9件(平成 26 年度)]
スタートアップのための成長資金調達額	4,000 万円(平成 28 年度～令和2年度)
新事業創造プラットフォームによる新事業の展開、新規企業の年間立ち上げ件数	100 件(令和2年度)
<b>(2)成長産業の企業誘致等の促進</b>	
誘致企業数(医療関連企業を含む)	287 社以上(平成 27 年度～令和2年度) [204 社(平成 22 年度～26 年度)]
雇用創出数(医療関連企業を含む)	8,326 人以上(平成 27 年度～令和2年度) [6,374 人(平成 22 年度～26 年度)]
阪神港の国際基幹航路等の便数(北米・欧州など)	①欧州基幹航路 週2便(平成 27 年度) → 週3便(令和2年度) ②北米基幹航路 6曜日寄港(平成 27 年度) → デイリー化(令和2年度) ③南米等航路 新規航路開設 (平成 27 年度～令和2年度)
3空港一体運営による利便性向上・ネットワークの充実(就航都市数)	6都市(平成 27 年度) → 10 都市(令和2年度)

航空・宇宙関連企業及び集客・にぎわい施設の誘致件数	5件(平成27年度～令和2年度)
<b>(3)次代の基幹産業の育成・振興 ①</b>	
神戸市の航空機関連の製造品出荷額	524億円(平成25年)→ 1,150億円(令和2年)
市内中小企業に対する航空・宇宙分野の新規参入・受注拡大支援企業数	50社(平成27年度～令和2年度)
誘致企業数(医療関連企業を含む)(再掲)	287社以上(平成27年度～令和2年度) [204社(平成22年度～26年度)]
雇用創出数(医療関連企業を含む)(再掲)	8,326人以上(平成27年度～令和2年度) [6,374人(平成22年度～26年度)]
大手企業等との共同開発や部材提供等による水素産業参入企業数	5社(平成27年度)→ 30社(令和2年度)
ロボット産業への新規参入企業数	50社(平成28年度～令和2年度)
サービスロボットの製品化件数	35件(平成28年度～令和2年度)
オープンデータ公開件数	149件以上(平成27年度～令和2年度) [30件(平成26年度)]
アフリカ市場におけるビジネス創出件数	10件(平成27年度～令和2年度)
<b>(4)次代の基幹産業の育成・振興 ②</b>	
ファーマーズマーケット年間開催回数・来場者数	9回、4,500人(平成27年度)→ 50回、50,000人(令和2年度)
農水産物輸出品目数	3品目(平成27年度)→ 21品目以上(令和2年度)
農業へのICT導入人数	200人(平成27年度～令和2年度)
新たな「道の駅」の年間来場者数	0人(平成26年度)→ 66万人以上(令和2年度)
<b>(5)神戸の中小企業・商業事業者等の競争力強化</b>	
海外展示会等出展数	173社以上(平成27年度～令和2年度)
神戸市の航空機関連の製造品出荷額(再掲)	524億円(平成25年)→ 1,150億円(令和2年)
市内中小企業に対する航空・宇宙分野の新規参入・受注拡大支援企業数(再掲)	50社(平成27年度～令和2年度)

誘致企業数(医療関連企業を含む)(再掲)	287社以上(平成27年度～令和2年度) [204社(平成22年度～26年度)]
雇用創出数(医療関連企業を含む)(再掲)	8,326人以上(平成27年度～令和2年度) [6,374人(平成22年度～26年度)]
神戸リエゾン・ラボ(ものづくり工場内)活用による新規開発件数	50件(平成27年度～令和2年度)
空き店舗年間解消件数	67件以上(令和2年度)
<b>(6)人材の確保・育成</b>	
学生・教職員に対する市内就職の意識啓発、市内企業とのマッチング等の年間実施件数	4件(平成26年度) → 10件以上(令和2年度)
就労目的の在留資格を持つ外国人の数	3,829人(平成26年度) → 5,447人以上(令和2年度)
中小製造業と若年者との年間マッチング件数	0件(平成26年度) → 100件(令和2年度)
神戸市立工業高等専門学校における新たな教育プログラムの設置件数	3件(平成29年度～31年度)
<b>基本的方向② 若者を惹きつける魅力づくり</b>	
<b>&lt;数値目標&gt;東京圏(東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県)への若年世代の転出超過数の解消</b> 2,458人(平成26年度) ⇒ 解消(令和2年度)	
<b>(1)移住・定住の促進</b>	
東京圏(東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県)への若年世代の転出超過数の解消	2,458人(平成26年度) → 解消(令和2年度)
市内宿泊客数	508万人(平成26年) → 590万人(令和2年)
外国人観光客数	74.5万人(平成26年) → 130万人(令和2年)
観光入込客数	3,543万人(平成26年) → 3,900万人(令和2年)
観光消費額	3,260億円(平成26年) → 3,700億円(令和2年)

「MADE IN KOBE」プロダクト(コラボ商品)の商品化件数	20 件(平成 28 年度～31 年度)
<b>(2)大学等の活性化</b>	
学生・教職員に対する市内就職の意識啓発、市内企業とのマッチング等の年間実施件数(再掲)	4件(平成 26 年度) → 10 件以上(令和2 年度)
就労目的の在留資格を持つ外国人の数(再掲)	3,829 人(平成 26 年度) → 5,447 人以上(令和2年度)
<b>(3)都心・三宮の再整備</b>	
三宮駅周辺ビル再建等検討件数	5件以上(平成 27 年度～令和2年度)
フラワーロード光のミュージアム整備延長	0.6km(平成 26 年度) → 1.4km(令和2年度)
都心部における公共空間のリデザイン実施延長	延長3km(平成 27 年度～令和2年度)
<b>(4)開港 150 年・ウォーターフロントの再整備</b>	
住機能の導入及び新たな施設立地による年間集客人数	500 戸(平成 27 年度～令和2年度)、年間 30 万人(令和2年度)
市民と港湾関係者の交流施設(「神戸港福利厚生施設神戸ポートオアシス」多目的ホール)の利用率	30%(平成 26 年度) → 50%(令和2年度)
観光入込客数(神戸港)	410 万人(平成 26 年) → 487 万人以上(令和2年)
須磨海岸年間来場者数	79 万人(平成 26 年度) → 100 万人(令和2年度)
須磨海岸の健全度の向上 (ファミリー向けイベント年間開催件数の増加)	54 件(平成 26 年度) → 100 件(令和2年度)
神戸港の夜間景観演出エリアの拡大件数	4エリア(平成 26 年度) → 10 エリア(令和2年度)
<b>(5)新長田地区の活性化</b>	
新長田駅南再開発エリアの夜間人口	5,863 人(平成 27 年7月) → 6,100 人(令和2年度)
新長田駅南再開発エリアの昼間人口	3,499 人(平成 24 年) → 4,500 人(令和2年度)

<b>(6)「神戸里山暮らし」の推進</b>	
新規就農者数	250人(平成27年度～令和2年度) 〔48人(平成26年度)〕
農村部への移住・起業数	100件(平成27年度～令和2年度)
<b>(7)六甲山の魅力化促進</b>	
六甲・摩耶の観光入込客数	193万人(平成26年) → 230万人(令和2年)
<b>(8)神戸ブランドを牽引する魅力あふれるまちづくり</b>	
歴史的建築物等の保全活用に向けた景観形成重要建築物等の指定棟数	5棟(平成27年度～令和2年度) 〔1棟(平成26年度)〕
須磨海岸年間来場者数(再掲)	79万人(平成26年度) → 100万人(令和2年度)
須磨海岸の健全度の向上 (ファミリー向けイベント年間開催件数の増加)(再掲)	54件(平成26年度) → 100件(令和2年度)
客船の年間入港隻数	100隻(平成26年) → 150隻(令和2年)
<b>(9)観光客の誘致</b>	
市内宿泊客数(再掲)	508万人(平成26年) → 590万人(令和2年)
外国人観光客数(再掲)	74.5万人(平成26年) → 130万人(令和2年)
観光入込客数(再掲)	3,543万人(平成26年) → 3,900万人(令和2年)
観光消費額(再掲)	3,260億円(平成26年) → 3,700億円(令和2年)
観光客向け公式スマートフォンアプリ総ダウンロード数	10万ダウンロード(平成27年～31年)
フラワーロード光のミュージアム整備延長(再掲)	0.6km(平成26年度) → 1.4km(令和2年度)
須磨海岸年間来場者数(再掲)	79万人(平成26年度) → 100万人(令和2年度)
須磨海岸の健全度の向上 (ファミリー向けイベント年間開催件数の増加)(再掲)	54件(平成26年度) → 100件(令和2年度)

客船の年間入港隻数(再掲)	100 隻(平成 26 年) → 150 隻(令和2年)
歴史的建築物等の保全活用に向けた景観形成重要建築物等の指定棟数(再掲)	5棟(平成 27 年度～令和2年度) 〔1棟(平成 26 年度)〕
「MADE IN KOBE」プロダクト(コラボ商品)の商品化件数(再掲)	20 件(平成 28 年度～平成31年度)
国際会議の開催件数	82 件(平成 26 年) → 419 件以上(令和2年)
中・大規模の国内会議の開催件数	50 件(平成 26 年) → 129 件以上(令和2年)
<b>(10)芸術・文化、スポーツの振興</b>	
まちかどステージ観客数	9,650 人(平成 27 年度) → 17,330 人以上(令和2年度)
神戸市で開催される国際級・全国級スポーツイベントの開催件数	135 件(平成 27 年度～令和2年度) 〔122 件(平成 22 年度～26 年度)〕
<b>基本的方向③ 若い世代の結婚・出産・子育て・教育を優先できる社会システムづくり</b> <数値目標>・市内出生数(約 12,000 人)の現状維持 12,437 人(平成 25 年度) ⇒ 現状維持(令和2年度) ・保育所等利用待機児童の解消 令和2年度までに待機児童を解消 〔参考〕保育所等利用待機児童数:13 人(平成 27 年4月1日)	
<b>(1)妊娠・出産・子育てに切れ目のない支援</b>	
教育・保育施設等の利用定員	24,569 人(平成 27 年 4 月 1 日) → 27,269 人以上(令和2年度)
学童保育で高学年を受け入れている施設の割合(公設)	12.1%(平成 26 年度) → 100%(令和2年度)
延長保育実利用人数	5,008 人(平成 26 年度) → 3,725 人(令和2年度)
一時預かり利用人数	748,167 人(平成 26 年度) → 967,783 人(令和2年度)
ファミリー・サポート・センター週あたりの活動件数	109 件(平成 26 年度) → 554 件(令和2年度)

親・子世帯の近居・同居住み替え助成事業により親・子世帯が近居・同居を行った件数	400 件(平成 27 年度～令和2年度) 〔90 件(平成 26 年度)〕
児童養護施設本体施設への措置・委託児童数の割合	87.3%(平成 26 年度) → 71.7%(令和2年度)
グループホームへの措置・委託児童数の割合	6.1%(平成 26 年度) → 15.8%(令和2年度)
里親等への措置・委託児童数の割合	6.6%(平成 26 年度) → 12.5%(令和2年度)
<b>(2)教育環境の充実</b>	
学習支援ツール導入校数	20 校(平成 26 年度) → 250 校以上(令和2年度)
グラウンド等学校施設の安全性向上件数	293 箇所以上(平成 28 年度～令和2年度)
特別支援学校に配置する看護師1人あたりの医療的ケア対応児童生徒数	8.4 人(平成 26 年度) → 5 人(令和2年度)
特別支援学校建設(新設2校)の進捗管理	10%(平成 26 年度) → 100%(令和2年度)
<b>(3)働き方改革の推進</b>	
新規在宅ワーカー数	1,000 人(平成 28 年度～令和2年度)
ネットモニター調査におけるワーク・ライフ・バランスの認知度	49%(平成 27 年度) → 70%(令和2年度)
未就労女性支援件数	300 件(平成 28 年度～令和2年度)
<b>基本的方向④ 次世代の将来を約束できる環境づくり</b>	
<b>(1)公共交通網の整備</b>	
地域主体の生活交通への支援地区数	23 地区(平成 27 年度～令和2年度) 〔2地区(平成 26 年度)〕
<b>(2)陸・海・空の交通基盤の充実</b>	

阪神港の国際基幹航路等の便数(北米・欧州など)(再掲)	①欧州基幹航路 週2便(平成27年度) → 週3便(令和2年度) ②北米基幹航路 6曜日寄港(平成27年度) → デイリー化(令和2年度) ③南米等航路 新規航路開設 (平成27年度～令和2年度)
3空港一体運営による利便性向上・ネットワークの充実(就航都市数)(再掲)	6都市(平成27年度) → 10都市(令和2年度)
<b>(3)環境貢献都市の推進</b>	
<b>(4)神戸の豊かな自然を守る</b>	
六甲・摩耶の観光入込客数(再掲)	193万人(平成26年) → 230万人(令和2年)
<b>基本的方向⑤ 安心なくらしづくり</b>	
<数値目標>地区防災計画策定数 86地区以上(平成28年度～令和2年度)	
<b>(1)多様な住まいづくり</b>	
親・子世帯の近居・同居住み替え助成事業による子世帯の計画的開発団地(ニュータウン)への流入件数	160件(平成27年度～令和2年度) [34件(平成26年度)]
計画的開発団地(ニュータウン)の近隣センター・サブセンター・会館のリニューアル件数及び若年世帯向け新規住宅供給戸数	3件、400戸(平成27年度～令和2年度)
新規就農者数(再掲)	250人(平成27年度～令和2年度) [48人(平成26年度)]
農村部への移住・起業数(再掲)	100件(平成27年度～令和2年度)
空き家率	13.1%(平成25年度) → 12.5%(令和2年度)
既存住宅の流通シェア率	26.9%(平成25年度) → 30.0%(令和2年度)
道路のリデザイン実施延長	延長 30 km(平成27年度～令和2年度)
身近な公園再整備数	10箇所(平成27年度～令和2年度)
<b>(2)神戸における国土強靱化の推進</b>	
河川改修	延長 1,840m、橋梁改良5橋 (平成27年度～令和2年度)
上水道の送水バックアップ率	60%(平成26年度) → 80%(令和2年度)

汚水管渠の再構築(耐震化)済エリア内屋間人口	15万人(平成27年度) → 33万人(令和2年度)
防潮堤の補強延長	既成市街地の人家部及び都心部の浸水面積を概ね96%縮減 (平成27年度から概ね6か年)
橋梁(緊急輸送道路に架かる15m以上の橋梁)の耐震化率	72.3%(平成26年度) → 85%(令和2年度)
住宅の現況耐震化率	91%(平成25年) → 95%(令和2年)
多数の者が利用する建築物の現況耐震化率	86%(平成26年) → 95%(令和2年)
地区防災計画策定数	86地区以上(平成28年度～令和2年度)
まちなか防災空地整備件数	49箇所以上(平成27年度～令和2年度) [21箇所(平成24年度～26年度)]
<b>(3)健康寿命の延伸</b>	
親・子世帯近居・同居住み替え助成事業による子世帯の計画的開発団地(ニュータウン)への流入件数(再掲)	160件(平成27年度～令和2年度) [34件(平成26年度)]
計画的開発団地(ニュータウン)の近隣センター・サブセンター・会館のリニューアル件数及び若年世帯向け新規住宅供給戸数(再掲)	3件、400戸(平成27年度～令和2年度)
誘致企業数(医療関連企業を含む)(再掲)	287社以上(平成27年度～令和2年度) [204社(平成22年度～26年度)]
雇用創出数(医療関連企業を含む)(再掲)	8,326人以上(平成27年度～令和2年度) [6,374人(平成22年度～26年度)]
<b>(4)安全・安心な地域づくり</b>	
<b>(5)ユニバーサルデザインのまちづくり</b>	
子どもや学生への出前授業等の受講者数	2万3千人(平成28年度～令和2年度)
神戸市バリアフリー基本構想において選定された重点整備地区における生活関連経路等のバリアフリー化	5.46km(平成27年度～令和2年度) [0.28km(平成26年度)]
歩道の段差・波打ちの解消	延長10km(平成27年度～令和2年度) [1.9km(平成26年度)]
公園における主要園路の段差解消等	51%(平成26年度) → 68%(令和2年度)

地下鉄駅施設における計画的なバリアフリー整備の推進	西神・山手線三宮駅ホームドアの設置 (平成 27 年度～29 年度)
<b>(6) 地域福祉基盤の強化</b>	
<b>(7) 貧困の連鎖防止に向けた取組み</b>	
<b>(8) 障がい者が安心して暮らせるための支援</b>	
グループホーム(定員数)	600 人(平成 27 年度見込) → 850 人(令和 2 年度)
<b>基本的方向⑥ 地域と地域の連携作り</b>	
<数値目標> 県及び近隣市町との連携による取組み件数 7 件以上(平成 27 年度～令和 2 年度)	
<b>(1) 顔の見える地域社会づくりと支え合い活動の推進</b>	
<b>(2) 市民とつながる区役所改革</b>	
<b>(3) 都市間連携</b>	
県及び近隣市町との連携による取組み件数	7 件以上(平成 27 年度～令和 2 年度) [2 件(平成 26 年度)]
近隣市町との緊急時連絡管整備箇所数	9 箇所(平成 27 年度) → 12 箇所(平成 31 年度)
<b>(4) 縣市協調</b>	
県及び近隣市町との連携による取組み件数(再掲)	7 件以上(平成 27 年度～令和 2 年度) [2 件(平成 26 年度)]
新長田駅南再開発エリアの夜間人口(再掲)	5,863 人(平成 27 年 7 月) → 6,100 人(令和 2 年度)
新長田駅南再開発エリアの昼間人口(再掲)	3,499 人(平成 24 年) → 4,500 人(令和 2 年度)

## 2. 神戸人口ビジョンの概要

### 1 策定の趣旨

国において、「我が国の急速な少子高齢化の進展に的確に対応し、将来にわたって活力ある日本社会を維持する」ため、「まち・ひと・しごと創生法」が2014年（平成26年）11月に制定され、人口の現状と将来の展望を提示する「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」と、今後5か年の政府の政策目標や施策の基本的方向、具体的な施策・事業をまとめた「まち・ひと・しごと創生総合戦略」が同年12月に閣議決定されました。

これを踏まえ、神戸市においても、人口の現状と将来展望を提示する「神戸人口ビジョン」と、人口減少に対応する今後5か年の神戸市の具体的な事業をまとめる「神戸創生戦略」を策定し、産官学金労言など多様な市民・事業者等とともに総力を挙げて、他都市のモデルとなるような先進的・先駆的な地方創生に取り組みます。

### 2 計画期間

「神戸人口ビジョン」は、国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」を踏まえ2060年（平成72年）までとし、2060年（平成72年）を見据えた、神戸市の人口の現状と将来展望等を示すものです。

### 3 策定体制

「神戸人口ビジョン」の策定にあたっては、国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」の策定に先立ち2014年（平成26年）7月に設置した「今後の神戸市の人口動態に関する有識者会議」での研究分析結果を活用することとしました。

本有識者会議では、神戸市顧問で「日本創成会議」座長でもある増田寛也氏の参画も得ながら、3名の人口関係の外部有識者のもと、統計データ分析や将来人口推計などにかかる研究分析が進められ、「今後の神戸市の人口動態に関する有識者会議報告書」をとりまとめられました。

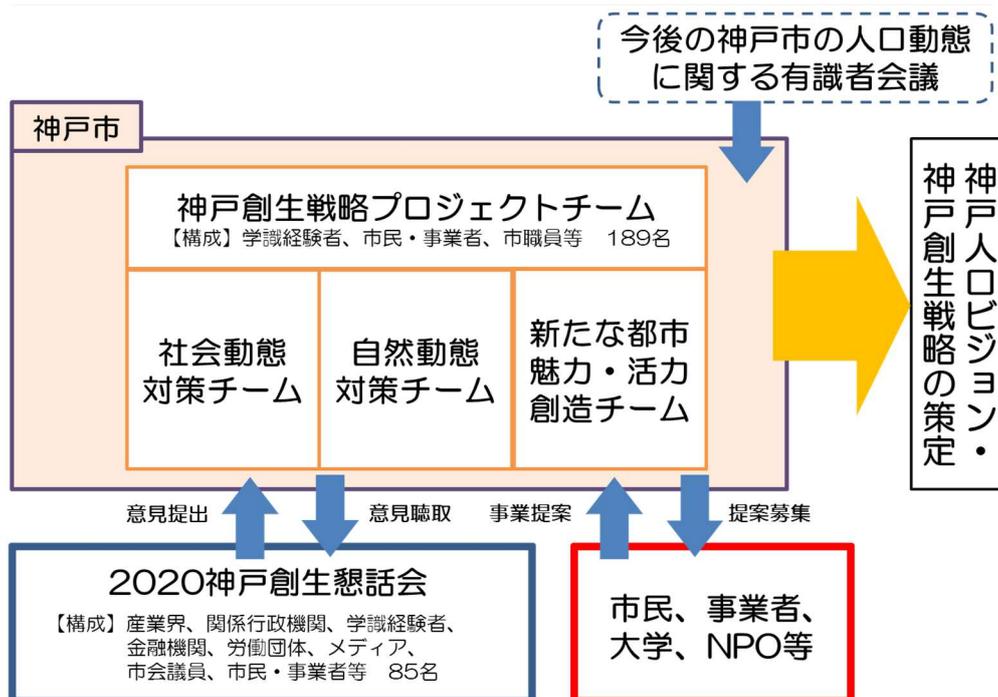
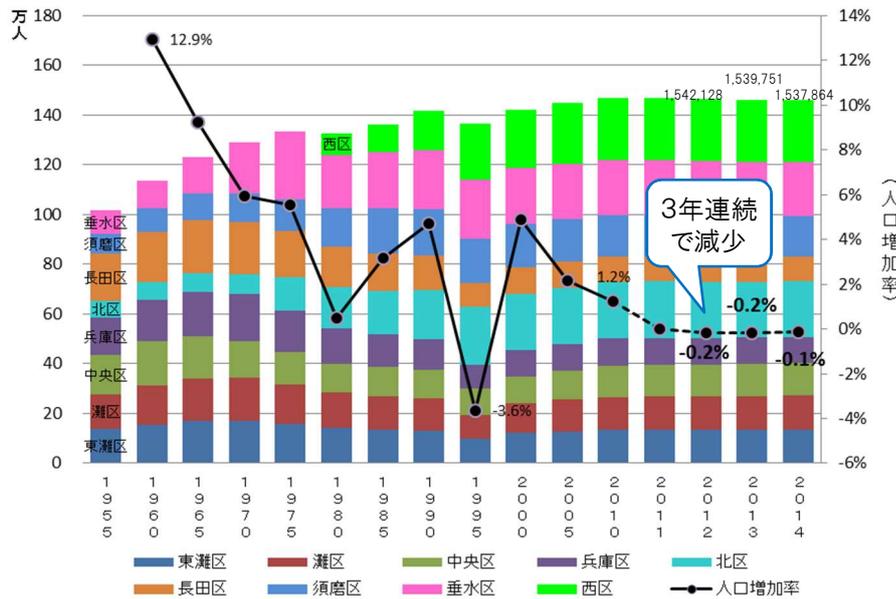


図-1 神戸人口ビジョン及び神戸創生戦略の策定体制

## 4 人口の現状分析

### (1) 総人口の推移 ～人口減少局面に突入～

神戸市の総人口は、約 153 万 7 千人（2014 年（平成 26 年）10 月 1 日時点）であり、2012 年（平成 24 年）を転換点として人口増加率がマイナスとなり、人口の減少局面に入っています。



※2011 年以降は国勢調査結果に基づく推計人口である。2011 年以降の人口増加率は 1 年間での増加率を示している。

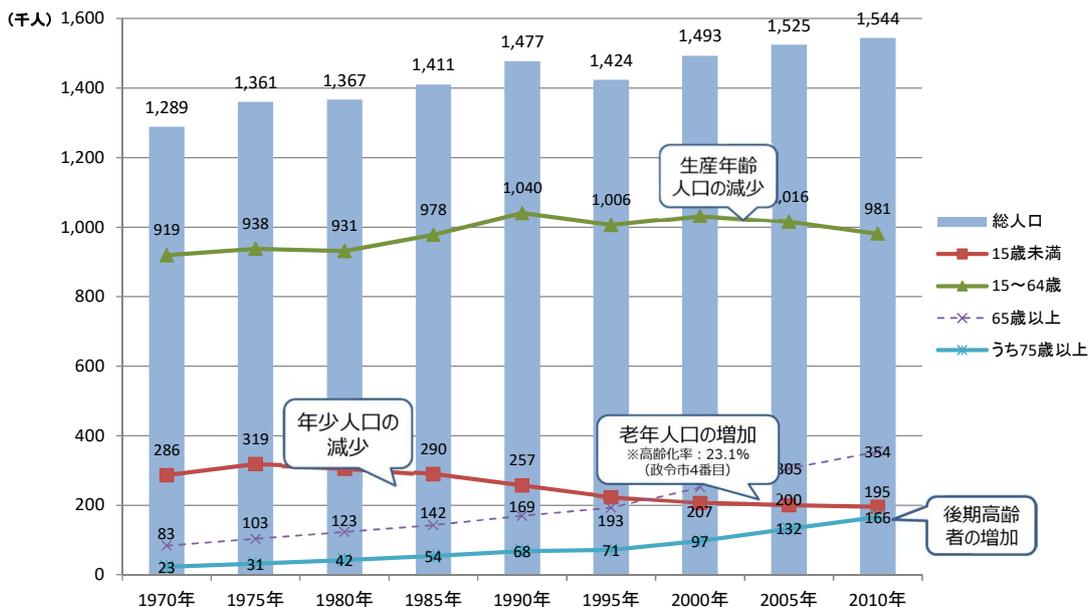
出典：国勢調査結果及び神戸市統計報告「人口の動き」

図一 神戸市の総人口推移

### (2) 年齢 3 区分別の人口推移 ～急速な高齢化の進行～

年少人口（15 歳未満）は 1975 年（昭和 50 年）をピークに減少しており、総人口に占める割合は 12.7% となっています。

老年人口（65 歳以上）は一貫して増加が続き、その割合は 2010 年（平成 22 年）で 23.1% であり、この 15 年間で約 10 ポイント上昇しており、急速な高齢化が進行しています。

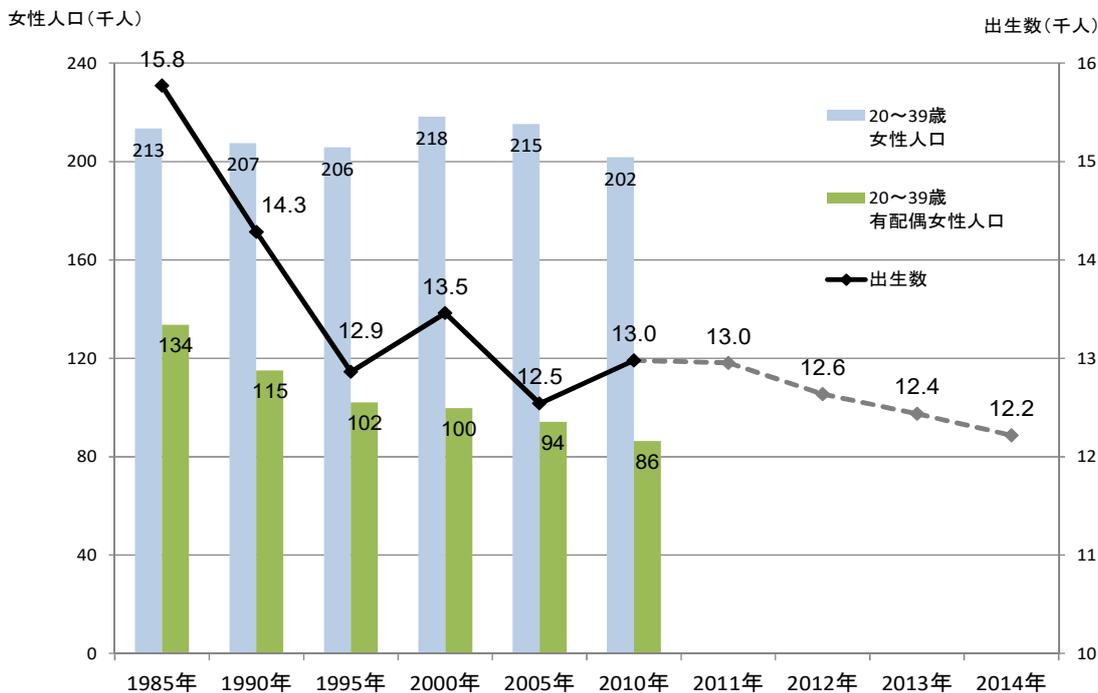


出典：国勢調査

図一 神戸市の年齢 3 区分別人口の推移

### (3) 晩婚化、晩産化の推移 ～晩婚化、晩産化により進む出生数の減少～

1985年（昭和60年）から2010年（平成22年）までの25年間で、20～39歳の女性人口のうち、結婚している有配偶の人口は約3割以上減少しています。わが国では9割以上の子どもが結婚した男女から生まれる現状を踏まえると、有配偶の女性人口の減少は出生数の減少に直結すると考えられます。



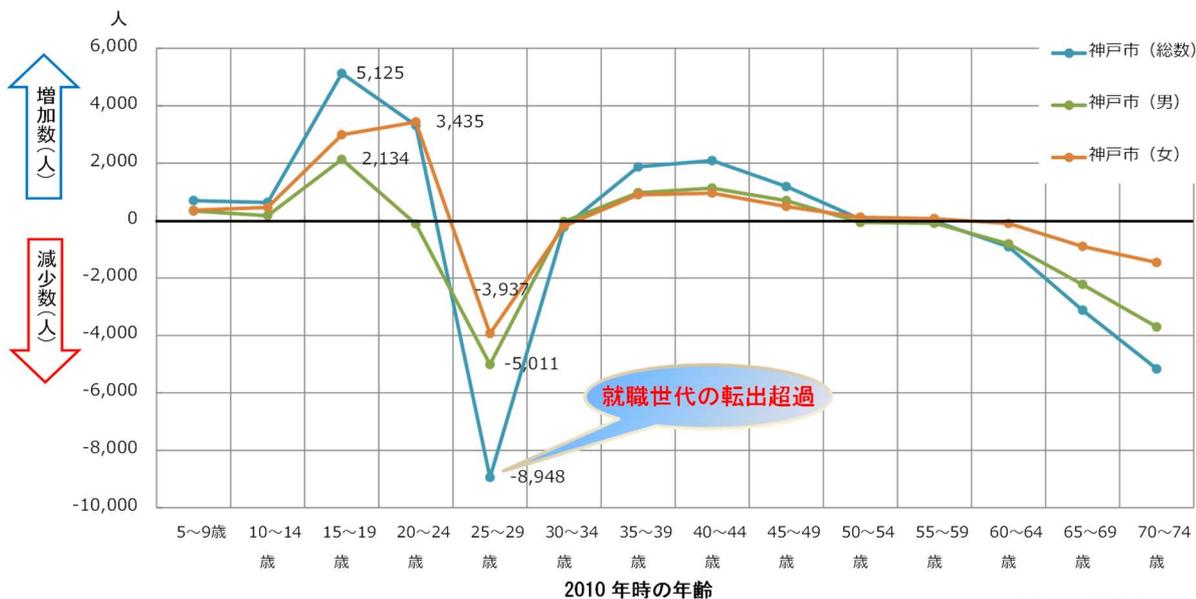
図－4 20～39歳女性人口と出生数の推移

出典：国勢調査より算出

### (4) コーホート※世代別の転出入の状況 ～大学等卒業、就職時の流出超過～

神戸市の人口動態の特徴として、15～19歳という高校卒業時期のコーホート人口が増加し、大学や短大、専門学校卒業者の就職時期に当たる20～24歳、25～29歳のコーホート人口では逆に大きく減少する傾向があります。特に男性は10代後半の転入超過を上回る転出超過が生じています。

※コーホート：同年（又は同期間）に出生した集団

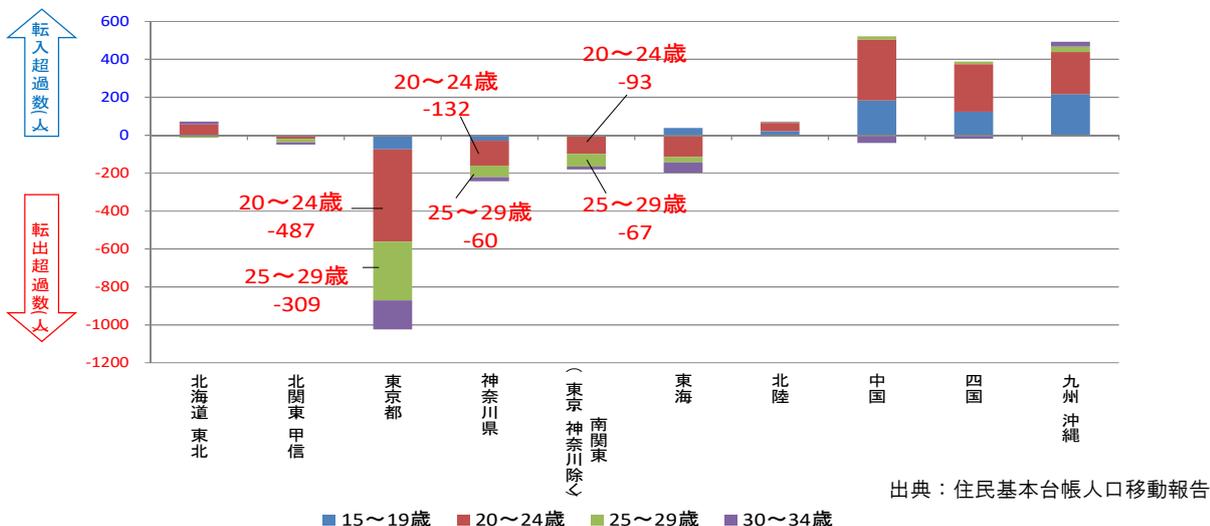


図－5 神戸市 コーホート人口増減数（2005、2010年）

出典：国勢調査

(5) 全国の地域ブロック別の転出入の状況 ～東京圏への転出超過傾向～

15歳から35歳の若年層を抽出して、年齢階層別の転出入超過傾向をみると、東京都への転出超過は直近の動向でも1千人前後が続いており、特に20代の転出超過が著しくなっています。神奈川県などに対しても同様の傾向を示しており、東京圏への若者の流出傾向が強くなっています。

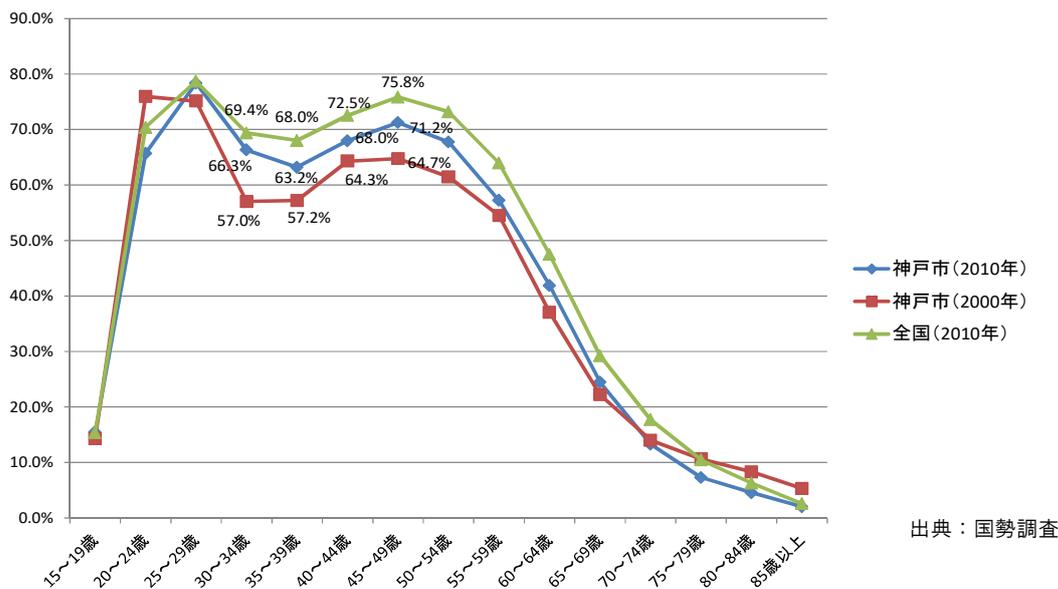


図一六 地域ブロック別(近畿圏を除く)にみた若年層における年齢5歳階級別転入・転出超過数(2013年)

(6) 女性の就業状況 ～全ての年代で低い女性の労働力率～

年齢別の女性の労働力率をみると、神戸市は46.1%と、大都市の平均値である51.4%と比べ、約5ポイント低く、全ての年齢階級で労働力率が低くなっています。とりわけ出産・子育てのライフステージに重なる30代において比率が低下しており、いわゆるM字カーブ\*を描いていますが、40代になると職場復帰、再就職が進み比率は回復します。もっとも、その内訳は「家事のほか仕事」といった就労形態が増加しており、パートタイムなど非正規で働くスタイルなどが多いと考えられます。

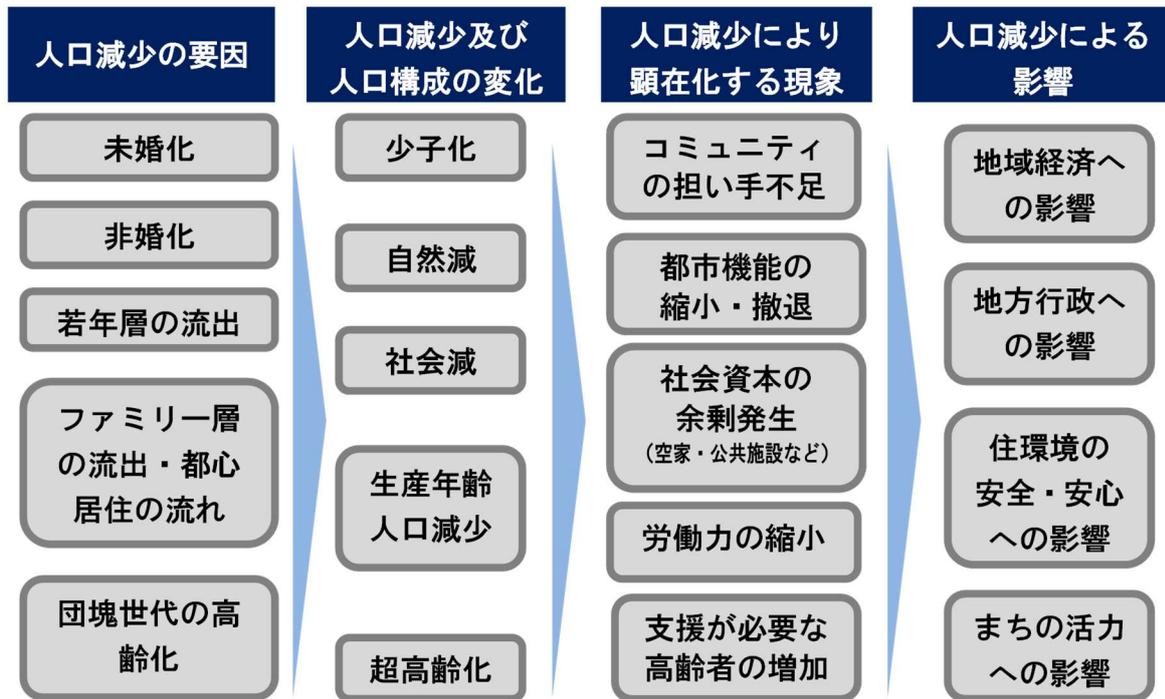
\*M字カーブ：日本人女性の年齢階級別の労働力率（15歳以上の人口に占める求職中の人も含めた働く人の割合）をグラフで表したときにみられるアルファベットの「M」のかたちに似た曲線の形態。



図一七 女性の年齢別労働力人口比率

(7) 人口変化が将来に与える影響

神戸市における人口減少は、「未婚化・非婚化」、「若年層・ファミリー層の流出」、「団塊世代の高齢化」など様々な要因により進行し、人口減少に伴う「地域経済への影響」、「地方行政への影響」、「住環境の安全・安心への影響」、「まちの活力への影響」といった影響の発生が予想されます。



図－8 人口減少の要因、変化、影響

## 5 人口の将来展望を踏まえた全体目標と施策の基本目標

### (1) 全体目標

- 年間 12,000 人の出生数を維持
- 若者の神戸市への転入を増やし、東京圏への転出超過 年間 2,500 人を解消

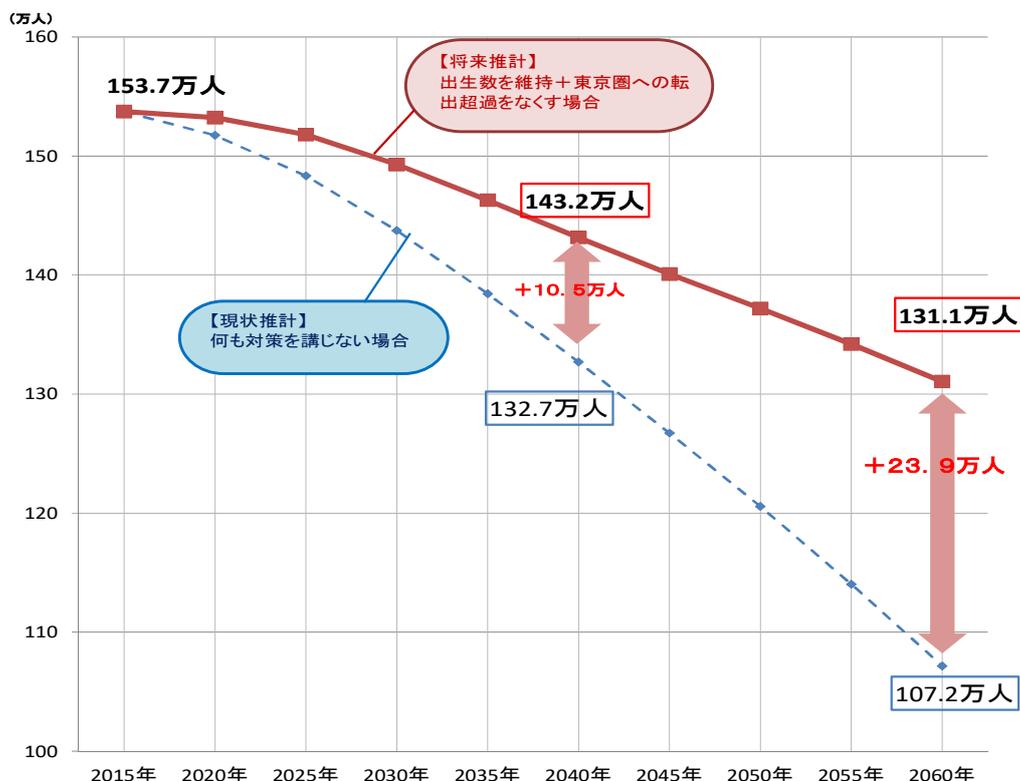
### (2) 施策の基本目標

人口減少に歯止めをかけ、極点社会を回避し、神戸市が将来にわたって多様で活力ある地域社会を維持し、魅力あふれる都市として発展していくために、以下の基本目標を踏まえた施策を、行政や議会だけでなく産業界、大学、金融機関、マスコミ、住民等が総力をあげて展開します。

- ①安定した雇用を創出する
- ②新しいひとの流れをつくる
- ③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
- ④時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

### (3) 人口の将来展望（推計結果）

全体目標を実現するため、基本目標を踏まえた施策を講じることにより、何も対策を講じない場合と比較して、2040年（平成52年）で10.5万人、2060年（平成72年）で23.9万人の人口減少を抑制します。その結果、2060年の人口は131.1万人と推計されます。



(前提条件) ○基準人口：2015年（平成27年）1月1日現在の推計人口1,537,237人

○生残率：国立社会保障・人口問題研究所の「日本の地域別将来推計人口」での設定値を使用

○純移動率：直近の住民基本台帳人口と外国人登録人口の増減数より算出した値を使用

図一 9 人口の将来展望（推計結果）

### 3. 各区計画の概要

#### 1 位置づけ

各区計画は、基本構想の実現のための基本計画の一部を構成し、「神戸づくりの指針」および「神戸 2020 ビジョン」と相互に連携しながら一体的にその内容に取り組んでいきます。

#### 2 考え方

各区計画は、各区の個性や特性を活かし、生活に密着した分野を中心に、区民と目標を共有し協働で取り組むための計画として、区民や地域団体等の意見を聞きながら、各区の区民まちづくり会議と共に策定しました。

各区計画の推進にあたっては、区民まちづくり会議の協力を得て評価・検証し、その結果を踏まえて改善に取り組む形で計画の進行管理を行っていきます。

#### 【参考】 区民まちづくり会議

区のまちづくりについて、区民が自ら話し合うとともに、区民の創意や活力を生かした各種の実践活動を進め、市民・事業者・行政による協働のまちづくりを地域から先導する場として平成6年に設置しました。1期2年単位で、地縁団体やボランティア、NPO、大学関係者など多様な市民層から、各区ごとに約50人前後の委員を市長より委嘱しており、区民活動の企画・検討や実践、市政への提言などに取り組んでいます。

## <各区の将来像と2020年度までのテーマ等>

### 1 東灘区計画 すてきがあふれ、交流の風が吹くまち「ふるさと都市・東灘」

#### 【重点テーマ】

- ① 未来の大人をまちが育てる～のびのびと育つ～
- ② まちが見守り支えあう～安心して暮らす～
- ③ まちの魅力をみがき、活力を与える～わくわくがあふれる～
- ④ 自然に親しみ、健康や環境を大切にする～いきいきと過ごす～
- ⑤ みんなが主体となって、互いに育ちあいながらまちをつくる～であい、つなぎあい、育ちあい～

### 2 灘区計画 豊かな自然と笑顔あふれる住み続けたいまち

#### 【重点テーマ】

- ① 「つながり」 ふれあいで人と人がつながるまちづくり
- ② 「あんしん」 安心・安全に暮らせるまちづくり
- ③ 「思いやり」 生活マナーを守る 気持ちよく暮らせるまちづくり
- ④ 「はぐくみ」 子ども達を健やかにはぐくむまちづくり
- ⑤ 「やさしさ」 誰もが健康でいきいきと暮らせるまちづくり
- ⑥ 「やすらぎ」 豊かな自然と歴史・文化を生かしたまちづくり
- ⑦ 「にぎわい」 にぎわいと活力のあるまちづくり

### 3 中央区計画 わたしの都心中央区～くらす魅力、つどう魅力、多彩な個性が響きあう都心～

#### 【重点テーマ】

- ① 安全・安心なまちづくり
- ② みんなが暮らしやすいまちづくり
- ③ 神戸文化がいきづく美しいまちづくり
- ④ 地域の担い手を育てるまちづくり
- ⑤ 戦略的な情報発信

### 4 兵庫区計画 やさしさと思いやりのまち 兵庫

#### 【わがまち兵庫の姿】

- ① 日頃から防災力・防犯力が高いまち
- ② 津波・土砂災害への対応力が高いまち
- ③ 子どもと高齢者の笑顔があふれるまち
- ④ だれもが暮らしやすいまち
- ⑤ 地域の売りでにぎわうまち
- ⑥ みんなが主役のまち
- ⑦ 情報がリアルタイムにつたわるまち

## 5 北区計画 人が集い安心して暮らせる魅力あふれる緑といで湯のまち

### 【まちづくりの目標】

- ① 人が集うまち
- ② 安心して暮らせるまち
- ③ 魅力あふれるまち

## 6 長田区計画 世界に誇れ！食と鉄人「ゲー」なまち 長田

### 【目標像】

- ① 誰もが暮らしやすい未来のあるまち
- ② みんなが癒され居心地のいいまち
- ③ わたしの「おもろい」が見つかるまち

## 7 須磨区計画 地域の力と情熱があふれる住みよいまち－須磨－

### 【重点テーマ】

- ① 魅力が輝く美しいまちをめざす
- ② やさしさあふれる元気なまちをめざす
- ③ 安全安心なまちをめざす

## 8 垂水区計画 住みたい 住み続けたいまち 垂水

### 【取り組みの指針】

- ① 住む人がより「暮らしやすい」まち～安全で安心なまちづくり～
- ② 景観を生かして人を呼び込むまち
- ③ 遊・創・学が身近なまち

## 9 西区計画 美しいまち西区 新しい田園都市をめざして

### 【わがまちの姿】

- ① みんながつくる安全で安心して暮らせるまち
- ② あらゆる人に支援が行きわたるまち
- ③ くらしや地域活動を楽しむまち
- ④ あらゆる人がともにいきいきと過ごせるまち
- ⑤ 自然とともにこころ豊かに暮らせるまち

## 4. 部門別計画一覧表

No.	計画名称	所管	計画期間
1	安全都市づくり推進計画（防災事業計画）	危機管理室	2016年度～2020年度
2	第10次神戸市交通安全計画	危機管理室	2016年度～2020年度
3	「デザイン都市・神戸」を推進するための基本的方針	企画調整局	2007年12月～
4	「港都 神戸」ランドデザイン	企画調整局	2011年度～（20～30年後）
5	神戸市消費生活あんしんプラン 2020～第3次神戸市消費者基本計画～	市民参画推進局	2016年度～2020年度
6	神戸市男女共同参画計画（第4次）	市民参画推進局	2016年度～2020年度
7	神戸市配偶者等暴力（DV）対策基本計画（第3次）	市民参画推進局	2016年度～2020年度
8	“こうべ”の市民福祉総合計画 2020	保健福祉局	2016年度～2020年度
9	神戸市バリアフリー基本構想	保健福祉局	2011年度～2020年度
10	第3次神戸市人権教育・啓発に関する基本計画	保健福祉局	2016年度～2020年度
11	神戸市保健医療計画	保健福祉局	2013年度～2017年度
12	健康こうべ 2017	保健福祉局	2013年度～2017年度
13	神戸市食育推進計画（第3次）	保健福祉局	2016年度～2020年度
14	第6期神戸市介護保険事業計画・神戸市高齢者保健福祉計画	保健福祉局	2015年度～2017年度
15	神戸市障がい者保健福祉計画 2020	保健福祉局	2016年度～2020年度
16	第4期神戸市障がい福祉計画	保健福祉局	2015年度～2017年度
17	神戸いのち大切プラン	保健福祉局	2011年度～2016年度
18	新・神戸っ子すこやかプラン	こども家庭局	2016年度～2019年度
19	神戸市環境マスタープラン	環境局	2016年度～2025年度
20	環境モデル都市アクションプラン（1期）	環境局	2014年度～2018年度
21	神戸市地球温暖化防止実行計画	環境局	2015年度～2030年度
22	神戸市一般廃棄物処理基本計画	環境局	2016年度～2025年度
23	生物多様性神戸プラン	環境局	2016年度～2025年度
24	食都神戸 2020 構想	産業振興局	2016年度～2020年度
25	六甲山森林整備戦略	建設局	2011年度～2050年度
26	みちづくり計画	建設局	2011年度～2025年度
27	神戸市自転車利用環境総合計画	建設局	2012年度～2025年度
28	橋梁長寿命化修繕計画	建設局	2008年度～（概ね50年）
29	トンネル長寿命化計画	建設局	2012年度～（概ね50年）
30	道路防災計画	建設局	2011年度～2018年度
31	神戸市下水道長期計画基本構想	建設局	1996年度～2025年度
32	こうべアクアプラン 2020	建設局	2016年度～2020年度
33	神戸市緑の基本計画（グリーンこうべ 21 プラン）	建設局	2000年度～2025年度
34	公園施設長寿命化計画	建設局	2011年度～（概ね10年）
35	神戸市都市計画マスタープラン	住宅都市局	2011年度～2025年度
36	神戸スマート都市づくり計画	住宅都市局	2012年度～2025年度
37	神戸らしい景観づくりの指針	住宅都市局	2012年度～
38	神戸市都市景観形成基本計画	住宅都市局	1982年度～
39	神戸市総合交通計画	住宅都市局	2013年度～2025年度
40	神戸市住生活基本計画	住宅都市局	2011年度～2020年度
41	神戸市空家等対策計画	住宅都市局	2016年度～2020年度
42	神戸市建築物安全安心実施計画（第4次）	住宅都市局	2014年度～2018年度
43	（仮称）神戸市耐震改修促進計画	住宅都市局	2016年度～2020年度
44	みなと神戸ーいきいきプラン	みなと総局	2004年度～（概ね10年後）
45	神戸港湾計画	みなと総局	2005年度～2010年代半ば頃
46	神戸市消防基本計画 第1部ランドデザイン 第2部アクションプラン	消防局	2011年度～2025年度 2016年度～2020年度
47	神戸水道ビジョン 2025	水道局	2016年度～2025年度
48	神戸市水道施設耐震化基本計画	水道局	1995年度～
49	神戸市営交通事業 経営計画 2020	交通局	2016年度～2020年度
50	第2期・神戸市教育振興基本計画	教育委員会	2014年度～2018年度
51	神戸市生涯学習総合計画	教育委員会	2014年度～2018年度

## 5. 2020 神戸創生懇話会名簿 | 五十音順、敬称略

### 【凡例】

☆印 | 2020 神戸創生懇話会座長

◎印 | 神戸 2020 ビジョン策定に向けた有識者検討会議座長を兼務

○印 | 神戸 2020 ビジョン策定に向けた有識者検討会議委員を兼務

### 1 産業界 | 9名

植村 武雄	神戸経済同友会 顧問
大西 功一	兵庫工業会 会長
草薙 信久	兵庫県経営者協会 専務理事
小山 喜三	神戸市商店街連合会 会長
谷口 義博	神戸市機械金属工業会 会長
村田 泰男	神戸商工会議所 専務理事
山田 隆義	神戸市漁業協同組合 代表理事組合長
吉田 康弘	兵庫六甲農業協同組合 代表理事副組合長
吉森 直紀	一般社団法人神戸青年会議所 理事長

### 2 関係行政機関 | 1名

太田 和成	兵庫県 神戸県民センター長
-------	---------------

### 3 学識経験者 | 6名

☆◎加藤 恵正	兵庫県立大学政策科学研究所 教授・所長
○嘉名 光市	大阪市立大学大学院工学研究科 准教授
○栗木 契	神戸大学大学院経営学研究科 教授
齊木 崇人	神戸芸術工科大学 学長
○西垣 千春	神戸学院大学総合リハビリテーション学部社会リハビリテーション学科 教授
○藤野 敦子	京都産業大学経済学部 教授

### 4 金融機関 | 6名

大淵 和夫	株式会社三井住友銀行 公務法人営業第二部長
城戸 茂樹	野村證券株式会社 神戸支店長
西多 弘行	神戸信用金庫 理事長
野田 祐司	株式会社日本政策金融公庫 神戸支店長
野原 強	日本銀行 神戸支店長
森田 成敏	株式会社みなと銀行 地域戦略部理事部長

### 5 労働団体 | 2名

植村 武史	神戸労働者福祉協議会 会長
筒井 務	連合神戸地域協議会 議長

## 6 メディア | 4名

太田 貞夫	株式会社神戸新聞社 神戸新聞パートナーセンター長
槇山 淳	NHK 神戸放送局長
宮田 英和	株式会社サンテレビジョン 取締役
桃田 武司	株式会社ラジオ関西 代表取締役社長

## 7 市民・事業者等 | 51名

浅木 隆子	北野・山本地区をまもり、そだてる会 会長
池内 正	社会福祉法人神戸市身体障害者団体連合会 理事長
伊藤 清彦	神戸市薬剤師会 会長
井上 智津子	西区連合婦人会 会長
岩佐 光一朗	神戸市自治会連絡協議会 会長
岩田 弘三	Feel Kobe 観光推進協議会 会長、株式会社ロック・フィールド 代表取締役会長
大塚 喜治	東垂水商店市場連絡協議会 事務局長
大〇 正忠	一般社団法人神戸市老人クラブ連合会 理事長
岡本 勝利	長田区自治会連絡協議会 会長
置塩 隆	神戸市医師会 会長
億川 潔	神戸市歯科医師会 会長
加地 幸夫	神戸市PTA協議会 会長
加藤 隆久	神戸芸術文化会議 議長
加藤 琢二	神戸旅客船協会 会長
北井 道男	神戸市消防協会 会長
久利 計一	KOBE 三宮・ひと街創り協議会 会長
黒川 恭眞	公益社団法人神戸市私立保育園連盟 会長
小池 弘三	須磨区社会福祉協議会 理事長
後藤 久美子	一般社団法人神戸市手をつなぐ育成会 会長
小林 晋一	灘区子ども会連合会 会長
佐伯 邦治	兵庫県港運協会 会長
坂本 津留代	特定非営利活動法人ニューいぶき 理事長
佐々木 利雄	須磨区自治会連合会 会長
佐山 由美子	長田区主任児童委員連絡会 会長
曹 英生	南京町景観形成協議会 代表委員
高尾 ひろ子	北区連合婦人会 会長
竹中 ナミ	社会福祉法人プロップ・ステーション 理事長
田中 まこ	神戸フィルムオフィス 代表
玉田 はる代	神戸市婦人団体協議会 会長
玉森 たりほ	須磨区連合婦人会 会長
樽谷 清	北区連合自治協議会 会長
中後 和子	公益社団法人神戸市私立幼稚園連盟 理事長

辻 幸志	特定非営利活動法人こうべユースネット 理事長
〇本 照男	西区自治協議会 会長
中田 裕子	生活協同組合コープこうべ 理事
中野 則子	兵庫県看護協会 会長
中村 順子	特定非営利活動法人コミュニティ・サポートセンター神戸 理事長
中山 辰己	神戸市地域改善まちづくり協議会 会長
永吉 一郎	株式会社神戸デジタルラボ 代表取締役
野崎 隆一	特定非営利活動法人神戸まちづくり研究所 理事長
長谷川 和子	つつじが丘ふれあいのまちづくり協議会 委員長
林 正好	シスメックス株式会社 取締役専務執行役員
廣瀬 隆作	東灘区自治会連絡協議会 会長
藤浪 芳子	昭和精機株式会社 代表取締役会長
松井 年孝	神戸市老人福祉施設連盟 理事長
宮本 さち	兵庫県LD親の会「たつの子」 代表
森田 祐子	中央区連合婦人会 会長
矢崎 和彦	株式会社フェリシモ 代表取締役社長
山本 孝子	東灘区連合婦人会 会長、東灘区社会福祉協議会 理事長
横山 直己	神戸諏訪山ふれあいのまちづくり協議会 委員長
渡邊 攝子	兵庫区連合婦人会 会長

## 8 市会議員 | 6名

川内 清尚	民主こうべ 神戸市会議員
新原 秀人	維新の党・民主党 神戸市会議員
住本 かずのり	神戸維新の会 神戸市会議員
高瀬 勝也	公明党 神戸市会議員
森本 真	日本共産党 神戸市会議員
吉田 健吾	自由民主党 神戸市会議員

## 6. 審議経過

計画策定にあたっては、平成 27 年 3 月に「準備会」を行い、平成 27 年 4 月に「有識者検討会議」を設置し、有識者からの意見をいただきました。同年 8 月には産官学金労言及び住民、議会の幅広い層で構成される「神戸創生懇話会」を設置し、幅広く意見をいただきました。

### 1 神戸 2020 ビジョン策定に向けた有識者準備会

	開催日	議題
第 1 回	平成 27 年 3 月 13 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 5 年後に神戸市が目指すべき姿、その実現のために大切なことは何か</li> <li>● 神戸 2020 ビジョン(仮称)策定のための有識者会議での検討テーマの議論のために必要なことは何か</li> </ul>

### 2 神戸 2020 ビジョン策定に向けた有識者検討会議

	開催日	議題
第 1 回	平成 27 年 4 月 27 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 神戸市の現状のデータに基づく、「神戸 2020 ビジョン」策定に向けた視点及び全体構成についての議論</li> </ul>
第 2 回	平成 27 年 5 月 22 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 今後の神戸市の人口動態に関する有識者会議委員からの報告</li> <li>● 神戸市の産業・就業構造データに基づく議論</li> </ul>
第 3 回	平成 27 年 6 月 25 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 神戸 2015 ビジョン施策の総括の報告</li> <li>● 神戸 2020 ビジョンに向けた重点施策(案)の検討</li> </ul>
第 4 回	平成 27 年 7 月 30 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 神戸 2020 ビジョン全体構造イメージの検討</li> <li>● 重点施策の検討</li> </ul>
第 5 回	平成 27 年 8 月 31 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 神戸 2020 ビジョンの検討</li> </ul>
第 6 回	平成 27 年 9 月 30 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 神戸 2020 ビジョンの検討</li> </ul>

### 3 2020 神戸創生懇話会

	開催日	議題
第 1 回	平成 27 年 8 月 20 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 神戸の人口の現状と将来シミュレーション(神戸人口ビジョン(案))</li> <li>● 神戸 2020 ビジョン及び神戸創生戦略策定の進捗状況</li> </ul>
第 2 回	平成 27 年 9 月 17 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 神戸創生戦略策定に向けた進捗状況 (神戸創生戦略の体系及び具体的事業例を紹介)</li> </ul>
第 3 回	平成 27 年 11 月 26 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 神戸 2020 ビジョン(素案)についての説明</li> </ul>

#### 4 増田寛也氏（神戸市顧問）による特別講演

国の創生戦略を担う「まち・ひと・しごと創生会議」委員であり、神戸市顧問増田寛也氏を講師に迎え、人口減少期を迎えた神戸市の実情も踏まえながら、地方創生の実相についてお話いただきました。

開催日	議題
平成 27 年 9 月 17 日	● 「人口減少を克服するためにー地方創生の実相とはー」

## 7. 計画策定への市民参画

### 1 神戸創生戦略プロジェクトチーム 施策討議会

社会動態対策や自然動態対策に係る各施策テーマ（「産業、雇用」、「起業、新産業」、「安全・安心、教育」、「国際化、ダイバーシティ」、「交通、住環境」、「結婚、出産、子育て支援」、「ワークライフバランス、女性の活躍、男性の育児参加」など）に応じて、テーブルごとに分かれて議論し、課題解決に向けた具体的な事業アイデアを創出しました。

開催日	参加者	提出されたアイデア数
平成 27 年 7 月 12 日	189 名   学識経験者 51 名、市民・事業者等 92 名 市職員 46 名（公募した若手職員 12 名含）	事業アイデア   346 件 事業案へ掘り下げ   45 件

### 2 「神戸創生 新たな都市魅力・活力創造プロジェクト」事業提案募集

神戸創生戦略プロジェクトチームの活動の一環として、「新たな都市魅力・活力創造チーム」では、官民協働により神戸に新たな都市産業・都市文化を創出し、神戸市の人口減少克服・地方創生に資することを目的として、「神戸創生 新たな都市魅力・活力創造プロジェクト」の事業提案募集を実施しました。

募集期間	件数
平成 27 年 6 月 25 日～平成 27 年 7 月 13 日	54 件

### 3 神戸創生戦略にかかる事業提案募集

「神戸創生戦略プロジェクトチーム」や「2020 神戸創生懇話会」のメンバー以外の方からも幅広く事業アイデアを募集するため、市民・事業者等向けに事業提案募集を実施しました。

募集期間	件数
平成 27 年 6 月 18 日～平成 27 年 7 月 13 日	35 件

### 4 「神戸 2020 ビジョン（素案）」に対する意見募集

募集期間	意見通数・件数
平成 27 年 12 月 8 日～平成 28 年 1 月 15 日	105 通・279 件

## 5 市長との対話フォーラム

若者の視点や発想をビジョンに反映させるため、市長との対話フォーラムを開催しました。

開催日	参加者	件数
平成 27 年 12 月 19 日	公募により募集した 16 歳～28 歳の若者 32 名	38 件

## 6 市長と学長との懇談会（第 27 回）

開催日	議題
平成 27 年 11 月 13 日	「若者に選ばれるまち」

## 7 「デザイン都市・神戸」創造会議（第 2 回）

開催日	議題
平成 27 年 8 月 28 日	「デザイン都市・神戸」の未来について ～2020 ビジョンと神戸のプロモーションを中心に～

### 【参考】今後の神戸市の人口動態に関する有識者会議

本市の人口動態及び将来人口やその構成が今後どのように変化するかを分析するとともに、将来人口とそのまちづくりのあり方について、外部有識者に議論、検討していただきました。

座長 | 中川 聡史 埼玉大学大学院人文社会科学部 教授

(会議開催、研究時は神戸大学大学院経済学研究科 准教授)

委員 | 足立 泰美 甲南大学経済学部 准教授

委員 | 伊藤 亜都子 神戸学院大学現代社会学部社会防災学科 教授

開催日	議題
平成 26 年 7 月 1 日	● 過去及び現在の人口動態等について
平成 26 年 10 月 22 日	● 極点社会回避のための処方箋(増田寛也氏による講演) ● 神戸市の人口動態の変化と要因等について
平成 27 年 3 月 5 日	● 各委員からの研究報告及び意見交換



【問い合わせ】

**神戸市 企画調整局 企画課**

〒650-8570 神戸市中央区加納町 6-5-1

TEL : 078-322-6951



この印刷物は、印刷用の紙へ  
リサイクルできます。

(神戸市広報印刷物登録 平成 28 年度 第 602 号 A-1 類)